

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウダイン ショウトウカクケン 学校法人 修道学園									
フリガナ大学の名称	ヒロシマシュウトウカクイブク 広島修道大学（Hiroshima Shudo University）									
大学本部の位置	広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号									
大学の目的	<p>本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地球の視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を理念に掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を涵養することを目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>国際コミュニティ学部は、Think Globally, Act Locally を念頭に、地域社会と国際社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけ、良識と教養ある判断力を備えた市民の育成を目的とする。</p> <p>国際政治学科は、日本と世界のさまざまな問題に対する知識と理解力を持ち、深い教養と良識、多言語多文化社会におけるコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。</p> <p>地域行政学科は、地域社会のさまざまな課題に関する知識と理解力を持ち、多様な人々と協働して課題を解決するコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	年	入学定員 人	編入学定員 年次 人	収容定員 人	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次 年 月 第 年次	所在地		
	国際コミュニティ学部 [Faculty of Global and Community Studies]							広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号		
	国際政治学科 [Department of Global Politics]	4	75	—	300	学士 (国際政治学)	平成30年4月 第1年次			
	地域行政学科 [Department of Regional Administration]	4	75	—	300	学士 (地域行政学)	平成30年4月 第1年次			
	計		150	—	600					
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		<p>広島修道大学</p> <p>商学部 経営学科〔定員減〕 (△15)</p> <p>法学部 法律学科〔定員減〕 (△25)</p> <p>国際政治学科(廃止) (△80)</p> <p>※平成30年4月学生募集停止</p> <p>人間環境学部 人間環境学科〔定員減〕 (△30)</p> <p>人文科学研究科 心理学専攻(博士前期課程)〔定員増〕 (9)</p>								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	国際コミュニティ学部国際政治学科		310科目	19科目	72科目	401科目	124単位			
国際コミュニティ学部地域行政学科		315科目	19科目	72科目	406科目	124単位				
新設分	学部等の名称			専任教員等					兼任 教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
				人	人	人	人	人	人	人
	国際コミュニティ学部 国際政治学科			6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	178 (135)
地域行政学科			6 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	182 (135)	
計			12 (11)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	17 (16)	0 (0)	360 (270)	

教員組織の概要

既設分	商学部	商学科	8 (9)	3 (2)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	65 (67)
		経営学科	7 (8)	5 (4)	0 (0)	1 (2)	13 (14)	0 (0)	62 (64)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	9 (9)	1 (1)	2 (2)	1 (0)	13 (12)	0 (0)	197 (197)
		教職課程担当	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	10 (10)
	経済科学部	現代経済学科	6 (6)	3 (2)	0 (0)	1 (2)	10 (10)	0 (0)	44 (44)
		経済情報学科	9 (8)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	11 (12)	0 (0)	49 (49)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	206 (206)
		教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)
	人文学部	人間関係学科 社会学専攻	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	69 (69)
		教育学科	9 (8)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	226 (226)
		英語英文学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	56 (56)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	207 (207)
		教職課程担当	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	23 (23)
	法学部	法律学科	8 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (16)	0 (0)	46 (46)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	199 (199)
		教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)
	人間環境学部	人間環境学科	10 (10)	3 (2)	0 (0)	1 (2)	14 (14)	0 (0)	55 (55)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	214 (214)
		教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)
	健康科学部	心理学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	176 (150)
	健康栄養学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	5 (5)	163 (141)	
	全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	196 (196)	
	教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (13)	
	計	122 (124)	38 (36)	10 (10)	10 (13)	180 (183)	5 (5)	2,322 (2,276)	
合 計		138 (139)	43 (41)	10 (10)	11 (14)	202 (204)	5 (5)	2,682 (2,546)	

教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任	計
	事 務 職 員	122 (113)	65 (74)	187 (187)
	技 術 職 員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図 書 館 専 門 職 員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	そ の 他 の 職 員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	122 (113)	65 (74)	187 (187)

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計
	校 舎 敷 地	36,805㎡	0㎡	0㎡	36,805㎡
	運 動 場 用 地	101,957㎡	0㎡	0㎡	101,957㎡
	小 計	138,762㎡	0㎡	0㎡	138,762㎡
	そ の 他	200,113㎡	0㎡	0㎡	200,113㎡
	合 計	338,875㎡	0㎡	0㎡	338,875㎡

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		70,640㎡ (70,640㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	70,640㎡ (70,640㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	98室	17室	65室	18室 (補助職員一人)	7室 (補助職員一人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		国際コミュニティ学部国際政治学科		8 室							
		国際コミュニティ学部地域行政学科		9 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なた め、大学全体 の敷			
	国際コミュニティ学部	913,652 [243,367] (874,652 [236,827])	5,612 [2,495] (5,612 [2,495])	12,918 [12,298] (12,918 [12,298])	23,240 (22,730)	— (—)	— (—)				
	計	913,652 [243,367] (874,652 [236,827])	5,612 [2,495] (5,612 [2,495])	12,918 [12,298] (12,918 [12,298])	23,240 (22,730)	— (—)	— (—)				
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体					
		11,700㎡	948	1,200,000							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
		8,871㎡	屋内プール1面	野球場1面	陸上競技場1面	アーチェリー場1面					
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電 子ジャーナル・データ ベース整備費 (運用 コスト含む) を含む
		教 員 1人当り 研究費等	国際政治学科		676千円	676千円	676千円	676千円	—千円	—千円	
			地域行政学科		676千円	676千円	676千円	676千円	—千円	—千円	
		共 同 研究費等	国際政治学科		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
			地域行政学科		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
		図 書 購 入 費	国際政治学科	0千円	2,983千円	4,730千円	6,438千円	8,196千円	—千円	—千円	
		地域行政学科	0千円	2,983千円	4,730千円	6,438千円	8,196千円	—千円	—千円		
	設 備 購 入 費	国際政治学科	0千円	1,697千円	6,103千円	10,888千円	5,429千円	—千円	—千円		
		地域行政学科	0千円	1,697千円	6,103千円	10,888千円	5,429千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	商学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	人文学部人間関係学科社会学専攻		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	人文学部教育学科		1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	—千円	—千円			
	人文学部英語英文学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	法学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	経済科学部現代経済学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	経済科学部経済情報学科		1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	—千円	—千円			
	人間環境学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	健康科学部心理学科		1,260千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	—千円	—千円			
	健康科学部健康栄養学科		1,340千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	—千円	—千円			
国際コミュニティ学部国際政治学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円				
国際コミュニティ学部地域行政学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
大 学 の 名 称		広島修道大学									
既設大学等の状況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	商学部	年	人	年次 人	人		1.12		広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号		
	商学科	4	155	—	620	学士(商学)	1.12	昭和35年度			
	経営学科	4	155	—	620	学士(経営学)	1.12	昭和38年度			
	経済科学部						1.18				
	現代経済学科	4	115	—	460	学士(経済科学)	1.19	平成9年度			
	経済情報学科	4	115	—	460	学士(経済科学)	1.16	平成9年度			
	人文学部						1.14				
	人間関係学科 社会学専攻	4	60	—	240	学士(文学)	1.19	昭和48年度			
	教育学科	4	100	—	400	学士(教育学)	0.99	平成28年度			
	英語英文学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.12	昭和48年度			
	法学部						1.13				
	法律学科	4	220	—	880	学士(法学)	1.10	昭和51年度			
	国際政治学科	4	80	—	320	学士(国際政治学)	1.21	平成2年度			
	人間環境学部						1.18				
	人間環境学科	4	145	—	580	学士(人間環境学)	1.18	平成14年度			
健康科学部						1.02					
心理学科	4	80	—	320	学士(心理学)	1.06	平成29年度				
健康栄養学科	4	80	—	320	学士(栄養学)	0.98	平成29年度				

商学研究科						0.36	
商学専攻						0.20	
博士前期課程	2	8	—	16	修士（商学）	0.18	昭和46年度
博士後期課程	3	2	—	6	博士（商学）	0.25	昭和48年度
経営学専攻						0.46	
博士前期課程	2	12	—	24	修士（経営学）	0.58	昭和52年度
博士後期課程	3	3	—	9	博士（経営学）	0.00	昭和52年度
経済科学研究科						0.18	
現代経済システム専攻						0.20	
博士前期課程	2	8	—	16	修士（経済学又は経済情報）	0.18	平成13年度
博士後期課程	3	2	—	6	博士（経済学）	0.25	平成15年度
経済情報専攻						0.17	
博士前期課程	2	8	—	16	修士（経済学又は経済情報）	0.21	平成13年度
博士後期課程	3	2	—	6	博士（経済情報）	0.00	平成15年度
人文科学研究科						0.16	
心理学専攻						0.17	
博士前期課程	2	5	—	10	修士（心理学）	0.10	昭和53年度
博士後期課程	3	2	—	6	博士（心理学）	0.37	昭和56年度
社会学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（社会学）	0.10	昭和59年度
教育学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（教育学）	0.15	昭和59年度
英文学専攻						0.18	
博士前期課程	2	5	—	10	修士（文学）	0.30	昭和53年度
博士後期課程	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	昭和56年度
法学研究科						0.56	
法学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（法学）	1.15	昭和56年度
国際政治学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（国際政治学）	0.27	平成6年度
附属施設の概要	該当なし						

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																	
(国際コミュニティ学部国際政治学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
修道スタンダード科目	全学共通科目	修大基礎講座	1①	2		○			1	1							オムニバース
		初年次セミナー	1②	2		○				1			1				兼1
		情報処理入門Ⅰ	1①～②	2		○											兼2
		情報処理入門Ⅱ(情報と表現)	1・2①～④	2		○											兼5
		情報処理入門Ⅱ(情報と分析)	1・2①～④	2		○											兼6
		大学生活とキャリア形成	2①～②	2		○											兼3
		オムニバース															
	小計(6科目)	—	2	10	0	—	—	—	1	1	0	1	0			兼10	
グローバル科目	留学生教育科目	日本語Ⅰ	1・2②・①～②	1				○									兼3
		日本語Ⅱ	1・2④・③～④	1				○									兼2
		日本語Ⅲ	1・2①・①～②	1				○									兼3
		日本語Ⅳ	1・2③・③～④	1				○									兼3
		日本語Ⅴ	1・2②・①～②	1				○									兼2
		日本語Ⅵ	1・2④・③～④	1				○									兼3
		日本語Ⅶ	1・2①・①～②	1				○									兼3
		日本語Ⅷ	1・2③・③～④	1				○									兼2
		アカデミック日本語	1・2①～②	2			○										兼1
		ビジネス日本語	1・2③～④	2			○										兼1
		日本研究(日本の政治)	1・2①～②	2			○										兼1
		日本研究(日本の民俗)	1・2③～④	2			○										兼1
		日本研究(日本の経済)	1・2③～④	2			○										兼1
	小計(13科目)	—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0			兼9	
留学支援教育科目	留学スタートアップ	1・2①・③	1			○											兼1
	留学英語入門(海外生活Ⅰ)	1・2①～②	2			○											兼1
	留学英語入門(海外生活Ⅱ)	1・2③～④	2			○											兼1
	留学英語入門(TOEFL/IELTS)	1・2①～②	2			○											兼1
	英語圏留学入門	1・2①・②・③・④	1			○											兼2
	アジア圏留学入門	1・2②・④	1			○											兼1
	外国語としての日本語	1・2①～④	2			○											兼1
	留学フォローアップ	1・2①・③	1			○											兼1
	グローバル特講Ⅰ	1①～②	2			○											兼2
	グローバル特講Ⅱ	1④	1			○											兼1
	グローバル特講Ⅲ	2①～②	2			○											兼1
	グローバル特講Ⅳ	3①	1			○											兼1
	海外研修A	1～3	1			○											兼1
	海外研修B(CCCU/General English Topic 1)	1～3	2			○											兼1
	海外研修B(RMIT/Reading 1)	1～3	2			○											兼1
	海外研修B(RMIT/Writing 1)	1～3	2			○											兼1
	海外研修B(RMIT/Listening 1)	1～3	2			○											兼1
	海外研修B(RMIT/Speaking 1)	1～3	2			○											兼1
	海外研修B(AIC/New Zealand Studies)	1～3	2			○											兼1
	海外研修C(CCCU/General English Skills 1)	1～3	3			○											兼1
	海外研修D(AIC/Conversational English)	1～3	4			○											兼1
	海外研修D(AIC/Written English)	1～3	4			○											兼1
	海外研修D(PIA/Experience America)	1～3	4			○											兼1
	海外研修D(ASU/Intensive English)	1～3	4			○											兼1
海外研修E(CCCU/General English Core 1)	1～3	5			○											兼1	
	小計(25科目)	—	0	55	0	—	—	—	0	0	0	0	0			兼8	



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	教養講義(情報環境論)	1・2③～④		2		○									兼1
	教養講義(ヒトの生命科学)	1・2③～④		2		○									兼1
	教養講義(応用数学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(近現代の哲学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(終末期医療と倫理)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(人間と生命の倫理学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(人生の探究としての倫理学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(愛の倫理的考察)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(西洋美術の図像学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(浮世絵)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(神仏と芸能)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代日本語の特質)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(英語と日本語)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(ことばと社会)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(ピアノ講座)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(声楽と合唱)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(教育文化論)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(歴史人類学)	1・2④		2		○									兼1
	総合教養講義a(歴史と社会)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(グローバル化と経済)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(ベーシック・ファイナンス)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(コーポレートファイナンス入門)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(働く人のための経営学)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会とマーケティング)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(家族と法)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(事例で学ぶ民法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(国際社会と法)	1・2①～②		2		○			1						
	総合教養講義a(近代日本と戦争)	1・2④		2		○					1				
	総合教養講義a(中国の歴史と社会)	1・2②		2		○			1						
	総合教養講義a(生命の化学)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(病気の生物学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(大気の問題と生態系)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(生物多様性保全の環境問題)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(キリスト教倫理)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(芸術文化学)	2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(和紙)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(メディア論)	2①～②		2		○			1						
	総合教養講義b(社会保障論)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2①		2		○									兼1
	総合教養講義b(地方政治のしくみ)	2④		2		○									兼2
	総合教養講義b(国際理解)	2③～④		2		○			1						
	総合教養講義b(生命情報論)	2①～②		2		○									兼1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2①～②		2		○			1						兼11
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2①～④		2		○									兼4

注: 兼1・兼2

オムニバス  
オムニバス

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	小計 (94科目)	—	0	188	0	—	—	—	4	1	0	1	0	兼64
外国 語科 目	英語リスニングⅠ	1①		1				○						兼4
	英語リスニングⅡ	1②		1				○						兼4
	英語リスニングⅢ	1①		1				○						兼1
	英語リスニングⅣ	1②		1				○						兼1
	英語リスニングⅤ	1①		1				○						兼1
	英語リスニングⅥ	1②		1				○						兼1
	英語リーディングⅠ	1①～②		1				○						兼4
	英語リーディングⅡ	1④		1				○						兼4
	英語リーディングⅢ	1①～②		1				○						兼1
	英語リーディングⅣ	1④		1				○						兼1
	英語リーディングⅤ	1①～②		1				○						兼1
	英語リーディングⅥ	1④		1				○						兼1
	実用英語実習Ⅰ	1・2①～②		1				○						兼1
	実用英語実習Ⅱ	1・2③～④		1				○						兼1
	英語ライティング研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼3
	英語ライティング研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼3
	英語ライティング研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語ライティング研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語読解研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼4
	英語読解研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼4
	英語読解研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語読解研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語聴解研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼3
	英語聴解研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼3
	英語聴解研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語聴解研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語語法研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼2
	英語語法研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼2
	英語語法研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語語法研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼1
	資格英語研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼5
	資格英語研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼5
	資格英語研究Ⅲ	1・2①～②		2			○							兼2
	資格英語研究Ⅳ	1・2③～④		2			○							兼2
	資格英語研究Ⅴ	1・2①～②		2			○							兼1
	資格英語研究Ⅵ	1・2③～④		2			○							兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	1・2①～②		2			○							兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	1・2③～④		2			○							兼1
小計 (44科目)	—		0	74	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼25
初 修 外 国 語 科 目	ドイツ語Ⅰ	2①～②		1				○						兼2
	ドイツ語Ⅱ	2③～④		1				○						兼2
	ドイツ語Ⅲ	2①～②		1				○						兼2
	ドイツ語Ⅳ	2③～④		1				○						兼2
	フランス語Ⅰ	2①～②		1				○						兼2
	フランス語Ⅱ	2③～④		1				○						兼2
	フランス語Ⅲ	2①～②		1				○						兼2
	フランス語Ⅳ	2③～④		1				○						兼2

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スペイン語Ⅰ	2①～②		1				○							兼1
	スペイン語Ⅱ	2③～④		1				○							兼1
	スペイン語Ⅲ	2①～②		1				○							兼2
	スペイン語Ⅳ	2③～④		1				○							兼2
	中国語Ⅰ	2①～②		1				○							兼3
	中国語Ⅱ	2③～④		1				○							兼3
	中国語Ⅲ	2①～②		1				○							兼3
	中国語Ⅳ	2③～④		1				○							兼3
	韓国・朝鮮語Ⅰ	2①～②		1				○							兼2
	韓国・朝鮮語Ⅱ	2③～④		1				○							兼2
	韓国・朝鮮語Ⅲ	2①～②		1				○							兼2
	韓国・朝鮮語Ⅳ	2③～④		1				○							兼2
	言語と文化Ⅰ(ドイツ)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅱ(ドイツ)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅲ(ドイツ)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅳ(ドイツ)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅰ(フランス)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅱ(フランス)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅲ(フランス)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅳ(フランス)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅰ(スペイン)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅱ(スペイン)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅰ(中国)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅱ(中国)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅲ(中国)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅳ(中国)	3③～④		2		○									兼1
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	3①～②		2		○									兼2
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	3③～④		2		○									兼2
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	3①～②		2		○									兼1
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	3③～④		2		○									兼1
	上級外国語Ⅰ(ドイツ語)	3①～②		2		○									兼1
	上級外国語Ⅱ(ドイツ語)	3③～④		2		○									兼1
	上級外国語Ⅰ(フランス語)	3①～②		2		○									兼1
	上級外国語Ⅱ(フランス語)	3③～④		2		○									兼1
	上級外国語Ⅰ(スペイン語)	3①～②		2		○									兼1
	上級外国語Ⅱ(スペイン語)	3③～④		2		○									兼1
	上級外国語Ⅰ(中国語)	3①～②		2		○									兼1
	上級外国語Ⅱ(中国語)	3③～④		2		○									兼1
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	3①～②		2		○									兼1
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	3③～④		2		○									兼1
	小計(50科目)	—	0	80	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼26
保健 体育 科目	健康科学論	1・2①～④		2		○									兼3
	運動科学論	1・2③～④		2		○									兼1
	健康科学演習	1・2①～②		2			○								兼1
	運動科学演習	1・2③～④		2			○								兼1
	健康スポーツ実習(アダブテッド・スポーツ)	1・2③～④		1				○							兼2
	健康スポーツ実習(ゴルフ)	1・2①～④		1				○							兼2
	健康スポーツ実習(サッカー)	1・2①～④		1				○							兼1
	健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)	1・2①～②		1				○							兼1
	健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2①～④		1				○							兼1
	健康スポーツ実習(卓球)	1・2①～②		1				○							兼2
	健康スポーツ実習(テニス)	1・2①～④		1				○							兼3

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	1・2③～④		1				○								兼1	集中	
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	1・2①～④		1				○								兼1		
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	1・2③～④		1				○								兼1		
	健康スポーツ実習 (フットサル)	1・2①～④		1				○								兼1		
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	1・2③～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (アグアティックスポーツ)	1・2①～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	1・2①～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (サッカー)	1・2①～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	1・2①～④		1				○								兼2		
	運動スポーツ実習 (卓球)	1・2①～④		1				○								兼2		
	運動スポーツ実習 (テニス)	1・2①～④		1				○								兼3		
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	1・2①～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	1・2①～④		1				○								兼2		
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	1・2①～④		1				○								兼1		
	運動スポーツ実習 (フットサル)	1・2①～④		1				○								兼1		
	野外運動実習 I (キャンプ)	2・3①～②		1					○							兼2		集中
	野外運動実習 I (スキー)	2・3③～④		1					○							兼2		集中
野外運動実習 II (キャンプ発展)	2・3①～②		1					○							兼1	集中		
野外運動実習 II (スキー発展)	2・3③～④		1					○							兼1	集中		
小計 (30科目)	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼21			
主専攻科目	学部入門科目																	
	世界と地域	1①		1			○		5	1			1		兼13	社コマス・共同		
	異文化理解論	1①		2			○		1						兼2	オムニバス		
	日本と世界の現代史	1②		2			○		1				1		兼2	社コマス・共同		
	政治の考え方	1④		2			○								兼2	社コマス・共同		
	社会のしくみ	1②		2			○								兼2	社コマス・共同		
小計 (5科目)	—	—	0	9	0	—	—	5	1	0	1	0	0	兼13				
学科基礎科目	国際政治入門	1④		1			○		5	1			1		兼1	オムニバス		
	社会科学入門	1②		1			○		1						兼1	オムニバス		
	体験実践A	1③		2				○	5	1			1		兼1			
	体験実践B	1③		4				○	5	1			1		兼1			
	体験実践論	1③		1				○	1						兼3			
	小計 (5科目)	—	—	0	9	0	—	—	5	1	0	1	0	0	兼4			
国際コミュニティ学領域	Cross-Cultural Communication	1②		2			○								兼1			
	Hiroshima Studies	1①～②		2			○								兼1			
	Japan Studies	1③		2			○								兼1			
	Introduction to Research	1①・③		2			○								兼1			
	Introduction to Public Speaking	1②・④		2			○								兼1			
	Academic Research & Presentation	3①		2			○								兼1			
	Global/Regional Studies A (Modern China)	1・2②		1			○		1									
	Global/Regional Studies A (Japan's Foreign Policy in the International Aspects)	1・2①		1			○						1					
	Global/Regional Studies A (Introduction to Czech Modern History)	1・2④		1			○		1									
	Global/Regional Studies B (Miyajima Studies)	1・2③～④		2			○								兼1			
	Global/Regional Studies B (Understanding Global/Regional Issues)	1・2③		2			○		1									
	International Affairs (Peace and Security)	2・3④		1			○								兼1			
	International Affairs (Understanding International Issues)	2・3③		1			○		1									
	International Affairs (Reading some important articles of Foreign Affairs)	2・3②		1			○		1									
	International Affairs (Discussing stimulating arguments in Foreign Affairs)	2・3②		1			○		1									
小計 (15科目)	—	—	0	23	0	—	—	5	0	0	1	0	0	兼5				
国際政治領域	国際政治学	2・3①		2			○		1									
	国際組織論	2・3①		2			○		1									
	国際政治経済	2・3③		2			○		1									
	国際開発論	2・3②		2			○		1									
	国際協力論	3③		2			○		1									
	外交政策論	3③～④		2			○						1					

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	安全保障論	2・3④		2		○									兼1	集中
	平和学	2・3②		2		○									兼1	
	紛争と平和	3①～②		2		○									兼1	
	国際日本学	2・3③		2		○			1							
	国際ジャーナリズム論	2・3③～④		2		○			1							
	国際移動研究	3③		1		○			1							
	NGO・NPO論	3①～②		2		○			1							
	国際人権論	3①		2		○				1						
	国際政治特論A (ジェンダーと国際社会)	2・3③		1		○									兼1	
	国際政治特論B (核兵器と国際社会)	3・4①～②		2		○									兼1	
小計 (16科目)	—		0	30	0	—			4	1	0	1	0	兼3		
地域 研究 領域	日本政治外交史	2・3②		2		○							1			隔年  隔年 隔年 隔年  隔年
	東洋政治外交史	2・3①		2		○			1							
	西洋政治外交史	2・3③		2		○			1							
	政治と社会 (中国)	2・3④		2		○			1							
	政治と社会 (アメリカ)	2・3①		2		○			1							
	政治と社会 (ヨーロッパ)	3①～②		2		○			1							
	政治と社会 (中東)	3・4①～②		2		○			1							
	民族と社会	3①～②		2		○									兼1	
	文明論研究	3・4③		1		○			1							
	地域研究特論A (オセアニア)	2・3①		1		○			1							
	地域研究特論A (ロシア)	2・3②		1		○			1							
	地域研究特論A (東欧)	2・3②		1		○			1							
	地域研究特論A (中央ユーラシア)	2・3④		1		○									兼1	
	地域研究特論B (日欧比較文化)	3・4③～④		2		○									兼1	
地域研究特論B (韓国・朝鮮)	3・4③～④		2		○									兼1		
地域研究特論B (東南アジア)	3・4③～④		2		○									兼1		
小計 (16科目)	—		0	27	0	—			4	0	0	1	0	兼4		
政治・ 経済 領域	政治学概論	1・2①		2		○									兼1	集中
	政治思想	3③～④		2		○									兼1	
	日本の政治	2・3①		2		○									兼1	
	政治過程論	2・3②		2		○									兼1	
	憲法原論	2・3③～④		2		○									兼1	
	現代経済入門	1・2①～②		2		○									兼1	
	マクロ経済学	3・4①～②		2		○									兼1	
	国際経済論	3①～②		2		○									兼1	
	国際貿易論	3①～②		2		○									兼1	
	政治・経済特論A (裁判と法)	2・3②		1		○									兼1	
政治・経済特論B (政治と歴史認識)	3③～④		2		○									兼1		
小計 (11科目)	—		0	21	0	—			0	0	0	0	0	兼10		
学 科 連 携 科 目	行政学	3・4①		2		○									兼1	オムニバス
	地方自治論	3・4②		2		○									兼1	
	政策概論	3・4②		2		○									兼1	
	ソーシャルイノベーション論	3・4①		2		○									兼2	
	地域コミュニケーション	3・4②		2		○									兼1	
	社会政策論	3・4②		2		○									兼1	
	法律学概論	3・4③～④		2		○									兼4	
	国際法	2・3③		2		○				1						
	労働法	3・4①		2		○									兼1	
	社会調査論	3・4②		2		○				1						
	特別講義A (マスコミ文章講座)	2・3①・②・③・④		1		○									兼1	
	特別講義B (リサーチリテラシー)	3①		2		○									兼1	
	特別講義B (行政法)	3①～②		2		○									兼1	
小計 (13科目)	—		0	25	0	—			1	1	0	0	0	兼12		

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
演習科目	基礎演習	2①・③		2				○		4					兼1	集中
	ゼミナール a	3・4①～②		2				○		5	1		1		兼1	
	ゼミナール b	3・4③～④		2				○		5	1		1		兼1	
	卒業研究	4③～④		2				○		5	1		1		兼1	
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	—	—	5	1	0	1	0	兼2	
キャリア・実習科目	キャリアデザイン	3・4②		1				○							兼1	集中
	インターンシップ A	2・3通		2				○		5	1		1		兼1	
	インターンシップ B	2・3通		4				○		5	1		1		兼1	
	長期インターンシップ A	1・2通		4				○							兼1	
	長期インターンシップ B	1・2通		8				○							兼1	
	長期インターンシップ事前・事後指導	1・2通		1				○							兼1	
	地域プロジェクト A	3①～②		2				○							兼2	
	地域プロジェクト B	3③～④		2				○							兼2	
	グローバル・プロジェクト入門	3・4③		1				○							兼1	
	グローバル・プロジェクト A	3・4④		2				○							兼2	
	グローバル・プロジェクト B	3・4④		2				○							兼2	
小計 (11科目)	—	0	29	0	—	—	—	—	5	1	0	1	0	兼5		
学部関連科目	日本史概論 I	1①～②		2				○							兼1	オムニバス
	日本史概論 II	1・2③～④		2				○							兼1	
	東洋史概論 I	1①～②		2				○							兼2	
	東洋史概論 II	1・2③～④		2				○							兼1	
	西洋史概論 I	1①～②		2				○							兼1	
	西洋史概論 II	1・2③～④		2				○							兼1	
	人文地理学 I	2・3①～②		2				○							兼1	
	人文地理学 II	2・3③～④		2				○							兼1	
	自然地理学	2・3①～②		2				○							兼1	
	地誌 I	2・3①～②		2				○							兼1	
	地誌 II	2・3③～④		2				○							兼1	
	哲学概論 I	1①～②		2				○							兼1	
	哲学概論 II	1・2③～④		2				○							兼1	
	倫理学概論 I	1①～②		2				○							兼1	
	倫理学概論 II	1・2③～④		2				○							兼1	
小計 (15科目)	—	0	30	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10		
資格課程に関する科目	教職入門(中等)	1①～②			2			○							兼1	オムニバス
	教育心理学(中等)	2・3③～④			2			○							兼1	
	教育原理(中等)	1①～②			2			○							兼1	
	教育制度論(中等)	1③～④			2			○							兼1	
	中等社会科教育法 A	3①～②			2			○							兼1	
	社会科・地理歴史科教育法 A	3①～②			2			○							兼1	
	社会科・公民科教育法 A	3③～④			2			○							兼1	
	中等社会科教育法演習 A	3③～④			2			○							兼1	
	中等道德教育論	2③～④			2			○							兼1	
	中等特別活動論	2③～④			2			○							兼1	
	中等教育方法論	2①～②			2			○							兼1	
	中等生徒・進路指導論	2①～②			2			○							兼1	
	中等教育相談	2③～④			2			○							兼1	
	教育実習事前事後指導	3・4通			1			○							兼2	
	教育実習 I	3通			2										兼1	
	教育実習 II	4通			2										兼1	
	教職実践演習(中・高)	4③～④			2				○						兼4	
	差別問題論	1・2①～②			2			○							兼1	
	人権教育論	1③～④			2			○							兼1	
小計 (19科目)	—	0	0	37	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼13		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部国際政治学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
合計 (401科目)		-	2	688	37	-			6	1	0	1	0	兼179
学位又は称号		学士 (国際政治学)		学位又は学科の分野			法学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>・修道スタンダード科目6単位以上、グローバル科目及び共通教育科目合計22単位以上（グローバル科目4単位以上、教養科目8単位以上、外国語科目英語科目4単位以上、外国語科目初修外国語科目2単位以上及び保健体育科目実習科目1単位以上を含む）、学部入門科目5単位以上、学科基礎科目3単位以上（体験実践論1単位を含む）、学科科目40単位以上（国際コミュニケーション領域6単位以上、国際政治領域8単位以上、地域研究領域8単位以上、政治・経済領域6単位以上を含む）、学科連携科目4単位以上、演習科目4単位以上、キャリア・実習科目4単位以上を含む専攻科目70単位以上を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>・履修制限単位数：第1学期及び第2学期の合計、第3学期及び第4学期の合計の各々について24単位（ただし4年次に限り28単位）、年間44単位。</p>							1 学年の学期区分		4 期					
							1 学期の授業期間		8 週					
							1 時限の授業時間		90 分					





# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部地域行政学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	教養講義(応用統計学)	1・2③～④		2		○									兼1
	教養講義(情報環境論)	1・2③～④		2		○									兼1
	教養講義(ヒトの生命科学)	1・2③～④		2		○									兼1
	教養講義(応用数学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(近現代の哲学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(終末期医療と倫理)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(人間と生命の倫理学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(人生の探究としての倫理学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(愛の倫理的考察)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(西洋美術の図像学)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(浮世絵)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(神仏と芸能)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代日本語の特質)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(英語と日本語)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(ことばと社会)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(ピアノ講座)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(声楽と合唱)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(教育文化論)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(歴史人類学)	1・2④		2		○									兼1
	総合教養講義a(歴史と社会)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(グローバル化と経済)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(ベーシック・ファイナンス)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(ノーボレートファイナンス入門)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(働く人のための経営学)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会とマーケティング)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(家族と法)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(事例で学ぶ民法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業法)	1・2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(国際社会と法)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(近代日本と戦争)	1・2④		2		○									兼1
	総合教養講義a(中国の歴史と社会)	1・2②		2		○									兼1
	総合教養講義a(生命の化学)	1・2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義a(病気の生物学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(大気の問題と生態系)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(生物多様性保全の問題)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(キリスト教倫理)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(芸術文化学)	2①～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(和紙)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(メディア論)	2①～②		2		○									兼1
	総合教養講義b(社会保障論)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2①		2		○			1						兼1
	総合教養講義b(地方政治のしくみ)	2④		2		○			1	1					兼1
	総合教養講義b(国際理解)	2③～④		2		○									兼1
	総合教養講義b(生命情報論)	2①～②		2		○									兼1











# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部地域行政学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	倫理学概論Ⅱ	1・2③～④		2		○									兼1
	小計 (15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニティ学部地域行政学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
資格課程に関する科目	教職入門(中等)	1①～②			2	○										兼1
	教育心理学(中等)	2・3③～④			2	○										兼1
	教育原理(中等)	1①～②			2	○										兼1
	教育制度論(中等)	1③～④			2	○										兼1
	中等社会科教育法A	3①～②			2	○										兼1
	社会科・地理歴史科教育法A	3①～②			2	○										兼1
	社会科・公民科教育法A	3③～④			2	○										兼1
	中等社会科教育法演習A	3③～④			2	○										兼1
	中等道德教育論	2③～④			2	○										兼1
	中等特別活動論	2③～④			2	○										兼1
	中等教育方法論	2①～②			2	○										兼1
	中等生徒・進路指導論	2①～②			2	○										兼1
	中等教育相談	2③～④			2	○										兼1
	教育実習事前事後指導	3・4通			1	○										兼2
	教育実習Ⅰ	3通			2			○								兼1
	教育実習Ⅱ	4通			2			○								兼1
	教職実践演習(中・高)	4③～④			2		○									兼4
	差別問題論	1・2①～②			2	○										兼1
	人権教育論	1③～④			2	○										兼1
小計(19科目)	—		0	0	37	—			0	0	0	0	0	0	兼13	
合計(406科目)		—	2	677	37	—			6	3	0	0	0	0	兼183	
学位又は称号	学士(地域行政学)		学位又は学科の分野				法学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>・修道スタンダード科目6単位以上、グローバル科目及び共通教育科目合計22単位以上(教養科目8単位以上、外国語科目英語科目4単位以上、外国語科目初修外国語科目2単位以上及び保健体育科目実習科目1単位以上を含む)、学部入門科目5単位以上、学科基礎科目3単位以上(体験実践論1単位を含む)、学科科目40単位以上(政治領域18単位以上、行政領域10単位以上、政策領域6単位以上、法律領域6単位以上を含む)、学科連携科目4単位以上、演習科目4単位以上、キャリア・実習科目4単位以上を含む主専攻科目70単位以上を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>・履修制限単位数:第1学期及び第2学期の合計、第3学期及び第4学期の合計の各々について24単位(ただし4年次に限り28単位)、年間44単位。</p>							1学年の学期区分		4期							
							1学期の授業期間		8週							
							1時限の授業時間		90分							

オムニバス

教育課程等の概要（事前相談）

（〇〇学部〇〇学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
〇〇科目															
	小計（科目）	—	0	0	0	—									
△△科目															
	小計（科目）	—	0	0	0	—									
□□科目															
	小計（科目）	—	0	0	0	—									
〇〇科目															
	小計（科目）	—	0	0	0	—									
△△科目															
	小計（科目）	—	0	0	0	—									
合計（科目）		—				—									
学位又は称号		学位又は学科の分野													
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
							1学年の学期区分					期			
							1学期の授業期間					週			
							1時限の授業時間					分			

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部国際政治学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
修 道 ス タ ン ダ ー ド 科 目	全 学 共 通 科 目	<p>1年次生が大学での学びや大学生活に円滑に移行するために、大学生としての態度や姿勢を身に付け、大学の学びに必要な学習スキルを修得することを目的とします。具体的には、本の読み方、レポートの書き方などの学習スキルを学ぶ教員授業（計8回）と、大学における目標設定や時間管理、進路選択の前提となる自己分析、図書館利用などの情報収集法、地域連携等現在の本学の取組の概観など、部局授業（計7回）を組み合わせて実施します。内容を統一した教員授業は2クラス設置され、部局授業は学部合同で運営されます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 矢田部 順二・7 柳生 一成／8回) 授業ガイダンス、文章の読み方、文章の書き方、定期試験の位置づけと取り組み方・まとめ</p> <p>(6 矢田部 順二：学生センター／1回) 学生生活を円滑にするために</p> <p>(6 矢田部 順二：図書館／1回) 図書館活用法</p> <p>(6 矢田部 順二：キャリアセンター／1回) 自己発見と自律へのアプローチ</p> <p>(6 矢田部 順二：学習支援センター／3回) シラバスを読み直す ノートテイキング・スキル 大学生活における時間管理</p> <p>(6 矢田部 順二：ひろしま未来協創センター・総合企画課／1回) 地域に立脚した修大の歩みと将来像</p>	オムニバス方式	
		初年次セミナー	<p>国際政治学科の1年次生が、国際政治学の基礎に触れ、かつ、ゼミ形式の授業で必要となる能動的な学習姿勢を身に付けられるように、3クラスに分かれて実施される少人数授業です。教材を読み、まとめて、クラスに報告し、質疑する、という、ゼミ形式の授業運営を通じて、能動的な学びに必要な、情報収集、文献読解、文書作成、プレゼンテーション、質疑などの経験を積むことができます。なお、授業で取り上げられるテーマや教材は、クラスによって異なります。</p>	
		情報処理入門 I	<p>文書作成や表計算ソフトウェアの操作については、現実的な例題、問題の精選により最適な課題設定を行い、授業時間外学習も活用して基本技能の定着をめざします。情報モラルや著作権、セキュリティなど情報社会の課題、情報通信技術のしくみなど情報科学の基本的事項について可能な限り広範な領域を取り扱い、これらの学習内容をソフトウェア技能の修得と関連付けて、科目全体の一体化をはかります。入学後の早い段階で短期間のうちに修得し、大学における学習基盤として活用できることをめざします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部国際政治学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	情報処理入門Ⅱ (情報と表現)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。文書作成や画像編集を通じたコンテンツ制作を行い価値創出のプロセスを学びます。		
	情報処理入門Ⅱ (情報と分析)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。データ分析とモデル構築を行い、問題解決の枠組みを学習します。		
	大学生活とキャリア 形成	<p>講義（キャリア理論、労働基準法等）の他、フィールドワーク、ペア・ワーク、チームビルディングアクティビティ等、複数のワークを通して自律的キャリア形成力を獲得し、大学生活をマネジメントできるようになります。また、学士課程教育の目標であるディプロマ・ポリシー（思考・行動・態度）、社会人基礎力及びジェネリックスキルを涵養していきます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(101 山本 和史 3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・卒業生による講演「先輩から後輩に贈るメッセージ」</li> <li>・テーマ：「大学生活がキャリア（人生）を変える」</li> <li>・総括</li> </ul> <p>(101 山本 和史・167 古田 由美／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア（人生）とキャリア理論</li> <li>・チーム形成</li> <li>・キャリアの過去・現在・未来を考える～自己認知～</li> <li>・コミュニケーション能力とプレゼンテーションの基本</li> <li>・ニュースの情報共有</li> <li>・キャリアの課題</li> </ul> <p>(101 山本 和史・139 高野 真之・167 古田 由美／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシースキル～パワーポイント作成 No.1～</li> <li>・コンピテンシースキルを培う～パワーポイント作成 No.2～</li> <li>・コンピテンシースキルを高める（P-D-C-A）～パワーポイント作成 No.3～</li> <li>・ジェネリックスキル～パワーポイント作成 No.4～</li> <li>・パワーポイント完成～パワーポイント作成 No.5～</li> <li>・プレゼンテーション大会</li> </ul>	オムニバス方式	
グ ロ ー バ ル 科 目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。実際の使用例に触れながら、仮名、漢字、表記、語構成、語彙の体系などの基礎について学びます。	
		日本語Ⅱ	文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字、表記、語構成、語彙の体系などの基礎をふまえ、あらゆる場面に対応できる能力を身につけます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語Ⅲ	文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際的な場面での使用へと発展させます。各レベルにおいて習得すべき文法項目の約半分を扱います。	
	日本語Ⅳ	文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際的な場面での使用へと発展させます。各レベルにおいて習得すべき文法項目の残りの半分を扱います。	
	日本語Ⅴ	文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅵ	文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのレベルに応じた活動に取り組みます。	
	日本語Ⅶ	音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話スキルの習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅷ	音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話技能の習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためにレベルに応じた活動にも取り組みます。	
	アカデミック日本語	大学における専門的な学びに必要とされる「資料を読む、講義を聴く、レポート・論文を書く、ディスカッション・プレゼンテーションをする」などのスタディ・スキルの習得をめざすとともに、さまざまな課題に取り組むことで実践的運用能力を高めることをねらいとします。日本語能力試験N1レベル程度の授業を展開します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ビジネス日本語	日本国内での就労において求められる上級レベルの日本語運用能力の習得とビジネスマナー、ビジネス文書作成、職場での会話表現などの技能を身につけることを目的とします。また、企業での就労を視野に入れた実践力を強化します。日本語能力試験N1レベル程度の授業を展開します。	
	日本研究 (日本の政治)	留学生を対象に、日本の政治の仕組みや実態を概観します。日本の政治がどのような仕組みによって動いているのか、また、いかなる集団が活動しているのかなどについて、できるだけ分かりやすく説明します。また、第二次世界大戦後の日本の政治がどのような軌跡を辿ってきたのかについても概説します。基本的には講義形式となりますが、適宜、留学生による報告等も取り入れる予定です。こうしたことを通じて、日本の政治の概要を自分の言葉で説明できるようになることが目標です。	
	日本研究 (日本の民俗)	「日本」を知るための入門講座で、文化、政治経済、社会などのテーマに関する知識・経験を深めることを目的とします。講義に加えて、プロジェクト・ワークを取り入れることで、自ら情報収集・考察・発表する力を養成します。この科目では昔話の考察・分析を通して現代にも受け継がれている日本の精神文化に焦点をあてます。	
	日本研究 (日本の経済)	経済を読み解く基礎的な力を養いながら、日本経済について学びます。基礎的な経済用語の理解を通じて、経済のしくみについて学んだ後、その経済知識をもとに、戦後70年における日本経済の発展過程を検証した上で、現在の日本経済が抱える諸問題を明らかにします。加えて、東アジア諸国・地域との連関にも触れ、共生という視点から東アジア発展の課題について考察します。	
留学 支援 教育 科目	留学スタートアップ	社会、経済、文化の急速なグローバル化の進展や多文化共生が進む現代の社会状況を踏まえつつ、留学・海外体験の目的や意義について考えます。また、留学体験の効果を高めるために必要な、言語習得、国際理解、異文化間コミュニケーションの基礎について学びます。海外渡航の基礎知識についても触れます。	
	留学英語入門 (海外生活Ⅰ)	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景を交えながら学びます。社会生活(日常)、家庭生活(ホームステイの場合)、学校生活(授業、寮など)の場面を想定し、留学生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得をめざします。前期は、渡航・入国から新生活を始める過程に焦点を置きます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	留学英語入門 (海外生活Ⅱ)	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景を交えながら学びます。社会生活(日常)、家庭生活(ホームステイの場合)、学校生活(授業、寮など)の場面を想定し、留学生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得をめざします。後期は、現地での生活にとけこむ過程から帰国までに焦点を置きます。	
	留学英語入門 (TOEFL/IELTS)	(英文) This course uses popular global English proficiency tests, such as IELTS and TOEFL iBT, in order to develop essential academic English skills. There will be a combined focus of learning what is involved in taking these tests and improving a general all round ability in common academic tasks such as essay writing, article reading, and face to face interviews. This course will be useful for students who have a general interest in developing their university-level academic English skills, as well as for those who are interested in taking a globally-recognised English proficiency test at some point in the future. (和訳) 世界で通用する英語能力試験であるIELTSやTOEFL iBT を用いてアカデミックな英語スキルを高めることを目的とします。試験の形式・内容を把握するとともに、文書作成、文献読解、面談などで必要となる能力の習得をめざします。(海外の)大学での学びに必要な英語スキルを身につけたい学生、世界で通用する英語能力試験の受験を計画している学生に適しています。	
	英語圏留学入門	(英文) This course is intended for students who want to study abroad in English-speaking countries and regions. This will be accomplished in three ways. First, students will gather information about their particular country; this information focuses on the country's social, economic, geographic and cultural features. Second, students will use this knowledge as a way to better understand the written and oral skills necessary to communicate effectively whether it is at an airport, homestay, or a university setting. Third, students will give an in class presentation based on the research that they have gathered and learned concerning their study abroad destination. (和訳) 英語圏の国・地域への留学を希望する学生が対象です。各国の社会、経済、地理、文化について情報収集することで、その知識を空港、ホームステイ先、大学などの場面における効果的なコミュニケーションに活用するスキルを身につけます。さらに、留学派遣先に関する調査・情報収集に基づいてレポート(発表)を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アジア圏留学入門	中国、韓国、ベトナムなどのアジア圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集に基づいてレポート（発表）します。	
	外国語としての日本語	学内における留学生、留学派遣先における日本語学習者を対象とした日本語学習のサポートをする場面を想定し、「外国語としての日本語」を客観的に観察・分析する視点を養うとともに、日本語学、日本語教育（日本語教授法）の基礎について学びます。	
	留学フォローアップ	学内外の留学プログラムに参加した学生を対象として、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげることを目的とします。留学体験によって自身の中に芽生えた心情的な変化や新たに身につけた知識、関心、技能の意識化を促すとともに、それを帰国後の日本社会や地域への積極的な貢献にいかに関与できるかを考えます。最終的には発表にまとめます。	
	グローバル特講 I	<p>グローバルコースの入門講座で、グローバルコース生としての3年間の目標設定や学びのステップについて考察するとともに、異文化相互理解の基礎について学びます。異文化理解のための好奇心・観察力・感受性を高めるとともに知識を深め、異文化の中の自分の立ち位置を確立することをねらいとします。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(35 竹井 光子／5回)</p> <p>グローバルコースの概要、コース修了までのスケジュールの説明や3年間の学びの中での目標設定について説明します。また、英語学習や学内外における国際交流の機会の提供や情報共有を行うとともに、グローバルコースの期生間の交流や情報交換の機会を設けることで動機づけを高めます。</p> <p>(103 今石 正人／10回)</p> <p>異文化とは自文化を写し出す鏡です。異文化理解するためには自文化を理解する必要があります。このコースでは特に言語と宗教に焦点を合わせて異文化のさまざまな事象に書籍や映画などを通して触れ、最終的には自文化について洞察を深めます。</p>	オムニバス方式
	グローバル特講 II	グローバルコースの発展講座で、入門講座を踏まえつつ、学内外での国際交流活動を通じて異文化コミュニケーションの実践へと展開させます。交流活動に参加することだけに留まらず、活動を自主的に企画・運営するための手法を学びつつ交流実践へとつなげていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル特講Ⅲ	<p>(英文) This course is for Global Course students who are about to embark on an overseas study abroad program in America or New Zealand. The focus of the student's research is to help them develop the basic intercultural communication skills necessary to communicate effectively in their overseas country. This will be accomplished in two ways: in-class lectures and information from past students. In-class lectures will include worksheets and videos related to topics such as cultural identity, values, observations, interpretations and judgments. Further research into these topics will be accomplished by having the student interview and later present information about former participant's experiences as it relates to their intercultural communications overseas.</p> <p>(和訳) アメリカまたはニュージーランドへの留学を間近に控えたグローバルコース生のための直前講座です。現地での円滑な異文化間コミュニケーションに必要なスキルを習得することを目的とします。文化的アイデンティティ、価値観、観察・理解・判断力に関するワークシートとビデオを用いた講義をふまえ、留学経験者へインタビューを行いその聞き取り結果から得た異文化間コミュニケーションに関する情報をまとめて発表します。</p>	
	グローバル特講Ⅳ	<p>(英文) This course is for Global Course students who have returned from their study abroad experiences. The students will share, reflect and analyze their experiences. After due consideration of their own personal development, students will then take part in learning processes such as discussions, debates and presentations to facilitate group awareness. It is intended that students will then use and act upon their findings in future educational and work environments.</p> <p>(和訳) グローバルコースの留学事後講座で、体験の共有、ふりかえり、分析を行います。自己の成長を熟考した上で、議論・ディベート・プレゼンテーションなどに参加することで自己開発を促進させます。その過程で生じた気づきを将来の教育・就業環境において活用することをねらいとします。</p>	
	海外研修A	現在、協定大学と調整中のプログラムにおいて、1単位相当（授業時間23時間以上）の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき認定するための科目です。	
	海外研修B (CCCU/General English Topic 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、トピック別の授業について受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外研修B (RMIT/Reading 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、リーディングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Writing 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、ライティングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Listening 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、リスニングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Speaking 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、スピーキングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (AIC/New Zealand Studies)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、ニュージーランド事情の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修C (CCCU/General English Skills 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、四技能強化の授業について受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (AIC/Conversational English)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、会話の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (AIC/Written English)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、ライティングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (PIA/Experience America)	メリルハースト大学附属パシフィック・インターナショナル・アカデミーが提供する Experience America Program において受けた成績評価を本学の規定に基づき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (ASU/Intensive English)	アリゾナ州立大学が提供する Intensive English Programにおいて受けた成績評価を本学の規定に基づき単位認定するための科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外研修E (CCCU/General English Core 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、文法中心の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
国 際 共 修 科 目	Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society I)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: Developments in “popular music” and Japanese society from the Meiji Restoration to the 1964 Tokyo Olympic Games. From content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks involving periodic overviews and music appreciation, students will select topics for further investigation to be presented and discussed in this multicultural setting.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、明治維新～昭和30年代の「大衆音楽」を題材として、海外文化との関わりや日本社会の変遷に目を向けます。音楽鑑賞を交えた双方向講義や時代背景を振り返る小グループタスクなどで学ぶ内容から学生の様々な文化的視点で感じ取ったものをさらに探究し、英語プレゼンテーションを通して共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society II)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: Developments in “popular music” and Japanese society from the Post-WWII period of rapid economic growth to the present. From content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks involving periodic overviews and music appreciation, students will select topics for further investigation to be presented and discussed in this multicultural setting.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、高度経済成長期から現在までに発展・多様化していった日本の「大衆音楽」を題材として、社会の変遷と照し合えます。音楽鑑賞を交えた双方向講義や時代背景を振り返る小グループタスクなどで学ぶ内容から学生の様々な文化的視点で感じ取ったものをさらに探究し、英語プレゼンテーションを通して共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Japanese Culture in Hospitality and Service)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: "Japanese hospitality and service" with a focus on the historical and cultural influences on their forms and standards of practice. Building upon content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks, students will record, and probe into, their personal observations and experiences of Japanese hospitality and service to present and discuss their findings in this multicultural group.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、日本のおもてなし・サービスの形態や基準がどのような歴史的背景や価値観に影響を受けているのかを考えます。双方向講義や小グループ作業で学ぶコンテンツをもとに、観察・経験した「おもてなし」の実例を記録し、学生の持つ様々な文化的視点から考察した事柄を英語プレゼンテーションにまとめ、共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Contemporary Issues in Japanese Society)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is contemporary issues facing Japanese society, centering on 5 topics: People and Society, Health and Fitness, Children and Education, Science and Technology and Art and Culture. Each topic focuses on a series of selected vocabulary, listening, reading and writing exercises that will help students better understand and explain about the complex issues facing modern-day Japan. By the end of the course students will present and discuss their own research topic on a contemporary based theme that they are interested in.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、「人々と社会」、「健康と運動」、「子供と教育」、「科学と技術」、「芸術と文化」の5つの分野を中心とする現代日本が抱える多種多様な社会問題に焦点をあてます。諸問題を説明するために必要な語彙や4技能を習得するとともに、各自が選択した興味あるトピックについて調査に基づく発表を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Images of Japan in Western Cinema)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is the ways that Japan has been portrayed and presented in western English language cinema in the last 100 years. Lecture topic focus will be periodic, thematic as well as genre based. Contrasts between images held inside and outside of Japan will also be highlighted along with changes over time.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、過去100年間に制作された洋画（英語版）の中で日本がどのように描かれているかを時代別、テーマ別、ジャンル別に見ていきます。時代とともに変化する日本内外におけるイメージの相違に焦点をあてます。</p>	
	多文化交流プロジェクト (多文化理解)	<p>日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は日本語とします。前半は異文化・多文化理解を進める上での課題を発見し、解決に必要な理論を学ぶと共に様々なケースについて考察・議論を行います。後半は前半に出てきた課題をテーマにグループで活動（調査・演劇制作等）を行うことで、相互理解を深めると共に多文化共生に対する意識を高めることをねらいとします。</p>	
	多文化交流プロジェクト (地方の魅力)	<p>日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は日本語とします。日本各地の地方における特色（歴史や文化など）を意識してテーマを設定します。プロジェクト遂行のための情報収集、企画、運営を協働して行うことで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地方に密着した文化資源を発掘し、発信し得る感性と能力を育むことをねらいとします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部国際政治学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	多文化交流 プロジェクト (広島再発見)	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型 共修授業で、使用言語は日本語とします。広島の魅力 再発見を意識してテーマを設定します。プロジェクト 遂行のための情報収集、企画、運営を協働して行うこ とで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地域貢 献の意識を高めることをねらいとします。		
	多文化交流 プロジェクト (日本語・日本文化 セミナー)	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型 共修授業で、使用言語は日本語とします。日本語・日 本文化セミナー(短期プログラム)に参加する海外協 定校からの参加者との交流を深めたり、授業・文化体 験をサポートしたりすることを目的として、情報収集 や調査に基づいた企画とその運営に取り組みます。		
共通 教育 科目	教養 科目	哲学	近代哲学の展開について学びます。授業では、主要 な哲学者の業績を取り上げていきます。例えば、デカ ルトの「方法序説」と「省察」、ロックの「人間知性 論」、カントの「三批判書」などです。	
		倫理学	西洋の倫理思想史を概観することをめざします。た だ、すべてを見渡すことは不可能なので、対象を絞っ て検討します。	
		美学	「芸術」「自然」「天才」など、近代美学の基本概 念に着目しながら、西洋近代美学がいかなる問題意識 に根ざしていたのか、西洋近代美学の根本問題が何で あるのかを、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に即 しつつ探ります。	
		芸術学	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしてお り、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。 本講義ではギリシア・ローマ神話に基づいた美術 作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学び ながら、そこで表現されている場面がどのような物語 の流れの中にあり、登場人物が誰であるのかなどにつ いて理解を深めていきます。	
		日本文学	日本文学史上、一部の特権階級だけのものだった文 学が初めて一般大衆のものになったのは、江戸時代で した。江戸時代に読者層がこのように劇的変化をとげ たのは、この時期に印刷技術が向上し、文学作品が 出版(大量生産)されて市場に出たからです。 この授業では、中学・高校で学んできた文学史とは 違った視点から、文学史を解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋文学	ヨーロッパとヨーロッパ語圏の文学作品を主な題材として取り上げ、その読解を通して、こうした作品が作り出された地域の歴史、文化、社会的背景を学んでいきます。この地域の主要作家や主要文学作品を紹介し、その文学（史）的意義を解説していくことが主な講義内容になりますが、時には文学作品以外の絵画や映像作品をおりまぜながら、各時代が提起する政治的、社会的、芸術的問題にもふれていきます。	
	日本語学	授業では、よく知られている国語の常識（五十音図、ローマ字、小さな「つ」）を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。比較的やさしい日本語の規則性として、以下のテーマを取りあげ解説します。 (1) 日本語の音声（音節、拍、特殊拍） (2) 日本語の韻律（リズム、アクセント、イントネーション） (3) 日本語音声学（母音、半母音、音声記号） 毎週の授業は次の形式で実施します。 (1) 先週の復習 (2) 今週の講義 (3) ノートテイキング(実習) (4) まとめテスト	
	心理学	何が不思議といって宇宙がその内部に意識を持った存在（人間）を有していることほど摩訶不思議なことではないでしょう。そこで、本講義では生物科学の一領域である心理学から人間の心（意識を含む）の問題にアプローチしてみることにします。講義の結果、受講生諸君に少しでも人間の“心理学的な（＝生物学的な）見方”が理解されれば、と願っています。講義では「心理学の基礎領域（前半部分）」を主に取り上げて解説します。	
	文化論	グローバル化の進展に伴い、世界のありとあらゆる事象が複雑に絡みあうようになった現代社会において、国家間の境界線の揺らぎや文化アイデンティティの変容が起こっています。 こうした社会情勢を背景に文化（商品、ライフスタイル等）の均質化・混淆化・ローカル化が発生しています。 本講義では、マクロ・メゾ・ミクロの観点から各分野の文化変容の考察を行います。 第一部「文化のグローバル化」では、マクロレベルな観点から文化の変容にアプローチします。 第二部「ローカル文化の変容」では、グローバル化が進展しナショナルな境界が薄れる中において、よりいっそう注目されるようになったローカルの文化に焦点を当て、その変容を考察します。事例として広島神楽を取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化人類学	文化人類学は(1)「住み込み型の調査(フィールドワーク)」と、(2)それに基づいて描かれた「民族誌(エスノグラフィー)」によって支えられています。よって本講義では優れた民族誌の紹介と、講師自らの調査経験を交えながら、文化人類学の概念、方法、視角を修得することをめざします。	
	日本史	日本史を古代から近世まで講義します。その時代を特徴づけるテーマを選び、掘り下げることによって、歴史の流れを把握する感覚を養います。 学問は本来面白いものです。なかでも歴史は、熾烈な権力闘争があり、また、ときには血も涙もある人間の汗と涙の物語もあります。とりわけ、自分や家族の住んでいる地域や国のたどってきた過程を尋ねるのは、楽しいことです。「面白くなければ学問ではない」というコンセプトのもとに、歴史を学んでいきます。自分がその場にいたらという臨場感をもって、ふり返って欲しいものです。そうすれば歴史上の人物の思いや行動を実感をもって受け止めることができます。そして、そこから今後われわれはどう生きるべきかという問題を考えるヒントを得ることができます。	
	東洋史	いまに残る中国の文物や歴史上の人物にスポットをあて、それらを通して中国史を概観してみます。 各時代の文物や人物の生き様には、その時代の特色が濃厚に反映されています。したがって、ただ文物や人物だけに注目するのではなく、なぜそのモノが生み出されたのか、なぜその人がそう考え行動したのか、といったことにも関心を払い、それぞれの背景に広がる歴史的世界にも目配りをします。 文物などの歴史的遺産を出来るだけ視覚的にも理解してもらうために、画像や写真、映像資料も使いながら授業を進めたいと考えています。	
	西洋史	史学史とは歴史学の歴史であり「どのように歴史が書かれてきたか」を問う学問です。西洋世界で歴史がどのように認識され、叙述されたか、詳しく見ていきます。「そもそも歴史とは何か」という問いから入り、古代世界の歴史認識、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける歴史叙述を見ていきます。最後に歴史学の最新動向についても触れてみたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地理学	<p>地理学は、研究上の方法からまず系統地理学と地誌学に大きく分かれます。系統地理学のうち、(人間の諸活動が反映した) 地表空間を対象とする人文地理学について説明します。地理学の存在理由は、人口の疎密の違いにみるように、地表面上は決して均等な空間ではなく、諸事象の分布が地域的差異に満ちているという点にあります。系統地理学は、これらの諸事象の地域的差異および法則性について扱うものでありますが、この地表空間の差異はすなわち、まず自然環境を基盤とする人間活動の諸性質によって、さまざまな特徴ある地域形成から構成されています。</p> <p>テーマとしてさらに「人文地域の諸形成（諸形態）」と題し、こうした人文地域（人々の活動範囲）の諸特徴について、理解していきます。その際、主要な各人文現象の立地・分布に関する規則性・法則性に着目した認識法を基本として、各種地図や日本・世界の事例を利用しながら、授業を進めていくことにします。</p>	
	社会学	<p>社会学とは、人間の営みに対して、徹底的に、恥じらうこともなく、倦むこともなく、強烈な関心を抱くことから始まる学問です。探検家や冒険家の記述が「見知らぬ世界を体験すること」による興奮を提供するのに対して、社会学は「見慣れた日常世界の意味を変容させること」によって知的興奮を提供します。</p>	
	法学	<p>現代社会の法の機能を考察するために、ここではジェンダーという切り口で法現象を検討していきます。たとえば、身近な課題としては、ミスコンテストは違法行為なのか、夫婦別姓制度を導入すべきなのか、といったことです。そうした学習を通して、「法とは何か」という命題を考える一助にしたいと思います。</p>	
	政治学	<p>政治学における基礎的な概念を、具体的な事例や問題に即して講義します。</p> <p>経済学や社会学、法学などの社会科学隣接分野、あるいは政治学の各分野をこれから履修していく上での基礎的科目として位置づけてもらいたいと思います。</p>	
	経済学	<p>経済学の初学者のために「経済」とは何か、そして「経済学」はなにをするのかということを考え、経済現象の因果関係を理解するために必要な経済学の基礎的理論、基礎概念を修得します。また最も身近な日本経済の国民経済計算マクロ時系列データを観察し現状を認識し、日本経済が抱える諸問題について学習します。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、需要と供給、家計・企業の行動、市場のしくみなどの基礎的理論について解説します（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます）。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統計学	理論上の厳密性より応用面でのわかりやすさを求めて展開されたものです。統計データの処理から、統計解析、統計推計、仮説検定までという認識論のプロセスによって、統計学の基本概念、データの作成と整理の統計的扱い方、不確実の現象を把握するための確率分布のパターン、標本と母集団の関係、分析現象の姿を帰納的に推定しようという方法論を解説します。統計学の基本的な内容と枠組みを理解したうえで、これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが目標です	
	情報社会論	「情報社会」の未来論ではありません。現実の「情報社会」を解明しようとしています。そういう意味では、情報社会を主体的に生きていくための「マニュアル」になるはずですが、情報社会において、どのような問題が発生し、それらの問題をどのように解決するのかを、自ら考え、模索してもらえたらと思います。	
	物理学	物理学は自然現象を理解するための基礎として重要な学問です。物理学の分野の中で、力学や熱力学、電磁気学、量子力学、相対性理論の各分野についての基本的な考え方を学びます。力学の分野では速度、加速度の定義やニュートンの運動の法則について学びます。熱力学の分野では、熱と内部エネルギー、理想気体について学びます。電磁気学では電流の性質や電気と磁気の関係について学びます。また、講義の後半では量子力学や相対性理論の概要について学び、最後に物質を構成する素粒子について学びます。	
	化学	化学者達が創ってきた物質の世界を概説します。私達の身の回りには人工あるいは天然の化学物質が満ちあふれています。化学とは、原子・分子あるいは化学反応を土台として物質の世界を理解し、新しい物質を創りその働きを見出す学問です。「化学物質＝わからないもの・危ないもの」、「化学＝暗記科目」、「化学式＝難しい」という発想から抜けだし、周囲にあふれる化学情報を理解するための基礎を身につけることを目標とします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生物学	<p>外界の変化を察知し、的確に行動することは、動物の生存に不可欠です。このため、動物には外界の変化を捉えるための感覚系とこれを中枢に伝え処理する神経系（脳と脊髄）、そして行動を引き起こすための筋肉系（運動）が備わっています。下等な動物では、生まれつき生存に必要な行動プログラムが中枢神経系に備わっており、感覚情報に基づきこのプログラムの中から最適を選択し、筋肉系を動作させて行動に移します。動物が高等になると、生きる過程で獲得した多くの情報（主に経験と学習）は神経系に記憶として蓄えられ、行動プログラムに影響します。</p> <p>動物行動の背景にある生物学的事項について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 細胞の種類と働き</li> <li>(2) 動物が営む生命現象（呼吸、血液循環、消化など）</li> <li>(3) 動物が生存するためにとる行動</li> <li>(4) 行動の背景に潜むしくみ</li> <li>(5) 中枢神経系の役割</li> </ol> <p>を中心に、最新の研究成果を交えて解説します。</p>	
	環境科学	<p>環境や環境問題は現代のキーワードです。多様な環境問題のうち、熱帯林消失と生物多様性減少について現状とその原因を紹介し、さらに問題解決のために、どのような取組が行われているのか解説します。毎時間配布するプリントをもとに、講義を進めていきます。</p>	
	数学	<p>古代ギリシャ時代にユークリッドが解いた不定方程式からはじめて、18世紀までの初等整数論について述べます。その手法として、代表的な定理を数個挙げて数学の発展について考えていきます。解き方は分かっているにもかかわらず、膨大な計算量のある具体的な問題は解くことは困難を伴いますが、数学の予備知識が多くない文科系学生にも理解できる問題を選択して、その解法を説明していきます。</p>	
	教養講義 (現代の哲学)	<p>哲学という分野には、2000年以上前にプラトンが提出した問いをいまだに論じ続けている、という面があります。これは、2000年程度では人間の基本的なあり方は変わらないという事実を反映しています。</p> <p>その一方で、今を生きる私たちは現代社会の様々な問題に直面してもいます。それらの問題を取り上げ、哲学の観点から考察を加えていきます。講義で紹介する様々な見解を鵜呑みにするのではなく、それらを自分の頭で考え直してほしいと思っています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋の美術)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。聖書およびそれに関連する物語に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
	教養講義 (西洋の音楽)	チェコ共和国の首都プラハは、18世紀にヨーロッパのコンセルヴァトワール（音楽院）と呼ばれ、ある時期、その主流に比肩する音楽の天才達が集いました。イギリスのルネサンス期にはチューダー王朝の下にシェイクスピアの演劇は栄え、海外からの文化人達が渡英した頃のバロックは名実ともに揺るぎ無い音楽が定着しました。 チェコの宗教改革者フスを称える賛美歌は現代にもおよび、イギリス国教の賛美歌はチェコ同様、近代の作曲家に受け継がれています。それらの作品集を鑑賞し、歌い、比較もしていきます。 イタリアと同様に芸術文化人達を生んだチェコ、音楽の消費国として世界に貢献したイギリス、ともに歴史背景と文化史を読み取りながら、中世から現代までの音楽の変遷と進化の度合いを名曲鑑賞や実演を通して理解していきます。	
	教養講義 (江戸文学)	江戸時代中期から後期にかけて発達した大衆文学の作品例をあげ、その内容を講読します。	
	教養講義 (ドイツ文学)	「父権制の歴史（女性差別の歴史）」を中心テーマに、ヨーロッパの文学（ギリシャ神話から現代にいたるまで）を見ていきます。具体的文学作品にあたるというよりも、「文学をする営み」の意味、その深層を探っていこうと思っています。具体的に扱う教材は、ギリシャ神話『エレクトラ』、オペラ『サロメ』、ドイツ映画『マリア・ブラウンの結婚』、ドイツ小説『朗読者』（ベルンハルト・シュリンク）、在日韓国人作家李良枝（イ・ヤンジ）他、です。	
	教養講義 (現代心理学の展開)	心理学の基礎領域（動機づけ、意識、自己）に続いて、人格、知能、生涯発達、精神障害、心理療法、集団などの応用の領域について解説します。 心理学とはヒト、人、人間の行動の理解を試みる生物科学である、ということが理解されることを期待しています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋文化論)	ヨーロッパの人権獲得の歴史と日本のそれとの比較を行います。ここでもやはり、映画、ドキュメンタリー、文学作品、音楽、絵画その他ありとあらゆる教材を使用します。中心テーマは「ヒロシマ」です。講義のねらいは、この世界が注目する平和都市広島にある大学で、広島人からヒロシマ人へ一歩踏み出すきっかけを見つけることです。 扱う教材は、原一男監督の映画『ゆきゆきて神軍』、ハラルト・ヴァインリッヒ著『<忘却>の文学史』、ドイツ映画『カスパー・ハウザー』、フォルカー・シュレンドルフの映画『ブリキの太鼓』他、です。	
	教養講義 (アジアの文化と社会)	本講義では、視聴覚教材を活用しながら近現代の韓国・朝鮮の社会変動について考察します。とくに第二次世界大戦後から現在までの歴史・社会・文化の変動を日本との関係も交えながら考察していきます。 具体的には、韓国および朝鮮半島における約1世紀間の出来事（植民地化、開放と分断国家の成立、朝鮮戦争、軍事独裁政権の成立と経済開発、日韓国交正常化、民主化運動、南北首脳会談など）を中心に振り返りながら、現在、朝鮮半島が抱える問題やいまの韓国・北朝鮮と日本との関係について考えていきます。	
	教養講義 (日本近代史)	明治維新以降の日本の歩みを、経済の部面を中心に学びます。	
	教養講義 (日本近現代史)	日本史を、明治以降現代までの近現代史を中心に講義します。 現代の日本は様々な問題を抱えています。その問題は、歴史のどの時点で出現し、現在の姿に至ったのか、そしてそれは現在に至るまでどのような影響を与えているか、など歴史の流れを重視しつつ検討していきます。 歴史を明らかにするには、歴史史料によらねばならないのは勿論です。しかし、歴史を迫体験するには、歴史史料の他、マンガ、ドキュメント、小説・日記、など多様な素材が有効です。これらを手がかりに、当時の実態に迫りながら、そのとき人々はどうか考えどう行動したかなど、多角的に検討していきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (東洋近世史)	<p>「日本」と「中国」の関係を語る際にしばしば用いられるのが「一衣帯水」という言葉です。この言葉は、一筋の帯のように狭い海によって隔てられているが両者の間は近接している、というほどの意味です。ここでの「海」は、両者の間を区切るものとしてイメージされているとも受け取れますが、実際に日中の関係の歴史を考えてみると、この海を往来した人やモノ、あるいはこの海を拠り所にして活躍した人々の動向を無視することは出来ません。つまり両者の間に広がる海自体が、その周辺に位置する諸地域を巻き込む歴史の舞台であったのです。</p> <p>「日本」と「中国」の関係の歴史について、その間にある海の様相にも着目しつつ取り上げてみたいと思います。なお、時間軸としては、主に9世紀以降19世紀初頭までを対象とします。この時期は、科目名にもある「近世」という時代を考える際にも重要な時期です。</p>	
	教養講義 (西洋中近世史)	<p>中近世ヨーロッパの歴史について詳しく見ていきます。高校世界史に出てくるような事柄にも触れますが、中近世ヨーロッパの人たちが、人間や世界のあり方についてどのような考え方を持っていたのか、ということについても詳しく見ていきます。叙任権闘争後に起きた国家観の変化については特に詳しく論じます。</p>	
	教養講義 (生活の中の地理学)	<p>前半は、比較的身近なトピックの中から、地理学的な現象を取り上げ解説します。後半は、近年の地理学の新しい潮流の中から、行動地理学、交通、ジェンダーの地理学、人口移動、地理情報システム(GIS)を取り上げ講義します。</p>	
	教養講義 (社会学のものの見方と考え方)	<p>社会学は(1)さまざまな方法による社会調査と、(2)それを説明する社会理論によって支えられています。優れた社会学のモノグラフを通じて、社会学の概念、理論、方法、視角などを修得します。具体的に講義で取りあげるのは、暴走族、建築業、性風俗業、ホームレスの人びとなどです。</p>	
	教養講義 (政党と選挙の政治学)	<p>近年の法改正により、有権者年齢が18歳以上へと引き下げられました。これにより、大学生は全員が有権者となりました。政治学の中でも、特に政党と選挙に重点をおいた説明を行います。</p> <p>最近では、無党派層の増大や投票率の低下といった現象にみられるように、政党や選挙への関心は低下しています。しかし、よりよい有権者となるために政党や選挙についての理解は必要不可欠と言えるでしょう。有権者として必要な政治に関する基本的知識を身につけ、今日における政党と選挙の意味を理解することを目標とします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (現代経済学)	<p>マクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます）。</p> <p>講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定ですので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。</p>	
	教養講義 (応用統計学)	<p>統計学の研究対象とするものは、自然現象であっても、社会現象であっても、どの分野にも適用できる一般的方法論とみなします。統計的考え方とその応用方法に重点をおいて統計推計の基本内容を説明します。高度情報化社会の進展とともに、統計情報の作成や統計推測は、不可欠な社会認識の手段となっています。不確実の現象を把握するための連続的確率分布のパターン、統計推計及び仮説検定などの方法論を解説します。これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることがねらいです。</p>	
	教養講義 (情報環境論)	<p>「情報とは何か」をテーマに講義を行います。「情報」の創造・利用・伝達に実際に関わっていることを意識してもらいます。後半は、情報の技術的な問題が多くあります。これは、自分のマシンを自分で守るにはどうすればいいのかということのヒントを提供しています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (ヒトの生命科学)	<p>ヒトの身体は、60兆個もの細胞によって構成されています。個々の細胞は細胞外から栄養素や水などを得、生命活動に必要なエネルギーを産生し、またこのエネルギーを利用して生命維持に必要な物質を作り出しています。細胞に栄養素などを届けるため、ヒトには器官系（消化器系、呼吸器系や循環器系など）が備わっています。例えば、食物は口から入り、胃や腸を通過する間に消化されて栄養素や水となり吸収され、血管を通じて身体各部の細胞に運ばれます。エネルギー産生には酸素が不可欠であり、鼻から取り込まれて肺で血液中に入り、身体各部の細胞に運ばれます。また、生命活動によって生じた不要物・老廃物などは肝臓で分解され、血管を通じて腎臓にまで運ばれ、最終的に身体外に排出されます。このような生物の営みは、生命が続く限り止まりません。</p> <p>『ヒトの生命維持のしくみ』に焦点を合わせ、</p> <p>(1) エネルギー産生に必要なガス交換（呼吸）  (2) 物質と熱の運搬（循環）  (3) 水や物質の身体内への取り込み（消化と吸収）  (4) 不要物や老廃物の身体外への排出（排泄）</p> <p>について最近の研究成果を交えて解説します。</p>	
	教養講義 (応用数学)	<p>集合と写像の概念の応用として、あみだくじの作成・一筆書き問題・四色問題について論じます。また初等整数論の応用について2つの例を紹介します。1つは三山崩しゲームにおける必勝法の解析です。もう1つは公開鍵暗号システムにおいて、その暗号が有効に働くことを証明することです。また数学の別な応用として、線形計画法の概略についても述べます。</p>	
	総合教養講義a (近現代の哲学)	<p>柘植尚則『イギリスのモラリストたち』（研究社、2009年）を精読することで、イギリスの近現代哲学における人間観・道徳観を学びます。</p>	
	総合教養講義a (終末期医療と倫理)	<p>終末期医療に関する諸問題を検討します。また、それに基づいて人間が生きることを考えます。</p>	
	総合教養講義a (人間と生命の倫理学)	<p>古今東西の人間観、生命観を理解した後、今日の生命をめぐる諸問題について具体的に考察します。そして、考察を進めるなかで、今一度そもそも「生命とは何か」という根本問題に立ち返ります。そして、今日の生命をめぐる諸問題を解決するためには、人間中心の従来の倫理学ではなく、もっと広い人間も動物も地球も含めた「生命」に基づく倫理学の必要性に気づき、「生命への畏敬の倫理」を実現するための方策を検討します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (人生の探求としての倫理学)	人間が社会生活を営んでいくためには、そこに一定の守るべき人倫の理法があり、意識的あるいは無意識的にその理法に従って生きています。今日、その人倫の理法を逸脱、あるいは破壊する行為が頻繁に生じ、社会秩序が根底から覆されようとしています。果たして、その人倫の理法は現代に適するものとなっているのでしょうか。人間観・世界観の考察を通して、現代社会に必要な新たな人倫の理法についての考察を試みます。	
	総合教養講義a (愛の倫理的考察)	愛は幻想か。動物行動学や脳科学などの領域で語られる「愛」について考察し、その問題点を把握します。また、様々な愛について、ギリシア神話や現代のポップミュージックの歌詞から考察し、分類整理します。その上で、今こそ愛が必要であるにもかかわらず、愛が欠如していることを理解し、愛に満ち満ちた社会環境の構築の必要性を認識します。	
	総合教養講義a (西洋美術の図像学)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。主として旧約聖書を題材にした美術作品、特にシステイーナ礼拝堂内の天井画を取り上げます。図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
	総合教養講義a (浮世絵)	浮世絵は、海外でも有名な日本の伝統文化の代表格といえますが、その実、浮世絵がどのようにして製作されるかといった基本的なことが意外に日本人の間で理解されていません。特に、広島には浮世絵の常設展示を行っているミュージアムもなく、浮世絵を実際に目にする機会が少ないためか、認識が低いように思われます。 知っているようで知らない浮世絵の製作工程・技法について解説します。	
	総合教養講義a (江戸時代の化粧・結髪)	日本人の伝統的美意識は、衣食住の様々な局面に表されてきましたが、化粧・結髪の形式も、その一局面です。 化粧・結髪は、男女とも時代により階層により色々な形式がみられますが、主に浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・遊女に的を絞って解説します。	
	総合教養講義a (神仏と芸能)	世界的にみても、芸能というものは多く信仰に根ざしています。わが国の例として、いわゆる「三大伝統芸能」(能・狂言・歌舞伎)以外の、より直接的な招福除災の性格の強い伝統芸能の各種を紹介します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (現代日本語の特質)	<p>学校文法として知られている国語の常識を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。日本語の規則性を扱う日本語学の中で、比較的むずかしいものを取り上げて解説します。</p> <p>扱うテーマは、以下の通りです。</p> <p>(1) 日本語の統語 (活用、正格活用)</p> <p>(2) 日本語形態論 (語幹、形態素、異形態)</p> <p>(3) 日本語の音声 (子音、調音、IPA)</p> <p>(4) 日本語音韻論 (音素、異音、相補分布)</p>	
	総合教養講義a (英語と日本語)	<p>日本語と英語を以下のような観点から比較します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸言語の中での位置づけ</li> <li>・歴史</li> <li>・音声</li> <li>・方言</li> <li>・語彙</li> <li>・文構造</li> <li>・未来の姿</li> </ul>	
	総合教養講義a (ことばと社会)	<p>ネイチャーライティング(自然・環境に関する文学、芸術・メディア)を通じて、「ことばと社会」について考察します。</p> <p>特に、日本と英米の文学作品や芸術・メディアの比較を行います。また、「場所の感覚」という視点から様々な文化現象について分析します。</p>	
	総合教養講義a (ピアノ講座)	<p>毎回の授業は、講義と実演とで構成します。</p> <p>講義では、ピアノ作品を演奏する上で必要となる楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の修得を目的とします。</p> <p>実演では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、ピアノ演奏技法の修得をめざし、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。</p>	
	総合教養講義a (声楽と合唱)	<p>実技では、主に合唱曲を用いて、自らの演奏のために必要な発声や歌唱法および表現に関する基礎的な技法を修得することを目的とします。</p> <p>また上記の事柄をより深く理解するために、講義による基本的な音楽理論も学びます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (教育文化論)	日清戦争が勃発した明治27(1894)年11月、英文の『日本及び日本人』が民友社から刊行されました。戦争のさなかに幾度か版をかさね、日露戦争が終結したのち、『代表的日本人』と改題されます。東アジア世界に育った日本は、明治維新後、急激な脱亜の道をつきすすみ、帝国主義国の地位を確立します。『代表的日本人』は、キリスト教に帰依した内村鑑三が「キリスト教徒に優るとも劣らぬ立派な日本人」がいたことを欧米のキリスト教徒にむかって示すために著述したものです。内村は、5人の「代表的日本人」をとりあげ、かれらの生涯を紹介しながら日本的な徳や倫理の美しさについて語ります。『代表的日本人』は、『茶の本』、『武士道』とともに、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。『代表的日本人』を講読しながら、それぞれの人物が生きた時代について分析し、自己形成のあり方、価値観などについて検討します。	
	総合教養講義a (歴史人類学)	フランスの歴史学は、アナール派が歴史学に人類学的視点を導入して以来、歴史学のテーマが多彩となり、歴史学の活性化に大いに貢献しました。日本の歴史学界もこの影響を受け、西洋史、日本史、東洋史において、様々な歴史人類学的テーマがとりあげられるようになっていきます。その中から、遊牧民、気候変動、裁判記録、王権と婚姻、歴史人口学、ジェンダーにかかわるテーマを取り上げ、いくつかのトピックを通じて、歴史上の社会を人類学的視点から多角的に考察します。	
	総合教養講義a (歴史と社会)	西洋史では16～18世紀を近世と呼びますが、近世はヨーロッパが周辺世界とかつてないほど深い関わりを持つに至った時代です。近世以降に関して、ヨーロッパからののはたらきかけを抜きに南北アメリカ、アジア、アフリカの変容を理解することはできませんが、反対に、周辺世界との関わりを考慮せずにヨーロッパの変容を理解することもできません。近世ヨーロッパと周辺世界の関係のなかでも、特にハプスブルク家とオスマン帝国の関係に焦点を絞り、その関係からどのような変化がヨーロッパにもたらされたか、考えていきます。バルカン社会の変容、メディアを用いた世論操作、議会における情報の扱われ方、といったトピックについては特に詳しく見ていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (現代日本社会の諸相)	<p>(英文) This course aims to give you a deeper understanding of some aspects of modern Japanese society. One of the themes of the course is minorities, which, in turn, is related to another important theme, human rights and discrimination. I have prepared selected vocabulary lists for each topic and, if you wish, I can give you a mini test every week of a few of those words, which you think may be of use to you. We will also be looking at some key Japanese concepts.</p> <p>(和訳) 現代日本社会の様々な諸相の理解を深めることを目的とします。一つは人権擁護や差別といった重要なテーマに関連するマイノリティについて取り上げます。トピックごとに単語のリストをまとめ、その中から役に立つ語彙があれば、毎回小テストを行います。また、日本人の基本的な考えについても触れていきます。</p>	
	総合教養講義a (日本の社会および経済の文化的基礎)	<p>このコースの狙いは学生が現代日本社会のいくつかの側面をより深く理解できるようになることです。このコースのテーマの一つは「マイノリティー」で、それは別の重要なテーマである「人権と差別」に関係があります。私はまた特に交換留学生のために、長い間論じられてきたホットな話題を取り上げたいと思います。例えば憲法9条の改正、自衛隊の位置づけ、第二次世界大戦に対する謝罪、靖国神社参拝、慰安婦問題、歴史修正主義、国政選挙における一票の格差、中国と北朝鮮・韓国との関係、それから沖縄の基地問題も含むアメリカとの関係などです。</p> <p>最初の3回は次のようなトピックの簡単な紹介をします。政治、経済状況、最近の画期的な法律の制定、憲法改正、貧困、社会の不平等、女性の地位、世界と国連における日本の立ち位置、アジア諸国との外交関係。4回目からは、違法外国人労働者、死刑制度、広島長崎の被曝、在日韓国・朝鮮人、日本の高度経済成長、小津安二郎の「東京物語」について取り上げます。</p>	
	総合教養講義a (グローバル化と経済)	<p>グローバル化と呼ばれる日本に限らず世界では、ヒト・モノ・カネが国境を越える活動がより加速してきています。この現象は各国民経済に及ぼす影響を決して無視することはできない流れです。この流れの背景を理解するために、貿易および国際金融の基礎的な理論や国際的制度をふまえたうえで、現状分析および当面する政策的問題について学習します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (ベーシック・ファイナンス)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (コーポレートファイナンス入門)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、証券が市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (働く人のための経営学)	現代の日本は、働く人の約85%が企業やその他の組織に雇用される、いわゆるサラリーマン社会といわれています。まず日本の経営組織で働く人たちの側に立って、従来までの日本的経営の特質、モノづくり、人事・労務管理、日本企業を取り巻く経営環境の変化とその現状など「働く側の経営学」について取り上げ、次に経営学の基礎的諸事項、基本的視座や見方・考え方など「企業経営の基礎知識」を取り上げながら、近い将来、社会に出て「働く人のための経営学」について講義していきます。	
	総合教養講義a (現代社会と企業)	今日私たちは、様々な組織や社会集団に所属しています。学校を卒業すると多くの人は企業や官庁といった組織で働き、様々な仕事に従事します。組織という社会的装置、そこでの仕事や雇用、さらには組織を取り巻く経済社会の動向について基礎的な知識や洞察を深めます。	
	総合教養講義a (現代社会とマーケティング)	現代のビジネスにおいて「マーケティング」を知り、それを「管理（マネジメント）」していくことは必須だと言われます。マーケティングとは何かを学ぶとともに、企業のビジネスにおいて戦略・組織面でどのような位置づけにあり、どういった役割を担っているのかを学習します。	
	総合教養講義a (市民と行政法)	(1) 国民主権、法治主義、適正手続といった基本原理、行政立法・行政行為・行政上の義務履行確保といった行政作用、さらに、国家賠償法・取消訴訟という基本的な救済方法が、どういう歴史的背景のもとに生まれ、それらがいまなぜ必要とされているのか、いまの政治社会でどのように運用され機能しているのかということについて学びます。 (2) 以上のような行政法に関する最も基礎的な事柄を、おぼえて、理解し、それを活用する能力を身に付けることを目標としています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (家族と法)	プロポーズをすれば後で気が変わっても必ず結婚しなければならないのでしょうか。結婚すると夫婦それぞれが稼いだお金は誰のものになるのでしょうか。親子の縁を切ることは法律上できるのでしょうか。女性が結婚すれば親の財産を相続する権利を失うのでしょうか。結婚や離婚、相続などの家族の問題についての基本的な法律のルールを学びます。日常的な問題を法律に結び付けて考えられるように、授業では具体的な事例を挙げて解説します。また、授業の内容を整理し、理解度を確認するために、授業の後半では課題に取り組む時間を設け、解説します。	
	総合教養講義a (事例で学ぶ民法)	各種資格試験・国家試験等で出題される民法択一式問題をもとにした事例問題の演習および解答・解説を通じて、民法の基礎的な論点(争点)についての理解を深めます。各学部で開講されている民法科目履修の前提となる知識を整理するとともに、やや発展的内容の学習にもとりくみ、また各種試験の択一式問題に対応できる知識・実践的能力を養うことを意図しています。検討対象は、民法の各分野（主要には財産法）の基本的な諸論点です。	
	総合教養講義a (現代社会と企業法)	現代社会において企業が法的にどのように位置づけられ、何を期待されているか、そしてどのような問題を内在しているのかについて、現在論じられている最新の法情報にも触れながら解説を行います。内容としては、企業法の中心である「会社法」の仕組、不正競争防止法、中小企業の事業承継問題、合併などの組織再編、また会社法との比較において一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（一般法人法）と消費生活協同組合法を解説し、さらに企業のCSR活動、NPO法とNPOの活動および社会的企業論を概観します。	
	総合教養講義a (国際社会と法)	地球温暖化や武力紛争など、メディアで目にするような国際社会の現状と課題を理解するには、政治などのほかに、法を軸とした視点も必要です。環境、武力紛争をはじめ、外交など様々な分野における国家などの活動や関係を規律する法規範(国際法)の基本的な内容を概観します。新聞記事などを素材として時事問題を扱い、履修者には現代社会と国際法とのつながりを意識してもらいます。 世界が抱える問題の解決を考察する際に、国際法を基準とした議論を行えるようになることが本科目の目標です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義 a (近代日本と戦争)	<p>近代日本は、対外戦争を経るたびに、国内の政治体制、社会構造、文化、思想、そして人々の生活様式までをも変容させてきました。近代日本の歩みは、まさに「戦争の歴史」といっても過言ではないでしょう。日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、太平洋戦争といった近代日本の対外戦争を取りあげ、これらの戦争が国際秩序とともに国内の政治・外交・社会・経済・文化のあり方に変容をもたらしたことを跡付けします。</p> <p>近代日本の歩みを領域横断的に理解し、戦争の持つ意味を多面的に把握できることが目標です。</p>	
	総合教養講義 a (中国の歴史と社会)	<p>中国は悠久な歴史を有し、輝かしい文明を作り出しましたが、歴史の展開過程を見ると、それは統合と分裂、安定と混乱、繁栄と衰退という繰り返しの歴史でもありました。</p> <p>古代から数え切れないほどの農民蜂起、近代以降、アヘン戦争、日清戦争、義和団運動、辛亥革命、日中戦争、国共内戦等多くの戦争や動乱が発生しました。中華人民共和国成立後も、大躍進運動、文化大革命、「天安門事件」等の「激動」が続きます。</p> <p>「激動」が中国社会を安定と不安定の循環をもたらしますが、それは中国歴史の重要な特徴でもあります。歴史的、社会的な角度から、中国事情を解説します。</p>	
	総合教養講義 a (生命の化学)	<p>生命とは何かを考える基礎となる、生命化学と生活に関わる化学を講義し、自然科学への関心を育て基礎知識を修得します。我々の身体を構成する物質がどのようなものであり、複雑な生命体の仕組みを知ることには、生活・産業・環境・医療・食糧・安全にまつわる様々な社会問題を考える基礎として重要です。生命はいわば分子を素材とする機械とも言えますが、機械にはない“何か”を持っています。その“何か”は科学者もはっきりと答えることはできません。尊い生命をはぐくんできた地球環境の大切さを考える土台をつくるために、生命の仕組みの奥深さと不思議さを学習します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (病気の生物学)	<p>第二次世界大戦終了後、医療技術の発達、栄養の向上、そして衛生環境の改善によって日本では感染症が激減しました。ところが、高度経済成長期に入ると、生活の場には新たな化学物質が溢れ、これらは公害を生み、その後ガンやアレルギー疾患の発生へと繋がっていきました。また、社会構造が変化（高齢化社会）する中で、脳血管疾患や心疾患が表在化し、これらの発生には生活習慣が関係していることが明らかになってきました。近年、家庭環境や労働環境の変化が過度のストレスとなり、これが原因となって生じる精神疾患が増加の一途を辿っています。このような現代社会を健康に暮らすには、自分の健康に関心を持ち且つ管理することは当然であり、このために「身体機能の正常と異常」を知ることは不可欠です。</p> <p>(1) 病気とは（死因と現代生活）  (2) 生体防御のしくみ（自然免疫と獲得免疫）  (3) アレルギーとアナフィラキシー（生体の防御過剰）  (4) 見えない恐怖（ウイルス、細菌、カビの攻撃）  (5) 心疾患と脳血管障害（高血圧、動脈硬化と糖尿病）  (6) ガンとの戦い（正常細胞のガン化）  (7) タバコの害</p> <p>などのテーマについて解説し、われわれが健康に生きるための術を授けます。</p>	
	総合教養講義a (大気の問題と生態系)	<p>わが国では1980年代の後半から地球環境問題が注目されはじめました。その後20年以上たった現在でも、深刻な影響をおよぼす、未解決の問題としての位置づけはかわっていません。地球環境問題のうち、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の問題と最近注目されている微小粒子状物質(PM2.5)問題を取り上げます。地球誕生以来生物の進化が大気の形成にどのようにかわり、現代の人間活動が大気環境をどのように変え、上記の4つの問題が生態系にどのような影響を与えているかについて講義します。さらにこれらの地球環境問題の解決のためにどのような試みがなされているかについて紹介します。</p>	
	総合教養講義a (生物多様性保全の環境問題)	<p>現在、地球上の様々な環境で生物種や品種の多様性が失われ、また個体数が減少しています。このような現象はこれまで生物学者や自然愛好家だけが注目していましたが、近年環境問題の一つとして位置づけられ、その深刻さに対する理解も少しずつ進んできています。地球上に多様な生物が生息することの価値、様々な生態系における生物多様性消失の現状とその問題点、生物多様性保全への取り組みについて解説します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (宇宙と環境科学)	生命誕生のサイエンスを宇宙環境の視点から概説し、自然科学への関心を育て基礎知識を修得します。現在、地球上で起こっている様々な問題は、宇宙規模で見れば小さなことかも知れませんが、我々にとっては大きな問題です。これを解決するためには宇宙・地球・生命の歴史を知ることが必要です。生命出現は、宇宙史の最大の出来事です。広大な宇宙において生命が存在するこの地球は最も尊いものでしょう。この科目では、地球の一員としての我々がどこから来たのか、生命と地球環境の尊さと自然の奥深さを講義・討論します。生命は、約40億年前の原始地球上で無生物から出現したと考えられていますが、この歴史を、地球外生命探査やバイオテクノロジーなどによる最新の成果を取り入れ講義します。	
	総合教養講義b (キリスト教倫理)	キリスト教の経典は言うまでもなく『聖書』であり、その『聖書』を拠り所としてキリスト教は成立しています。しかし、『聖書』に収められている「福音書」「パウロ書簡」「使徒言行録」には相互に矛盾する記述も多く見受けられます。今日の「キリスト教」の成果を踏まえながら、イエスの言行、パウロの思想等を理解し、今日的な意味でのキリスト教倫理について考察します。	
	総合教養講義b (芸術文化学)	ドイツを中心としたドイツ語圏の映画芸術について学びます。特に近年の中心テーマ「移民」「ナチス」「東西統一」を扱った21世紀のドイツ映画を取り上げ、それぞれの作品が時代の社会状況といかに関照しているかに関して理解を深めます。	
	総合教養講義b (江戸時代の服飾)	日本の伝統的美意識は、衣食住のさまざまな局面に表されてきましたが、外出着の文様・形式も、その代表的な局面の一つです。 外出着の文様・形式は、男女とも時代・階層によって色々なものがみられますが、本講義では、主として浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・芸者・遊女の服飾に的を絞って解説します。	
	総合教養講義b (和紙)	和紙は現在、書や絵画に用いられるだけでなく、その独特な風合いを生かしてインテリア・服飾品の材料としても注目されていますが、和紙の広範な活用は今に始まったことではありません。 古来、日本人が和紙を情報記録媒体としてそのまま利用するだけでなく、様々な加工をほどこして衣料・調度品の材料としてきたことについて、解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (メディア論)	「公権力の監視」を使命としながら「第四の権力」とも称される新聞・テレビなど日本の主要報道機関の組織の仕組みや取材・報道・編集業務の実態を、長年の実務経験に基づいて解説し意義や問題点を考えます。国家や軍に屈して戦争を賛美した戦前の歴史や、憲法で言論の自由が保障された戦後の判例、歴史的な事件報道などにも触れます。日本のマスメディアを中心としますが、比較のため海外の主要メディアやその報道も取り上げます。内外の重大なニュースは適宜解説し学生の時事的知識の整理に役立てます。	
	総合教養講義b (社会保障論)	社会保障の対象領域、基本構造、原理などを学び、その後に各領域の現行制度について講義します。	
	総合教養講義b (労働問題と法)	労働法のポイントとなる項目について、裁判例や実務上の問題点を素材として現実の労働問題と労働法とのかかわりを説明します。近年、労働法の分野では法改正が続いています。それらの動向もできる限り、授業内容に反映させます。各回の項目について、裁判例や実務上の問題点を取り上げて説明します。	
	総合教養講義b (地方政治のしくみ)	地方自治のしくみは、国の議院内閣制と異なり、大統領制に似ているといわれます。それは、首長に強大な権限が付与されているのが特徴であるためです。それを牽制しチェックする立場に議会はあり、最近では議会基本条例などを制定し、透明化などの議会改革に努めています。住民においては、従来にまして自治への参加機会がより求められるとともに、地方自治基本条例による住民投票などの制度も整備されてきています。これら地方政治のアクターとしての三者の役割を通して、地方政治の基礎的なしくみを理解し教養を深めます。  (オムニバス方式／全15回)  (62 矢部 恒夫・85 矢野 秀徳／1回) (共同) 第1回 ガイダンス  (85 矢野 秀徳／7回) 第2回～第8回  (62 矢部 恒夫／7回) 第9回～第15回	オムニバス方式・共同(一部)
	総合教養講義b (国際理解)	テキスト『国際社会を学ぶ』を素材に、国際社会を分析するための多様なアプローチの仕方を理解します。アイデンティティ、地球文化、人類益がキーワードとなります。各章には具体的な問いが設定されているので、その問いに基づいてテキストを読み解きます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (生命情報論)	<p>5億3千年程前、生物に眼が現れ、外界の光環境の変化を感知することが可能となりました。その後、眼には光感度の調節、波長弁別、そして動きの感知などの高度な視覚機能が加わり現在に至っています。眼の獲得によって、接触、臭い（あるいは匂い）そして物音などに頼っていた生活に『見る』という感覚が加わり、周囲を探索する能力が格段に向上したため、生物の行動範囲は相当広がったに違いありません。</p> <p>ヒトでは、生活に必要な情報の約80%を視覚から得ているといわれています。昨今のマルチメディア技術の発達とこれを媒体とした情報伝達の現状に鑑みると、他の感覚器に比べ視覚への依存度が高いことは肯けます。</p> <p>本講義では、眼球内に入った光がどのような生体内プロセスを経て『見る』という感覚を生むのかを、</p> <p>(1) 光の性質 (2) 眼の構造と機能 (3) 眼から脳への視覚情報伝達 (4) 脳での視覚情報処理</p> <p>の順序で、最新の研究成果を交えて解説します。</p>	
	総合教養コース (世界の言語と文化)	<p>元来、人間と言語、そして言語と文化は切っても切れない関係にあり、そのつながりを理解することは、人間と異文化理解に大いに役立つものと考えられます。</p> <p>東から西（アジア言語圏からヨーロッパ言語圏）の順で進みます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(45 朴 大王／1回) ・韓国</p> <p>(49 藤井 隆／2回) ・ガイダンス ・中国</p> <p>(124 金 栄鎬／1回) ・北朝鮮</p> <p>(19 郭 春貴／1回) ・シンガポール</p> <p>(32 高田 峰夫／2回) ・タイ ・バングラデシュ／ベンガル</p> <p>(65 吉川 史子／1回) ・イギリス</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(92 山尾 涼／1回) ・ドイツ  (27 杉浦 順子／1回) ・フランス  (164 FERRAN GUBERN, Santiago／1回) ・スペイン  (6 矢田部 順二／1回) ・チェコ  (34 高橋 利安／1回) ・イタリア  (132 佐藤 道雄／2回) ・アラビア ・イスラエル	
	総合教養コース (情報化社会と人間)	タイピング練習、Windowsの操作の修得、ワープロソフトWord、製本エディタTeXの修得、HTMLの修得、ホームページの作成を行います。  (オムニバス方式／全15回)  (70 佐藤 達男・91 都築 寛／8回) ・オリエンテーション ・Officeソフトの活用 (1) ・Officeソフトの活用 (2) ・情報環境に応じた表現 ・情報化社会と人間 ・ワードプロセッサ “Word” と “TeX” ・ワードプロセッサTeXの概要 ・TeXによる表の作成 ・Word とTeXによる数式の表現 ・本の作成について  (75 出木原 裕順・121 北原 宗律／7回) ・インターネットの仕組み ・インターネットHPの作成 ・インターネットHPの開設 ・インターネットHPの出版 ・インターネット宝探し	オムニバス方式
外国 語科 目	英語 科 目	英語リスニング I	英語リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リスニングⅡ	「英語リスニングⅠ」に続いて、リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅢ	リスニングの弱点を克服して、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦するためのクラスです。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅣ	「英語リスニングⅢ」に続いて、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦します。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅤ	より高いリスニング力を身につけ、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しめるよう訓練するクラスです。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅥ	「英語リスニングⅤ」に続いて、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しめるようリスニングの訓練をします。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リーディングⅠ	英語の基礎的な読解力を身につけるためのクラスです。やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校までに学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リーディングⅡ	「英語リーディングⅠ」に続いて、比較的やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校で学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅢ	弱点を克服して様々なテキストを読み進める力を養うためのクラスです。少しやさしめの英語で書かれた読み物からはじめて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅣ	「英語リーディングⅢ」に続いて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。リーディング活動を通して、苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅤ	読解に必要な語彙力をさらに高め、読むスピードアップを図るためのクラスです。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	英語リーディングⅥ	「英語リーディングⅤ」に続いて、さらに読解に必要な語彙力を高め、読むスピードアップを図ります。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	実用英語実習Ⅰ	日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の修得をめざします。語彙・文法・語法の確認を併用しつつ、インターネット上での情報収集や場面設定にそったアクティビティやグループワークを活用して実践的運用能力の養成を行います。英語学習に対する動機づけ、英語の使用に対する積極性や自信を醸成することをねらいとします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	実用英語実習Ⅱ	「実用英語実習Ⅰ」に続き、日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の修得をめざします。より発展的な場面設定を行いつつ、修得した語彙や文法の範囲内で発信・自己表現するための実践的活動やインターネット上での情報収集を行うことで、英語を使う楽しさを感じ取ることをねらいとします。	
	英語ライティング研究Ⅰ	トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究Ⅱ	「英語ライティング研究Ⅰ」に続いて、トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究Ⅲ	自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。手紙、メール、履歴書、短いエッセイなど日常生活で必要とされる内容の文章を英語で書くことができる能力を養成します。また適切な書式に従って書くことについても学びます。	
	英語ライティング研究Ⅳ	「英語ライティング研究Ⅲ」に続いて、自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。ビジネスレポートや本・映画の書評などある程度まとまった内容を持つ文章などを英語で書くことができる能力を養成します。	
	英語読解研究Ⅰ	精読、多読、もしくは、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフ構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながらやさしい読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語読解研究Ⅱ	「英語読解研究Ⅰ」に続き、より難易度の高い英文の精読か、やさしい英文の多読、または、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、やさしい読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅲ	難易度のやや高い英文の精読、初中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながら、初中級レベルの読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅳ	「英語読解研究Ⅲ」に続き、より難易度の高い英文の精読、中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、中級レベルの読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語聴解研究Ⅰ	英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅱ	「英語聴解研究Ⅰ」に続いて、英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語聴解研究Ⅲ	<p>(英文) The aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English.</p> <p>(和訳) より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者が行います。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。</p>	
	英語聴解研究Ⅳ	<p>(英文) Building upon the skills and concepts in English Listening Studies III, the aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English.</p> <p>(和訳) 「英語聴解研究Ⅲ」で学んだスキルと概念を踏まえて、より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者が行います。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。</p>	
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	<p>さまざまなコミュニケーションの場面に基づくコミュニケーションの基本的な理論と実践について学びます。文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションの様式を理解しつつ、多様なアクティビティーを通じて実践的な訓練を行います。</p>	
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	<p>「英語コミュニケーション研究Ⅰ」に続いて、文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションについて、より複雑な場面を想定して、情報の受信から発信にいたるプロセスを意識した言語活動の実践的な訓練を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	「英語コミュニケーション研究Ⅲ」に続いて、人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	(英文) The aim of this course is to develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. Through lectures and various activities, students will learn how to listen to and understand the ideas and viewpoints of others, and to express their own ideas and viewpoints as clearly as possible. They will review fundamental communication techniques such as using appropriate eye contact, body language, and vocal tone and through lectures and activities they will also learn and practice more advanced techniques such as active listening, reflecting, clarification, and timing. (和訳) 英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。講義に加えて、様々な教室活動を行い、話者の考えや視点を聴きとり理解する方法や、できるだけはっきりと自分の考えや視点を表現する方法について学びます。適切なアイコンタクトや、身ぶり、声の調子などについて概観すると同時に、アクティブ・リスニングや、相手のことばを繰り返して質問し、相手の言ったことを明確にする方法、タイミングのはかり方といったより高度な技術についても学び、練習します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究VI	(英文) Building on the skills and concepts in English Communication Studies V, the aim of this course is to further develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. They will learn more advanced techniques such as empathy, building rapport, dealing with aggression and criticism, and communicating in difficult situations. (和訳) 「英語コミュニケーション研究V」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。共感、信頼関係の構築、攻撃や批判の処理、困難な状況の中でのコミュニケーションといったより高度なコミュニケーション技術について学びます。	
	英語語法研究 I	高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めていきます。	
	英語語法研究 II	「英語語法研究I」とは異なるトピックで高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めていきます。	
	英語語法研究 III	英語の語法・文法のより細かな事項を修得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 テキストをまとまりのあるものにするための文法的もしくは語彙的結束装置(grammatical/lexical cohesive device) について、具体的にテキストを分析しながら学んでいきます。文法・語法に関する専門用語を英語で学び、英語で書かれた文法書も臆せず利用できるような訓練します。	
	英語語法研究 IV	「英語語法研究III」に続き、英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 類義語の語源の違いに基づくニュアンスの違いや、話者の心的態度(法: mood)を表すいくつかの手段などについて学び、現代の英文法・語法をより総合的かつ俯瞰的に考えられるようにすることを目標とします。そのため、現代の英文法・語法に至るまでの英語の歴史的な変化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格英語研究Ⅰ	TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得をめざします。特に、企業などで利用される機会の多い TOEIC テストの出題形式の解説を行い、試験の形式に慣れるとともに、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、必要な英語力を身につけます。語彙力や文法などの総合的な英語能力を身につけます。	
	資格英語研究Ⅱ	「資格英語研究Ⅰ」に続いて、TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得をめざします。特に、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、解説を行います。TOEIC テスト形式の問題に取り組みながら、基本的語彙を身につけたり、英語を聞いたり読んだりして検定試験でより高い得点を取ることをめざします。	
	資格英語研究Ⅲ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅳ	「資格英語研究Ⅲ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅴ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅵ	「資格英語研究Ⅴ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語プレゼンテーション研究 I	<p>(英文) The aim of this course is to develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. Through lectures and various activities, students will learn how to analyze model presentations, brainstorm for ideas, organize and develop content, and write short presentations of their own. They will also learn and practice fundamental presentation techniques such as making effective note cards, using eye contact to connect with their audience, making gestures to describe objects, and using correct posture and hand position.</p> <p>(和訳) 本科目は英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力を養うことを目的とします。講義に加えて、様々な教室活動を行い、手本となるプレゼンテーションを分析したり、アイデアを出し合ったり、伝えたい内容をプレゼンテーションとして組み立てて発展させたり、短いプレゼンテーション案を書いたりします。また、プレゼンテーションに効果的なインデックスカードの作成、アイコンタクト、ジェスチャー、正しい姿勢や手の置き方といった基本的なプレゼンテーション技術についても学び、実際に練習します。</p>	
	英語プレゼンテーション研究 II	<p>(英文) Building upon the skills and concepts in English Presentation Studies I, the aim of this course is to further develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. They will learn slightly more advanced presentation techniques such as projecting their voice, speaking clearly and avoiding fillers ("um", "ah", etc.), using stress to emphasize intensifiers ("very", "really", etc.), making gestures for actions, checking for understanding when giving instructions, using sentence stress, and pausing between phrases.</p> <p>(和訳) 「英語プレゼンテーション研究 I」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力をさらに養うことを目的とします。明瞭な声を出し、はっきり話す、つなぎ言葉を避ける、強調語を強く発音する、身ぶりで動作を示す、指示を与える場合は理解しているかチェックする、文強勢を用いる、まとまりのある句と他の句の間に休止を入れる、といった少し高度なプレゼンテーション技術を学びます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初 修 外 国 語 科 目	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に文法を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰの続きです。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。ドイツ語Ⅱでは、辞書を引きながら自分でドイツ語の文章を読み、書くことができるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、Ⅲ、Ⅳ合わせて、簡単な日常会話が話せ、簡単なドイツ語の読み物を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲの続きです。基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、ここでは、具体的な場面での日常会話が話せ、ドイツ語の簡単な読み物(物語等)を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ～Ⅳ(スペイン語初級)では、初修者を対象として、スペイン語の基礎を学習します。「読む」「書く」「聞く」「話す」という4種類のスペイン語運用能力の向上をはかると同時に、スペイン語の学習を通して、スペイン語圏世界の文化の豊かさや多様性にも触れていきます。 スペイン語Ⅰ～Ⅳは共通の教科書を用いますが、Ⅰ、Ⅱでは文法説明が中心になります。Ⅲ、Ⅳでは、Ⅰ、Ⅱとの密接な連携を保ちつつ、表現学習や、文法知識を応用する形での各種練習に重点を置きます。 スペイン語Ⅰでは、文字と発音、名詞の性・数、形容詞、冠詞、重要な動詞の現在形などを学びます。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅳと連携しつつ、スペイン語の基礎文法を学びます。重要な動詞の現在形の学習を継続するとともに、再帰動詞、目的語代名詞、比較表現、不定語と否定語などの事項を学び、最後に現在進行形と現在完了形に触れます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅰの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力の向上をめざします。挨拶から始めて、日常生活の表現にチャレンジします。	
	スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅱの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅱで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力のさらなる向上をめざします。複雑で高度な内容をスペイン語で表現することにチャレンジします。	
	中国語Ⅰ	「中国語Ⅲ」と連動して行います。最初の4週で中国語の発音を習得するとともに、発音記号であるピンインを学びます。その後、基本的な文法事項と会話表現を系統的に学びます。すなわち「是」を使う判断文に始まり、形容詞述語文、名詞述語文、動詞述語文の基本形を学びつつ、それらを使った実用的な文を組み立てる練習をします。また、日常会話に欠かせない、年齢、時刻、金額などの数詞を使った文の作り方も学びます。	
	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」の続きの講義であり、「中国語Ⅳ」と連動して行われます。「中国語Ⅰ」で学んだ文法事項をふまえて、助動詞を用いる文(願望や可能の表現)、アスペクト(経験、過去、持続、進行、将然)の表し方、副詞、前置詞を用いる文など、やや複雑な語法を学びます。「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」をあわせると、中国語検定試験4級合格レベルの文法事項を習得することができます。	
	中国語Ⅲ	「中国語Ⅰ」と連動して行います。最初の4週は発音練習に充てます。その後は「中国語Ⅰ」で学ぶ文法事項を用いた会話表現の実践練習を行います。中国語による自己紹介の練習や他人の自己紹介を聞き取る練習をはじめとして、中国語のオーラルコミュニケーション(聴くことと話すこと)の力を養います。授業では履修者同士の練習が主たる内容となります。	
	中国語Ⅳ	「中国語Ⅲ」の続きの授業であり、「中国語Ⅱ」と連動して行われます。「中国語Ⅱ」で学ぶさまざまな文法事項を用いて、実用的な会話表現の実践練習を行います。履修者同士の練習を主とし、自己の願望の表現や、過去、現在の叙述、接続詞を用いる複文など、中国で生活するうえで基本となる会話表現をマスターします。会話では話す力とともに聴く力が重要であるので、中国語のリスニング能力の向上も重視します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国・朝鮮語Ⅰ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします	
	韓国・朝鮮語Ⅲ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	韓国・朝鮮語Ⅳ	一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	言語と文化Ⅰ (ドイツ)	初級～中級レベルの教材を使用し、復習を兼ねて一年次で修得したドイツ語の基礎知識を発展させることが当講義の目的です。易しいドイツ語で書かれたテキストを読解しながら、ドイツ語力を伸ばすと同時にドイツの社会、文化、歴史への理解を深めていきます。	
	言語と文化Ⅱ (ドイツ)	ドイツが近代国家になった頃から現在に至って、様々な時代的・社会的背景を物語る「ドイツ語」に挑戦します。 例えば、19世紀を代表する言語学者のGrimm兄弟の童話や20世紀の戦争の恐怖を表現するBrechtの作品に触れたいと思います。なお、ドイツ初の漫画、そして現代の社会問題をピックアップする、生きている話し言葉で書かれている漫画などを用意しています。 それぞれのテキストは分かりやすく、短いものになります。そして、授業で一緒に読んで、解説し、ドイツの社会、文化、歴史などについて考えます。	
	言語と文化Ⅲ (ドイツ)	「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を単位修得した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化IV (ドイツ)	「ドイツ語 I・II・III・IV」を単位修得した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
	言語と文化 I (フランス)	「フランス語 I・II・III・IV」で習得した基礎をしっかりと固め、さらに未習の文法事項の学習へと発展させます。それと同時に、フランスの最新の文化事情と、フランスから見た日本を考えつつ、実践的なフランス語によるコミュニケーション能力を高めます。日仏の歴史・文化・経済・政治を比較しつつ、今われわれが生きつつある世界の変容について考えます。	
	言語と文化 II (フランス)	「言語と文化 I (フランス)」に引き続き、フランス語の未習事項を学び、実践的コミュニケーション力を向上させます。同時に、フランスの最新の文化事情を知り、過去の歴史との関連の中で、理解を深めます。	
	言語と文化 III (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー（フランス語圏）に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということが不可分です。	
	言語と文化 IV (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー（フランス語圏）に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということが不可分です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅰ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ・Ⅱ(スペイン)」では、「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」の単位修得者を対象に、日本人大学生がラテンアメリカ諸国を旅行するという設定の教科書を用いて、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかるとともに、ラテンアメリカの社会や文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ(スペイン)」の継続です。ラテンアメリカの国々について学びつつ、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかります。	
	言語と文化Ⅲ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習。 a. 2) スペイン語の直説法の過去形。Imperfecto線過去、indefinido点過去、perfecto現在完了、pluscuamperfecto大過去。 a. 3) 会話の練習。 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペインの多様性：言語、歴史、地理、食文化等を日本と比較。 b. 2) サッカーと闘牛 “Fútbol y Toros”。	
	言語と文化Ⅳ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習 a. 2) Futuro (未来形)、Condicional (過去未来) Imperativo (命令形)、Subjuntivo (接続法) a. 3) 会話の練習 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペイン人の平日のスケジュール、余暇の使い方、夏休み等を日本と比較。 b. 2) 都市計画と人間関係。Gaudí (ガウディ)。	
	言語と文化Ⅰ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを単位修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅱ (中国)	「言語と文化Ⅰ（中国）」を単位修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅲ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを単位修得した学生を対象として、中国語の文章を読解しながら、(1)中国語のレベルアップを図り、(2)中国の伝統的な文化について学ぶとともに、(3)グローバル化のなかでの中国社会・文化の変化の様子を紹介します。	
	言語と文化Ⅳ (中国)	「言語と文化Ⅲ（中国）」に引き続き、中級レベルの中国語文章の読解を通じて、中国語の力（特に読解力とリスニング力）をひき上げ、それとともに中国の社会・文化への理解を深める科目です。	
	言語と文化Ⅰ (韓国・朝鮮)	韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳを単位修得し、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (韓国・朝鮮)	韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅲ (韓国・朝鮮)	歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することをめざします。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学び、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさぐっていきたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。とくに近代から1980年代までを扱います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化IV (韓国・朝鮮)	歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することをめざします。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学びながら、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさぐっていきたくと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。本講義ではとくに1980年代以降の韓国社会、南北関係、歴史認識をめぐる問題など、テーマごとに学びます。	
	上級外国語 I (ドイツ語)	初修外国語で修得したドイツ語能力を踏まえて、実践的なドイツ語の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力を中級以上のレベルに高めることが目標です。学生主体で練習問題やパートナー練習を繰り返し行い、ドイツ語検定3級以上のドイツ語運用能力の獲得をめざします。ドイツ語話者にある程度、自分の要望などを伝えることができるように、日常的な言い回しや、便利な表現なども学んでいきます。また、教科書付属のDVD教材などを取り入れて、ドイツ語圏の文化を視覚的に理解していきます。ドイツ料理のレシピ本や映画の紹介なども適宜取り入れつつ、文化的な知識や関心をひろげることも本授業の主眼のひとつです。	
	上級外国語 II (ドイツ語)	上級外国語 I (ドイツ語) で学んだドイツ語能力を踏まえて、実践的なドイツ語の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力をさらに向上させていきます。学生主体で練習問題やパートナー練習を繰り返し行い、ドイツ語検定3級以上のドイツ語運用能力の獲得をめざします。相手の要望を聞き取ったり、自分の簡単な意思を伝えるための日常的な言い回しや、便利な表現なども学んでいきます。また、上級外国語 I (ドイツ語) に引き続き、教科書付属のDVD教材などを取り入れて、ドイツ語圏の文化を視覚的に理解していきます。ドイツ料理のレシピ本や映画の紹介なども適宜取り入れつつ、文化的な知識や関心をひろげることも本授業の主眼のひとつです。	
	上級外国語 I (フランス語)	将来的にフランス語圏への留学を考えている学生やさらに上の検定取得をめざす学生など、高いモチベーションを持つ学生を対象に、フランス語圏で滞在したときに最低限困らない程度の実践的なフランス語を修得することをめざします。買う、頼む、尋ねる、断るなど、具体的な行為目的を設定し、場面にあった表現パターンを学んでいきます。またCM、映画、TVなど加工されていないドキュメントにも触れ、生のフランス語に耳を慣らしていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	上級外国語Ⅱ (フランス語)	上級フランス語Ⅰにつづき、フランス語圏で滞在したときに簡単なコミュニケーションがとれる程度の実践的なフランス語の習得をめざします。ここでも具体的な行為目的を設定し、場面にあった表現を学んでいきますが、最終的にはそれを発展させ、現地での小旅行や友人を呼んでのパーティーの企画など、グループで具体的な企画を達成することをめざします。またCM、映画、TVなど加工されていないドキュメントに触れ、生のフランス語に耳を慣らしていくことも続けていきます。	
	上級外国語Ⅰ (スペイン語)	スペイン語文法の主要部分を習得し、ある程度のスペイン語運用能力を身につけ、中級レベルに達した学生を対象とした授業です。発展的な文法知識を習得しながら、長文読解練習、作文練習、会話練習、ヒアリング練習などをおこない、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各能力をさらに高めていきます。同時に、スペイン語圏世界の国々の歴史・文化・社会への理解をさらに深めていきます。	
	上級外国語Ⅱ (スペイン語)	スペイン語文法の主要部分を習得し、ある程度のスペイン語運用能力を身につけ、中級レベルに達した学生を対象とした授業です。前期開講の「上級外国語Ⅰ(スペイン語)」からの継続であり、引き続き、発展的な文法知識を習得しながら、長文読解練習、作文練習、会話練習、ヒアリング練習などをおこない、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各能力をさらに高めていきます。同時に、スペイン語圏世界の国々の歴史・文化・社会への理解をさらに深めていきます。	
	上級外国語Ⅰ (中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。 また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	上級外国語Ⅱ (中国語)	<p>1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。</p> <p>2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。</p> <p>また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。</p>	
	上級外国語Ⅰ (韓国・朝鮮語)	<p>韓国・朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを単位修得した学生を対象に、最上級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。</p>	
	上級外国語Ⅱ (韓国・朝鮮語)	<p>韓国・朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを単位修得した学生を対象に、最上級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。</p>	
保 健 体 育 科 目	健康科学論	<p>健康に関する情報が氾濫しているとも言える今日において、それらの情報の正否は何を基準に判断すれば良いのでしょうか。また自分が今、健康的な生活を営んでいるのかどうか、何を基準に判断すれば良いのでしょうか。これらについての理解をしていないと、自分の健康を維持・増進することはできません。</p> <p>健康を維持・増進するための運動を中心とした基礎的な知識を集積し、それを実行するためには何が必要かを学習します。また、健康に関する最新の話題や身近な問題を提供します。</p>	
	運動科学論	<p>スポーツや運動にかかわる諸問題を考える場合、運動をとらえる切り口はいろいろあります。この科目では、スポーツ運動だけでなく日常的な運動も含めた、身体運動における私たちの身体の構造と機能の理解から始め、この側面から人間の運動というものにアプローチしていきます。運動に関するハードウェアとソフトウェアをながめると、あなた自身もつ「すばらしさ」と「かけがえのなさ」が見えてきます。私たちのからだや、運動をめぐるいくつかのことについて考えてみます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康科学演習	今日、運動不足やストレスの問題はますます増加の傾向にあり、これらは健康阻害の一因となっています。この科目では、「運動・スポーツ」を通じて、どのように「健康」な状態を生み出していけるのかについて考察します。まずは、健康づくりに関する基礎的な知識を学習した上で、運動時の生理的指標の変化を確認してみます。そして、明らかにしたい運動や健康に関連した実験テーマを自分で決め、正しい手続きで数値データを取り、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明します。	
	運動科学演習	人間の運動や運動の学習を材料にして「学問・研究」を行います。スポーツの熟練者は「瞬間的のものを見て取る」ことができるのでしょうか。ターゲットが何色のとき狙いやすいのでしょうか。どんなストレスが反応の速さや強さに影響するのでしょうか。運動がすぐに上達する「秘策」みたいなものはあるのでしょうか。あなたは日常の運動やスポーツについて、不思議だなあと感じていることはありませんか。 また、広島県の高校生バスケットボール国体候補選手や小学生スーパージュニア選手のタイミングコントロール能力の測定・解析も予定しています。 正しい手続きで数値データを取り、あらわれた差が偶然のものではないことを明らかにして、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明してみます。	
	健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	アダプテッド・スポーツとは、障害のある人はもちろん、幼児から高齢者、体力の低い人であっても、ルールや用具を対象者の特徴に適合(adapt)することによって展開するスポーツ活動のことです。本授業では、様々なアダプテッド・スポーツのルールを学習し、体験していきます。 また、特別支援教育に対応できるよう、障害の疑似体験者をインクルーシブしてスポーツを行います。このようなことから、アダプテッド・スポーツを理解し、どのように展開していくと、みんなが楽しむことができるのかということの理解を深めていきます。	
	健康スポーツ実習 (ゴルフ)	生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術のグループ練習やゲームを通して、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (ソフトバレーボール)	ソフトバレーボールを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (ソフトボール)	社会的健康を成熟したチームとして機能することと捉えます。この場合、自他の能力を本質的に理解することが必要とされますが、ここでは、まず他人のプレイに注意を向け、見ることで、そして、すごいな、うまいな、というレベルにとどまることなく、これを分析することに主眼をおきます。幸いにして野球型の種目では、1プレイ1プレイを記録する方法が確立されており、また他人のプレイを観察できる時間的余裕もあります。ゲームにおいては、チームメイトのパフォーマンスを記録し、これを分析し、各人の特性を生かしたプレイについてのコメントや助言を行える関係を形成します。 キャッチングやスローイング、バッティングなどの基本スキルは、部分練習も行いますが、多くはシートバッティング(守備位置について実践的バッティング練習)の中で習得します。	
	健康スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。	
	健康スポーツ実習 (テニス)	テニスを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	ニュースポーツの授業では、一般的に多くのスポーツ愛好者に普及しているオリンピック種目などとは異なる、比較的近年になって作られたスポーツを行います。ニュースポーツは、おそらくほとんどの受講者が実施した経験のない種目であり、一からルールを覚えて実施することになります。新しいスポーツに全員で取り組む中で、スポーツの有益性を学んで行くことが授業の主要目的であり、健康な心身を作るという面で運動がどのような役割を担っていけるかを考えていきます。ニュースポーツ種目のルールを把握し、自分たちでゲームを実施できるようになってもらいます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールというスポーツ種目が、果たしてからだの健康の維持増進を図る上でのスポーツとして適切であるか否かについて検討します。また、そうすることで、最適な運動とは何かを探り、環境や身体の変化に適応したスポーツ種目の選択をするための方略を学びます。 同時にバスケットボールの基本的な技術や戦術を身につけ、ルールを覚えてゲームを他の人と一緒に楽しめるようになることも目的とします。	
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	健康の維持増進を目的として、バドミントンを生涯継続してできるための基本的技術や戦術を学びます。また、バドミントンのルールや審判法を学び、チームのメンバーと協力し自主的に試合を運営します。さらに脈拍や歩数計を用いて自分の健康状態や活動レベルを確認します。	
	健康スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	プロジェクト・アドベンチャーの手法による体験学習を用いて、人間関係の健康のために最適な言動・行動とは何かを探り、人間関係を主とした環境の変化に適応するための方略を学びます。「Shudo AP」とは、広島修道大学 (Shudo) アドベンチャー (Adventure) プログラム (Program) の略です。	
	運動スポーツ実習 (アクアティクススポーツ)	スキンドайビングやスクーバダイビングで自由に活動するためには、器材の取り扱いに慣れるだけでなく、水中という特殊な環境が身体に及ぼす影響やダイバーが自然に与える影響についての理解が必須となります。そこでは安全に対する高い意識と自然に対する謙虚な姿勢が強く求められます。 フィン・マスク・スノーケル・ウェットスーツをはじめとしたダイビング器材を用いて、スキンドайビングとスクーバダイビングの基本的な技術を身につけるとともに、野外（海）で安全に楽しむために必要な知識・技術・態度を最適にコントロールすることを学ぶことで、生涯にわたってスキンドайビングとスクーバダイビングを楽しむ態度やマナーを養成します。	
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、ジュニアから高齢者、男女問わず愛好者が目立っています。また、原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであるゴルフにおいて自らのプレーを自らのレフリーとなって律するという基本精神について実践を通して学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	ソフトボールの実験を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーからなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的な技術を修得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールを最適にコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも気軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための俊敏な動きや持久力も必要となっています。卓球の楽しみ方には色々あります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、俊敏な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え、試合で効果的に用いることができるようにしたいです。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。	
	運動スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体カトレーニングなどを行います。	
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 チームプレイは、個々のプレイヤーの動作（走る、跳ぶ、止まる、向きをかえる、投げる、捕る、ころがすなど）の相互作用によって成立しています。このときのプレイヤーの関係には、(1)ボール保持者と非ボール保持者、(2)非ボール保持者と非ボール保持者という2つがあります。このことはチームプレイには最低3人が必要であることを示しています。現在のバスケットボールのチームプレイは、カットインプレイとスクリーンプレイの少なくとも一方を含んで構成されています。プレイヤーは、カットインをするか、スクリーンをするか、何もしないかによって相互作用を行うのです。授業では、チームとして、カットインやスクリーンを用いてディフェンスラインを破った状態でシュートをするための学習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	バドミントンを通して、身体を最適にコントロールすることを学びます。サーブやスマッシュ、ドロップ、ドライブといったバドミントンの個人技術を身につけ、ゲームとしてバドミントンをより楽しむことを目的とします。また、どのようにすればゲームに勝てるかの戦略を考え、シングルスやダブルスゲームを行っていきます。バドミントンでは、「目では見えているけど身体が動かない」、「当てたつもりなのに空振りをした」、「練習しているうちにいつの間にか頭で考える前に身体が動くようになった」などを経験することがあります。本授業では、こういったスポーツで経験する身体と脳の不思議や健康への貢献についても学んでいきます。	
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	バレーボールを用いて、練習方法と指導方法の関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。バレーボールのルールや審判法を学びます。バレーボールのサーブ、レシーブ、パス、スパイク、ブロックなどの基本的技術を修得し、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動を通して社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	
	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	<p>「はじめチョロチョロ、なかパッパ、...グツグツいったら火をひいて、...赤子泣くともフタとるな。」これは、炊飯器のマイクロコンピュータの中に隠されてしまった先人たちの「日常」です。この授業は、山の中で生活することによって、このようなブラックボックスと化した日常を手作業で行います。しかし、これは決して歴史への逆行や単純に「不便さ」を求めるものではありません。それは、「便利さ」をもたらす科学技術へのより深い理解をめざした学習なのです。</p> <p>また、私たちはふだん雑菌の中で生活していることをほとんど気に留めていませんが、山の中では、ちょっと気を許すと、食料は傷み寝床は虫だらけ、ということになってしまいます。ゴミを片付けたり、清潔に整理整頓しておくことは、けっして環境のためだけではありません。環境問題はきっと私たち人間にはね返ってくるということを切実に想い起こさせてくれる科目です。</p> <p>大自然は逆らおうとする者には激しく牙を剥き、友達でいようとする者には優しく応えてくれます。山での生活は、人間がまさに大自然の一部であることを感じさせてくれます。大自然の懷に抱かれて、PC・スマホゲームやカラオケボックス・テレビ・漫画以外の楽しいことを「同じ釜の飯を喰う」仲間とともにたくさん見つけます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	野外運動実習Ⅰ (スキー)	<p>冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では修得できない身体のコントロール方法です。初めてスキー板を履く人、スキーを始めたばかりの人について、重心線が常に2本のスキー板の間にある安定したポジションで、スピードコントロールをしながら安全に、山の頂上から麓まで滑って降りられるようになることを目標とします。</p> <p>一方、野外運動実習Ⅱ（スキー発展）においてパラレルポジションでのターンを修得した人については、ブルークポジションで左右のエッジをすばやく切り替えることによる、より短いタイミングでのターンの修得を目標とします。いずれも、しっかりと「谷足にのる」感覚を身につけてもらいます。</p> <p>また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。</p>	
	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	<p>野外運動実習Ⅰ（キャンプ）で行う、テントの設営と撤営、鉋を用いた薪割り、かまどにおける火起こしと炊事、などのいわば理論的側面を主に扱います。「理論」といっても机の上で行うではありません。理論化するということは、体系的に言語化するということです。</p> <p>ほかの人に伝えようとしても、内容が十分に理論化されていない場合は、聞いている人が「ん?!」という顔をします。</p> <p>この授業では、テントを張る順番がなぜ決まっているのか、ご飯が炊けるとはどういうことなのか、火や鉋がこの上もなく危険なものとなるのはどういときか、などを体系的に言語化し、「整理」して、キャンプⅠの受講者にわかりやすく「伝達」することの学習を行います。</p> <p>また、Ⅰにはない、ロープワーク、クラフト、ナイフや鉋の手入れ、見えない相手との通信方法などの学習も予定しています。</p>	
	野外運動実習Ⅱ (スキー発展)	<p>冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では修得できない身体のコントロールです。</p> <p>スキー発展では、クロスオーバーのあるターンができるようになることを基本とし、そのターンを基にした大回りのパラレルターン・小回りのパラレルターンの修得を目標とします。また、新雪や不整地など様々な状況に合わせた滑り方の学習も行います。さらに、板をずらさないカービングターンについても学習します。</p> <p>また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	学 部 入 門 科 目	<p>世界と地域</p> <p>国際コミュニティ学部での学びの基軸となる、「グローカリズム」の考え方を身につけることをねらいとする科目です。この科目では、グローバルな課題群と地域社会の課題群の関連性を意識できるようにするための視点や事例を取り上げます。この科目の学びを通じて履修生が、グローバルな課題を通じて地域社会の課題を見つめる姿勢と、地域社会の課題からグローバルな課題を見つめる姿勢を手に入れることをめざしています。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 王 偉彬・3 名波 彰子・4 船津 靖・5 三上 貴教・6 矢田部 順二・7 柳生 一成・8 樋口 真魚・10 伊藤 敏安・12 宇野 伸浩・26 佐渡 紀子・31 TOWNSEND, Jana.M.・35 竹井 光子・47 広本 政幸・51 HOY, Keith C.・54 三浦 浩之・62 矢部 恒夫・68 木原 一郎・71 JAMES, Daniel・73 篠原 新・85 矢野 秀徳/1回) (共同)</p> <p>国際コミュニティ学部の理念 教員紹介</p> <p>(2 王 偉彬・3 名波 彰子・5 三上 貴教/1回) (共同)</p> <p>国際政治から社会を見る①</p> <p>(4 船津 靖・7 柳生 一成・26 佐渡 紀子/1回) (共同)</p> <p>国際政治から社会を見る②</p> <p>(6 矢田部 順二・8 樋口 真魚・12 宇野 伸浩/1回) (共同)</p> <p>国際政治から社会を見る③</p> <p>(31 TOWNSEND, Jana.M.・35 竹井 光子・51 HOY, Keith C.・71 JAMES, Daniel/1回) (共同)</p> <p>相互理解のコミュニケーション</p> <p>(10 伊藤 敏安・47 広本 政幸・73 篠原 新/1回) (共同)</p> <p>地域政策から社会を見る①</p> <p>(54 三浦 浩之・68 木原 一郎/1回) (共同)</p> <p>地域政策から社会を見る②</p> <p>(62 矢部 恒夫・85 矢野 秀徳/1回) (共同)</p> <p>地域政策から社会を見る③</p>	オムニバス方式・共同

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	異文化理解論	<p>多文化共生社会において必要とされる異文化理解能力（態度・知識・技能）を身につけることを目的に次の3つのテーマでオムニバス形式の講義を行います。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(35 竹井 光子／5回) 「文化」「言語」「コミュニケーション」の3つをキーワードとして、異文化コミュニケーションについて考えるときに必要な概念を理論的、体系的に論じます。文化の定義、コミュニケーションの定義、言語と文化の相互作用などを踏まえた上で、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの特徴や機能を理解し、異文化コミュニケーションの実践の場で活用できるようになることをめざします。</p> <p>(12 宇野 伸浩／5回) 文化人類学の研究にもとづき、文化の定義をふまえて、具体的なトピックから文化の違いを考察します。トピックとしては、食べ物、よそおい、コミュニケーションにおける身体の使用法の3つを取り上げます。この3つのトピックについて、文化の違いを越えた人間としての共通性がどの点にあり、文化によるバリエーションがどの点に生じるかについて解説し、文化についての理解を深めることをめざします。</p> <p>(4 船津 靖／5回) 世界人口の過半数が一神教の信徒かその文化圏に属する現実を踏まえ、大半の日本人にとっては理解が容易でないユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本思想、古代から現代に至る主な展開、地理的分布などを宗教史的に論じます。東アジアの仏教的、儒教的文化、さらには天皇制との比較宗教社会学的な考察も行い、理解を深めます。現代の一神教世界の人々と接する際の実践的な注意点にも触れます。</p>	オムニバス方式
	日本と世界の現代史	<p>第二次世界大戦後の日本と世界の政治変動を解説します。冷戦から冷戦後の国際政治の変化と日本社会の変化が、どのように関わり合うのかを捉えることが目標となります。</p> <p>具体的には、国際関係史の立場と日本政治史の立場に分けて、時系列的に全体で12のテーマを設定し講義します。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 矢田部 順二・8 樋口 真魚／3回) (共同) 授業の概要、まとめ、質疑応答</p> <p>(6 矢田部 順二／6回) 冷戦期の世界</p> <p>(8 樋口 真魚／6回) 冷戦期の日本</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治の考え方	<p>ニュースでとり上げられることや、日常生活の中で見聞きすることが、どのように政治や行政と関わっているかを理解することを、目的とします。毎日の生活の中で起こっていることや、情報として触れていることが、政治や行政とかわっていることを、意識できるようになることをめざします。回によっては、説明されたことを素材にし、政治や行政の影響や、政治や行政に関係する問題について考え、自分の意見をまとめたり、他の人と意見交換をしたりするという作業を行います。</p> <p>具体的には、政治学の観点と行政学の観点に分けて、日常生活で見聞きする事象を解説し、受講者がそれらについて考えていけるよう助言します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47 広本 政幸・73 篠原 新/3回) (共同) 授業の概要、前半のまとめ、質疑応答、後半および全体のまとめ、質疑応答</p> <p>(73 篠原 新/6回) 日常生活のなかの政治、政治学が捉える日常生活</p> <p>(47 広本 政幸/6回) 日常生活のなかの行政、行政学が捉える日常生活</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	社会のしくみ	<p>社会とはどのようなものか、について、法と政治の視点から考え、日々の生活が社会生活の一部分であることを認識することを目的としています。個人の生活はその人だけのものではなく、周囲の他者との間で複雑かつ多岐にわたって関係しており、個人と社会は相互に依存し合っています。法は社会の基盤を整え、政治は現実の諸問題への解を模索し、国会を通じて法を作り出し、また、変えていきます。他方で法は適用範囲を解釈により広げ、また、狭めていく作用を持っています。法と政治によって社会がどのように構築され、変容されているかの認識を深めていきます。</p> <p>具体的には、法律学の観点と政治学の観点に分けて、人と社会に関係する事象を解説し、受講者がそれらについて考えていけるよう助言します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(62 矢部 恒夫・85 矢野 秀徳/3回) (共同) 授業の概要、前半のまとめ、質疑応答、後半および全体のまとめ、質疑応答</p> <p>(62 矢部 恒夫/6回) 人と社会に関する法の世界、法律学が捉える人と社会</p> <p>(85 矢野 秀徳/6回) 人と社会に関する政治の世界、政治学が捉える人と社会</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 基 礎 科 目	国際政治入門	<p>初学者が国際政治学の学問領域の広がりを意識できるように、学科教員が自らの研究領域と国際政治学の関係性を解説していくオムニバス授業です。この作業の中では国際政治学を考える際の分析方法や視点が提示されます。国際政治学の学問領域に包括的に触れることで、国際政治学科における学びの全体像を理解し、2年次以上での学びのアウトラインを鳥瞰することが目標です。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(6 矢田部 順二／1回) 授業の概要、国際社会と私たち</p> <p>(3 名波 彰子・5 三上 貴教・7 柳生 一成／3回) 国際社会と私たち</p> <p>(2 王 偉彬・4 船津 靖・8 樋口 真魚／3回) 世界諸地域と私たち</p> <p>(6 矢田部 順二／1回) 世界諸地域と私たち、授業のまとめ</p>	オムニバス方式
	社会科学入門	<p>地域や世界で課題となっている事象を素材として、考察を深める練習をします。児童虐待対策、社会的弱者への支援対策など、また難民問題や異文化摩擦問題などを、各回のテーマにします。各回のテーマに関して、どのような立場からどのような意見があるかを確認し、ゲストスピーカーを迎えて、授業で活動に関する説明をしていただきます。ゲストスピーカーに学生がインタビューを行う時間も設けます。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(47 広本 政幸／4回) 授業の概要、地域課題から考える</p> <p>(6 矢田部 順二／4回) 国際問題から考える、授業のまとめ</p>	オムニバス方式
	体験実践A	<p>学外学習プログラムの中から実習先を選択し、約2週間の実地作業を経験する科目です。派遣前には学外学習の準備や心構えに関する事前授業が用意されています。国際政治学科学生の実習先は、国際社会が抱える課題への問題意識の醸成や国際理解の深化にとって有効と考えられる現場（海外実習および国内実習）を設定しています。</p> <p>この科目は「体験実践論」と同時に履修することが求められ、学外学習後には、「体験実践論」の中で、報告会にむけた準備作業を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体験実践B	<p>学外学習プログラムの中から実習先を選択し、約4週間の実地作業を経験する科目です。派遣前には学外学習の準備や心構えに関する事前授業が用意されています。国際政治学科学生の実習先は、国際社会が抱える課題への問題意識の醸成や国際理解の深化にとって有効と考えられる現場（海外実習および国内実習）を設定しています。</p> <p>この科目は「体験実践論」と同時に履修することが求められ、学外学習後には「体験実践論」の中で、報告会にむけた準備作業を行います。</p>	
	体験実践論	<p>原則として「体験実践A」または「体験実践B」と同時に履修します。またこの科目は、1-2年次のうちに1度は履修することが求められます。</p> <p>この科目で履修者は、学外学習における目標設定と過ごし方を事前学習として検討します。学外学習後にはそれぞれの「経験」を個別に内省し、そこに国際政治学科における学びとのつながりを発見し、他者にその気づきを語る「体験の言語化」プロセスを実践します。個人ワークと共有、ディスカッションの双方向型の学びを繰り返しながら、個人経験を社会とのつながりの中で捉える力を養成します。</p> <p>第1回：授業ガイダンス、学外学習の心構えと目標設定  第2回：健康管理と日誌のつけ方  （以上、学外学習の事前授業として）  第3回：個別的体験のふり返りと共有  （以下、学外学習の事後授業として）  第4回：内面のふり返り  第5回：社会課題との連関を考える(1)  第6回：社会課題との連関を考える(2)  第7回：クラス内発表による共有化  第8回：報告会への準備</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部国際政治学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 科 目	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 領 域	Cross-Cultural Communication	<p>(英文) This course prepares students to deal more effectively with cultural encounters and transitions both abroad and in Japan. Conducted in English and Japanese, it introduces discovery exercises and small group and paired activities in: (1) building knowledge and understanding of concepts related to culture and cultural awareness; (2) developing skills in recognizing, assessing and ameliorating situations where cultural differences may adversely affect communication; and (3) practicing in Japanese, then in English, skills and techniques in assertive and empathetic communication. It aims to equip students with the fundamental knowledge and skills for building cultural competence and furthering personal and professional relations in a variety of intercultural situations.</p> <p>(和訳) 国内外を問わず、異文化との出会い・適合によりよく対処できるようになることをめざします。英語と日本語を使用し、文化的発見を促す演習や少人数・ペアワークによる実践的な活動を通して、(1) 文化や文化的意識に関わる主要概念を認識・理解する、(2) ミスコミュニケーションが引き起こされかねない状況を察知・判断し、事態を首尾よく収拾するスキルを身につける、(3) 相手の立場への理解・共感を伴いつつ自己を主張することができるコミュニケーションのスキルを日英両言語で演習する、の3点に焦点を当てます。文化的コンピテンスを高め、異文化交流の場面で個人間・職業面での対人関係を向上するのに必要な基礎的な知識とスキルを身につけることをねらいとします。</p>	
		Hiroshima Studies	<p>広島に暮らす大学生として、「広島・ひろしま・ヒロシマ」の魅力や特色を英語で語り世界に発信していくための知識、技能を習得するための学習と訓練を行います。国際平和都市としての意義を考えつつ、広島県内にある二つの世界遺産の一つである「原爆ドーム」をはじめとして平和記念公園内にある碑、供養塔や資料館に関する知識を身につけるとともに、その知識を土台として海外からの訪問者を実際に英語で案内するための演習を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Japan Studies	<p>(英文) This course aims to help Japanese students re-discover, investigate and explain aspects of their “hidden” culture for the main purpose of becoming more proficient at responding clearly and intelligibly to FAQs posed by people from other cultures. The course deals with selected topics in the form of “Why and How Questions” ranging from those directly associated with daily living to those linked to more complex socio-cultural issues. Core content knowledge is introduced through interactive lectures, audiovisuals and readings, while students are guided through a process of further inquiry in small groups to build and deliver dialogue-style explanations bilingually.</p> <p>(和訳) 異なる文化的背景を持った人たちが抱く日本文化についてのFAQに対して、日本人学生が自信を持って明確に答えられるよう、自らの文化の「見えにくい側面」を再発見、探究し、説明できるようになることをめざします。「なぜ?どのように?」という疑問を中心に、日本の日常生活からより複雑な社会・文化的な課題にまで多岐にわたるテーマを扱います。双方向講義、映像教材、文献を通して学んだ知識をもとに考え、少人数グループで協同し、最終的には日英語による「対話形式」の発表に仕上げます。</p>	
	Introduction to Research	<p>(英文) This course is for students who want to improve their research skills in English. It will be divided into two main areas: the first area will focus on skills for searching, collecting, analyzing and editing information. The second area will focus on skills for presenting that information in either written or oral form. All students will be expected to select their own topics on such themes as current world affairs and political issues, and make an oral presentation or submit a report during the course.</p> <p>(和訳) 英語によるリサーチに必要なスキルを高めるためのコースです。必要な情報を検索、収集、編集するための手法を学び、その情報を文書または口頭発表の形式にまとめるための技能の習得をめざします。各自で世界の情勢や各国の政治などに関するテーマを定め、口頭によるプレゼンテーションやレポート作成を課します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Introduction to Public Speaking	<p>(英文) This is a performance-based course which focuses on an introduction to public speaking. Students will learn the content, organization and delivery behind 4 kinds of speeches: introduction, informative, persuasive and demonstrative. They will also learn how to use visual aids, where appropriate to enhance their presentations. Besides public speaking, there is an emphasis on group discussions dealing with follow-up questions, summarizing what others have said and debating differing points of view. By mastering these skills, students will have the confidence necessary to interact successfully in public settings such as meetings and conferences involving international participants.</p> <p>(和訳) パブリックスピーキングを行なうために必要となる実践的技術の習得をめざします。紹介、情報提供、説得、論証のスピーチ4タイプについて、内容、構成、話し方に留意しながら、視覚補助の有効な活用手法についても学びます。さらに、スピーチ発表に基づいた質疑応答、グループディスカッション、ディベートなどへと発展させます。これらの技術の修得によって、国際会議などを含む公の場での相互交流に必要な自信を培うことをねらいとします。</p>	
	Academic Research & Presentation	<p>(英文) This course will be mainly targeted towards students who wish to advance their social science studies at graduate levels in an institution either in Japan or abroad and develop the skills that were started in Introduction to Research and Introduction to Public Speaking. Academic English Skills will be further improved with more emphasis on researching, writing and presenting skills. All students will be expected to select their own topics according to their majors as well as making and submitting a short research paper to accompany the presentation during the course.</p> <p>(和訳) 主として国内外の社会科学系の大学院への進学を考えている学生を対象に、Introduction to Researchと Introduction to Public Speakingで学んだ内容を、研究調査、論文作成、発表の技能に焦点を当てながらより専門的なレベルにまで高めます。各自の専攻分野に合わせたテーマを定め、口頭発表を行うとともに、研究小論文にまとめることを求めます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Global/Regional Studies A (Modern China)	<p>国際理解に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際社会への関心を高めることが目標です。</p> <p>外国の文献や映像教材を用いて授業を行います。主に中国に関する英語の記事等を取り上げ、外国の視点から現代中国を読み解きます。</p>	
	Global/Regional Studies A (Japan's Foreign Policy in the International Aspects)	<p>国際理解に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際社会への関心を高めることが目標です。</p> <p>環境問題やテロといった地球規模の課題が増加する現在において、海外諸国は日本に対してどのような役割を求めているのでしょうか。海外諸国が過去と現在の日本をいかに捉え、未来の日本に何を求めているのかについて検討します。具体的には、英字新聞や雑誌記事を読み進めながら、海外メディアから見た現代日本の外交問題やその歴史的背景について解説します。歴史的な文脈を踏まえつつ、国際社会において日本が果たすべき役割について英語で議論できるようになることを到達目標とします。</p>	
	Global/Regional Studies A (Introduction to Czech Modern History)	<p>国際理解に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際社会への関心を高めることが目標です。</p> <p>現在はヨーロッパ連合の加盟国となったチェコ共和国の20世紀史を扱います。1918年に独立してからのチェコ現代史は多難な道を歩きました。民族問題を抱え、東西冷戦の狭間に翻弄されたこの国の現代史を知ることで、国際政治における小国の現実を考えます。外国の情報を得るには英文資料が有益であることを知るために、チェコ史に関する英文資料を用います。履修者は国際政治やヨーロッパ政治を語る上で必要な英語のボキャブラリーや表現をマスターすることを目標とします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Global/Regional Studies B (Miyajima Studies)	<p>国際理解に関するトピックについて、担当教員が用意する教材や課題を用い英語を使って授業が行われます。全15回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際社会への関心を高めることが目標です。</p> <p>広島県内にある二つの世界遺産の一つである「厳島神社」について歴史的・文化的背景を踏まえつつその知識を深めます。さらに観光客に人気のスポットとしての「宮島」の魅力を英語で語るための情報収集や調査および情報発信のための訓練を行います。民間外交官として重要な役割を担っている「通訳案内士（通訳ガイド）」試験を念頭におきつつ、実際に海外からの訪問者に宮島をガイドするための演習を行います。</p>	
	Global/Regional Studies B (Understanding Global/Regional Issues)	<p>国際理解に関するトピックについて、担当教員が用意する教材や課題を用い英語を使って授業が行われます。全15回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際社会への関心を高めることが目標です。</p> <p>最終的には受講生がさまざまな場面において、英語をちゅうちょせず活用し、またグローバル・リージョナルなイシューについて英語で自分の言葉で表現することを目的としています。そしてその目的を達成するため、以下の内容を設定します。(1) グローバル・リージョナルイシューに関わる英語文献の講読（全文読解）、(2) グローバル・リージョナルイシューに関わる英語の資料映像の視聴（字幕なしで視聴と理解、ディスカッション）、(3) グローバル・リージョナルイシューに関する発表とディスカッション。授業内で積極的な英語の活用が求められるため、受講生には授業外での課題が毎回与えられ、自習が必要とされます。</p>	
	International Affairs (Peace and Security)	<p>国際問題に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際政治に関する理解を深め、あわせて自らの考えを英語で表現する力を高めることが目標です。</p> <p>国際問題、特に平和や安全保障に関する理解を、英語文献を用いて深めることをめざします。本講義では、予習課題として英語文献の読解を行い、授業において英語文献の要約を行います。また、それらの成果を相互に共有することで、読解や要約内容の改善を行います。継続的に英語を用いた情報収集と表現の機会を持つことで、国際問題に対する理解に加えて、英語の読解力や表現力を向上させることをめざしています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	International Affairs (Understanding International Issues)	<p>国際問題に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際政治に関する理解を深め、あわせて自らの考えを英語で表現する力を高めることが目標です。</p> <p>最終的には受講生がさまざまな場面において、英語をちゅうちょせず活用し、また現代の国際問題について英語で自分の言葉で表現することを目的としています。そしてその目的を達成するため、以下の内容を設定します。(1) 現代の国際問題全般に関わる英語文献の講読(全文読解)、(2) 現代の国際問題全般に関わる英語の資料映像の視聴(字幕なしで視聴と理解、ディスカッション)、(3) 現代の国際問題全般に関する発表とディスカッション。授業内で積極的な英語の活用が求められます。</p>	
	International Affairs (Reading some important articles of Foreign Affairs)	<p>国際問題に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際政治に関する理解を深め、あわせて自らの考えを英語で表現する力を高めることが目標です。</p> <p>世界的に著名なアメリカの外交雑誌、Foreign Affairs誌(以下FA誌)の重要論文を読み進めます。FA誌は、ジョージ・ケナンのX論文、サミュエル・ハンチントンの文明の衝突論等、国際社会の動向や主要国の外交政策にも大きな影響を与えてきました。近年、『フォーリン・アフェアーズ・レポート』として、一部が邦訳されていますが、原書は英語です。FA誌には国際情勢に対する鋭い洞察と、独創的な視座に富む論文も数多く掲載されています。伝統的な英文和訳のスタイルを取りつつも、国際情勢についての最新の情報をいち早くつかみ取っていきます。</p>	
	International Affairs (Discussing stimulating arguments in Foreign Affairs)	<p>国際問題に関するトピックについて、英字新聞や雑誌記事などを教材として用い、英語を使って授業が行われます。全8回で完結します。英語の総合的運用力の向上をめざすとともに、国際政治に関する理解を深め、あわせて自らの考えを英語で表現する力を高めることが目標です。</p> <p>世界的に著名なアメリカの外交雑誌、Foreign Affairs誌(以下FA誌)掲載の重要論文の主張を掌握した後、その内容に関するディスカッションを行います。FA誌にはこれまでも、ケナンのX論文、ハンチントンの文明の衝突論等、大きな論争を惹起した刺激的な論稿が数多く掲載されてきました。内容理解については伝統的な英文和訳のスタイルを取りつつも、論文を厳選して、受講生間の討論を中心に展開していきます。国際情勢についての最新の情報をいち早くつかみ取り、それに対する自らの意見を形成し、発信できる力を養っていきます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 政治 領域	国際政治学	<p>国際政治学は、国際社会を理解しようとする知的営為の蓄積を修得し、それを土台に世界に自らの意見を発信する力を身につけることを課題としています。つまり国際政治学理論を基礎に、創造性と想像力を発揮して自分なりの意見を作り上げ、それを的確に世界の人々に伝える力が大事となります。</p> <p>そのための学びの一つとして、ここでは具体的な問いとそれに関連する理論に焦点をあて、国際政治学の専門的知識を修得していきます。</p>	
	国際組織論	<p>国連をはじめとする国際組織は、国際社会の組織化や国境を越える課題への対応において、協議の場（フォーラム）として機能することもあれば自らアクター（行為主体）となることもあります。このような多面性をもつ国際組織は、いかなる国際環境の下、どのような経緯を経て誕生したのでしょうか。いかなる性質や特徴を持つのでしょうか。そして、現在の国際関係における可能性と課題はなんでしょう。歴史的経緯をふまえてこれらを検討します。できるだけケーススタディを盛り込み、国際組織が「生きている」様子について理解を深めます。</p>	
	国際政治経済	<p>今日切っても切れない関係である政治と経済の組み合わせから国際関係を考察していきます。まず国際政治経済の理論研究を行った後、当該分野の様々な問題・事例について検討を行います。具体的な事例を考察することを通じ、ものすごいスピードで政治と経済の相互作用が深化し続けるグローバル社会を理解することを目的とし、同時にそこから生じる新しい事象（ナショナリズムの高まりなど）の検討を行います。</p>	
	国際開発論	<p>「しあわせとはなにか」をテーマに、歴史的経緯を踏まえつつ、国際関係における国際開発の概要と課題を学びます。また、国際開発を実施する上で密接に関連する国際協力のあり方に焦点を当てます。国際開発論を実際の社会の動きと照らし合わせつつ学ぶことも本授業の重要な目的のひとつです。そのため、新聞をはじめとしたニュースリソースや視聴覚教材を用います。</p>	
	国際協力論	<p>安全保障や人権、人道、開発、環境といった様々な 이슈にどのようなアクターが関わるのか、また、その際にどのような論点があるのか理解を深めます。授業では国際連合（国連）を中心的に取り上げつつ、それが国際協力において他のアクターといかなる関係にあるかに着目します。また、日本の国際平和協力の現状と課題についても検討を行います。日本政府が実施する国際平和協力は、PKOや平和構築、ODAなど多岐にわたります。各イシューにおける日本の取り組みを取り上げます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	外交政策論	<p>政策決定者たちの利害関係は一樣ではありません。また、外交政策を決定するうえで相手国の動向も無視することができません。本講義では、国際政治の理論モデルに触れつつ、政策決定過程における個人・国家・国際関係の果たす役割やそれらの相互関係について検討します。具体的には、太平洋戦争、日米安保条約改定、沖縄返還交渉などの日本外交史上の重要トピックを事例として、外交政策に関する合意形成過程を跡付けします。</p> <p>国内政治と国際政治の連関性に留意しつつ、歴史的制約条件の下で各個人が果たした役割を把握することが到達目標です。</p>	
	安全保障論	<p>安全保障に対する考え方を修得することをめざします。そのためにまず、安全保障の捉え方を概観したうえで、脅威の多様化に触れながら、安全保障を強化するために生み出されてきた制度や考え方を取り上げます。そして、安全保障政策の特徴と変化を、その背景に触れながら分析します。これらの学びを踏まえ、安全保障を高めるための選択肢の多様性や、それらの効果と限界への理解を深めることをめざします。参加者間での意見・情報共有の機会をもちながら、進めます。</p>	
	平和学	<p>平和学における、平和に対する考え方を修得することをめざします。そのために、まず、平和の発祥とその背景を取り上げます。ここでは武力紛争が重要なテーマとなります。そのうえで、平和学の発展過程をたどりながら、平和学が何を平和への脅威としてとらえてきたのかを示します。具体的には、貧困（格差）、環境破壊、人権問題などです。これらの学びを通じて、平和への脅威に対する平和学の考え方とその意義を共有します。参加者間での意見・情報共有の機会をもちながら、進めていきます。</p>	
	紛争と平和	<p>紛争原因および紛争解決のアプローチを把握することをめざします。そのためにまず、武力紛争の背景と経緯を取り上げ、武力紛争の姿をより具体的に把握する機会をもちます。そのうえで、武力紛争の原因分析を取り上げ、紛争解決のためのアプローチを検討します。これらを通じて、武力紛争の原因の多様性や、解決に向けたアプローチの効果と限界を認識することをめざします。なお、事例を用いた、履修生による紛争原因や解決策の検討プロセスを組み入れて展開されます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際日本学	世界の中の日本について考察します。自分自身の社会における存在意義は、社会そのものの理解なくして見定めることはできません。その社会が日本という国家と重なる部分が多いとき、世界の中の日本についての理解なくして自分自身のアイデンティティも定まりません。世界の中の日本について、特に日本のソフトパワーは何か、という問いを土台に講義を進めます。その検討において、影響力ある世界ランキングを活用します。世界の中の日本を柱に、ランキングを通して世界各国の状況にも切り込んでいきます。	
	国際ジャーナリズム論	ニューヨーク・タイムズ紙、CNNテレビ、BBC放送、AP通信など言論の自由を掲げる米英メディアが大きな影響力を持つ国際報道の歴史と現状を概観した上で、国際社会の公共財として自由で多様であるべきメディアと、情報統制に傾く政治権力・大組織との緊張・共犯関係を講義します。中東紛争、一神教の特徴、テロリズムなど現代の国際ニュースを理解するのに有益な基礎知識を解説するほか、実務経験に基づき国際報道の実際や舞台裏も適宜紹介します。	
	国際移動研究	「人の移動」に焦点をあて、国境を越える人の流れが生み出す社会的・政治的問題について考察を行います。冷戦終結以後、内戦などの紛争の激化に伴い、世界の難民は増加の一方であり、近年ではヨーロッパを揺るがすシリア難民の問題などがあります。また、よりよいライフスタイルを求めて自ら国籍国を離れる移民も増加しています。このような国際的な人の移動について、難民や移民に関する国際理論について学び、その後様々な事例を用い、理解を進めていきます。	
	NGO・NPO論	近年国際・国内政治において、主要アクターとして認識をされてきたNGO・NPOについて、その役割や課題について考察を行います。まずNGO・NPOをめぐる理論を学び、その後NGO・NPOが取り組む国内外のさまざまな事例を用いていきます。また、近年日本で着目をされる災害後の学生ボランティアについても事例を検討します。NGO・NPOの役割はそれぞれが置かれた政治的・社会的背景により大きな影響を受けるということの理解を進めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際人権論	第二次世界大戦後、国際的な人権保障制度の発展はめざましく、国連が人権の尊重を促進するほかにも、人権保障を目的とする条約が次々と作られ、各国による条約の履行を監督する条約機関も設立されてきました。欧州などでは地域的な人権裁判所もできています。それらの制度の歴史的発展と概要を講義します。その中において日本との関係や重要な事例も扱います。 制度の全体像の理解にとどまらず、人権保障における意義や問題点などを考え、人権のより良い実現とは何かを探究することが目標です。	
	国際政治特論A (ジェンダーと国際社会)	国際社会が直面する諸課題を、ジェンダーの視点から把握することをめざします。そのために、分析視座としてのジェンダー概念について整理し、国際社会との関わりにおけるジェンダー分析の意味と役割について検討します。具体的な事例として、国際社会が直面する諸課題（人権、文化的多様性、経済格差、戦争・紛争と安全保障など）を取り上げ、これらの課題についてのジェンダー分析を試みることで、課題解決への道筋を探るためのより深い理解と複眼的なアプローチを学びます。	
	国際政治特論B (核兵器と国際社会)	国際政治の具体的なトピックを分析することによって国際政治の実態を深く理解することをめざします。国際社会と核兵器の関係性に焦点をあて、特に北朝鮮の核開発問題や北東アジアの安全保障環境の分析を通じて、核兵器をめぐる国際状況を理解することをねらいとします。具体的には北朝鮮の核開発の背景や意図、北朝鮮の核開発が周辺国及び国際社会に及ぶ影響、韓米・日米同盟関係、そして、北朝鮮の人権・人道問題、日本の安全保障問題などを取り上げます。日本における論調にとどまらず韓国など他の国における論調も取り上げることで、国際社会と核兵器に対するより深い理解を促します。	
地域 研究 領域	日本政治外交史	日本は、19世紀後半の「西洋の衝撃」を契機として、主権国家体制への参入を余儀なくされました。ここにおいて、日本の対外関係は西洋世界へと拡大し、近代的な意味での「外交」が展開されることとなります。 19世紀後半から20世紀後半までの約100年にわたる日本外交の歩みを、帝国主義、総力戦、冷戦といったグローバルな現象に伴う国際関係の変動に留意しつつ、概観します。日本外交史の基礎的知識を修得するとともに、現代日本における外交課題を歴史的な文脈から捉えなおすことを到達目標とします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	東洋政治外交史	<p>「アヘン戦争」以後、欧米列強の東アジア進出が強まりましたが、日本の明治維新や中国の「洋務運動」が、19世紀後半の近代化を求めるアジアの代表的な動きでした。日露戦争、日韓併合、日中戦争、太平洋戦争及び中国の国共内戦等が20世紀前半の主な出来事だとすれば、中米対立や中日の「政経分離」及び朝鮮半島・中国大陸と台湾の分断は、20世紀後半の東アジア国際関係の特徴といえます。</p> <p>21世紀以後、中米間の様々な摩擦や、歴史問題や尖閣諸島（中国名：釣魚島）問題をめぐるとの対立が続き、北朝鮮の核問題や日朝・日韓関係の問題も存在します。</p> <p>東アジアを中心に、近代以後の国際関係が如何に展開されたのか、その国際関係の構造的特徴を解説します。</p>	
	西洋政治外交史	<p>一般に、近代国際社会の国際関係は、三十年戦争ののちに成立した西欧国家体系が世界に拡散する過程と考えることができます。本講義では、ヨーロッパ外交史を基礎としながら、ナショナリズムの登場や、資本主義の発達と社会の変化、世界の植民地化と帝国主義の対立、第一次世界大戦、ファシズムと第二次世界大戦、を主要なトピックとして、20世紀前半までのヨーロッパ国際関係の歩みを概説します。</p> <p>歴史は現在と過去の対話といわれますが、現代の国際政治が形成された背景を歴史的な文脈の中に位置づけることをこの科目の目標とします。</p>	
	政治と社会 (中国)	<p>中国について、経済の成長や富裕層の拡大等のイメージがあれば、格差問題や環境問題及び一党独裁等のイメージがあります。また、21世紀は中国の世紀になるだろうという議論があれば、中国はそろそろ崩壊していこうという見方もあります。中国には様々な「顔」があります。</p> <p>「中国像」をどう捉えるべきか。この問題を問いながら、政治、経済、文化、外交、イデオロギー等の多角的な視点から、現代中国を見ます。</p>	
	政治と社会 (アメリカ)	<p>日本と同盟関係にある超大国アメリカは、自由と民主主義を掲げる合衆国憲法を基礎に多民族・多人種の統合をめざすダイナミックな「理念の共和国」です。この巨大で複雑な隣国を理解するため、植民地時代以降の歴史、憲法の構造、政治制度、経済、地域的特性などを概観した上で、現代の政治・外交・軍事問題の主要な論点、さらに人種、銃、格差など現代社会の諸問題について講義します。外交では中東と東アジア、少数民族ではアジア系とユダヤ系、地域では情報・金融・文化の世界的中心都市ニューヨークに重点を置きます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治と社会 (ヨーロッパ)	ヨーロッパ連合 (EU) の加盟国が28カ国にまで増加した現在、ヨーロッパの政治と社会を知るには、欧州統合の問題を避けることはできません。 ヨーロッパの複雑な民族・言語分布を概観したのち、欧州統合の歴史を扱います。さらにEUの仕組みを概観し、とくに冷戦終結後のEU拡大の諸問題、統合の深化の問題など、EUの実際の政策に焦点を当てながら、EUが抱える課題を論じます。多様性の中の統合という現代ヨーロッパ社会の実相を、歴史的背景に留意しながら把握できることが到達目標です。	
	政治と社会 (中東)	中東は国際紛争の焦点の地です。古代からさまざまな帝国や宗教集団、諸民族が覇を競ってきた広大かつ複雑な地域で、まんべんなく触れるのは不可能です。講義では、①イスラム教を中心としキリスト教、ユダヤ教を含む一神教の誕生と展開、基本思想、現代への影響、②日本の同盟国アメリカとイスラエル、パレスチナ、イラクとの関係、の2つを軸とします。パレスチナ紛争やイラク戦争を現地で取材した見聞や分析も紹介します。国際テロリズム、日本・EU・ロシア・国連との関係にも適宜触れ、現代の国際安全保障の諸条件についても考察します。	隔年
	民族と社会	文化人類学、歴史学の考え方にもとづき、民族とは何か、国民国家とは何かについて解説します。そのうえで、世界各国の先住民族問題を取り上げ、オーストラリアのアボリジニ、カナダのカナダインディアン、日本のアイヌなどの先住民族の具体的な事例にもとづき、先住民族の権利、先住民族に対する同化政策、先住民族と環境問題など、先住民族をめぐる政治問題について考察します。	
	文明論研究	文明とは何か？ 史上、多くの文明が存在しましたが、滅亡または連続性が断ち切られたものが多いです。諸文明の中で力強く伸びて、世界に支配的な地位を築き上げたのは西洋文明のみです。 しかし、近年、欧米では時々経済の不況や金融危機に陥ったりします。資本主義を経済システムとして世界を席卷した西洋文明がもう終焉になるのではないかとの議論もあります。 一方、優れた文明を有した中国は、近代以後に衰退しましたが、近年、経済の成長による「中国の台頭」が見られます。中国文明は再起できるのでしょうか。 また、異なる文明が衝突する、または共存し得るといふ議論も注目されています。 西洋文明、中国文明、日本文明等を解説しながら文明の問題を考えます。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域研究特論A (オセアニア)	南太平洋に位置するニュージーランドは、中規模国家でありながら、さまざまに革新的な政策を導入し、例えば、公的部門改革 (NPM)、非核政策、南太平洋を重点とした全方位外交、そして積極的な難民・移民の受け入れを行っています。これらの政策について具体的な事例を活用しながら、オーストラリアや日本との比較考察を行います。また、ブーゲンビルやフィジー、パプアニューギニアなど、あまり知られていないが南太平洋において政治的・社会的に重要な島嶼地域にも着目して、その概要と課題を理解します。	隔年
	地域研究特論A (ロシア)	ロシアは、冷戦期にはソ連として、米国ほか西側諸国と鋭く対立した歴史をもちますが、冷戦後は急速に変貌し、現在またその動向が注目されます。今なお、世界最大の面積を有する多民族国家であり、中央＝地方関係の中に、複雑な民族問題を内包する国です。 この国の現状を知る上で必要な歴史・政治・文化に関する基本的情報を地域研究の立場から整理し、ソ連史の延長上に現在のロシア政治の特質をあぶり出します。現代国際関係におけるロシアの政治的役割を理解し、その特色を説明できるようになることを到達目標とします。	隔年
	地域研究特論A (東欧)	東欧諸国はかつて冷戦期には、ソ連を盟主とする社会主義圏に組み込まれ、「もうひとつのヨーロッパ」と称された歴史をもちますが、多様な民族からなる地域であり、現在では欧州統合との関連で急速に変貌しています。 この地域の現状を知る上で必要な歴史・政治・文化に関する基本的情報を地域研究の立場から概観し、この地域が歴史的に抱えてきた民族問題の特徴を考えます。東欧地域の地域的特色を自分なりに説明でき、この地域を事例に民族問題の本質を考えることが目標です。	隔年
	地域研究特論A (中央ユーラシア)	中央ユーラシアに居住するモンゴル系・トルコ系民族は、遊牧という固有の伝統生活を維持し、歴史上、文明社会に大きな影響を与えてきました。この科目では、中央ユーラシアを代表する民族であるモンゴル系民族、トルコ系民族の言語・文化・歴史を解説するとともに、社会主義圏の崩壊以後、モンゴル国、中国内モン古、ロシアの中央アジアの遊牧社会に生じた様々な問題について考察し、この地域の政治的課題について考えます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域研究特論B (日欧比較文化)	<p>(英文) This course will deal with a few current cultural and political events in Europe and EU.</p> <p>Some aspects of the history of Europe will be introduced, including the latest changes in it and EU as well as geography, languages, religion, customs etc. in the wider context of European relationship with Japan.</p> <p>I will also put some stress on still unknown in Japan European countries such as Poland. We will study about holocaust and the biggest Nazi concentration camp in Auschwitz.</p> <p>The course will be conducted more as a seminar than a lecture where the active participation of the students will be required, such as short quizzes, reading texts in Japanese and English.</p> <p>At the end of each class we will watch a documentary introducing unknown parts of Europe or some European topics.</p> <p>(和訳) ヨーロッパとEUにおける現代の文化的、政治的なできごとを取り扱います。日欧関係のより広い文脈から、ヨーロッパやEUの最新の変化だけでなく、ヨーロッパ史のいくつかの側面が地理、言語、宗教、習慣を含め、概説されます。また、ポーランド、日本、欧州諸国でまだよく知られていないことがらに力点をおきます。私たちは、ホロコーストとアウシュビッツにあったナチ最大の強制収容所について検討します。</p> <p>短いクイズや日本語と英語のテキストを読む作業とともに、学生の能動的な参加が求められる点で、講義形式よりもセミナー形式の授業として実施されます。毎回の授業の最後には、よく知られていないヨーロッパのいくつかのトピックを紹介する映像を見ます。</p>	
	地域研究特論B (韓国・朝鮮)	<p>現代の朝鮮半島の政治・社会・国際関係を学びます。韓国は、民主主義政治体制と発達した市場経済を有し、米国と同盟関係にあるなどの点で日本と共通点があります。しかし、植民地支配を経験し、解放後は国家が分断され、急速な経済成長を遂げる一方で、抑圧的な政治体制に置かれた経緯があります。この講義では、分断国家の成立、戦争と冷戦、権威主義政治体制、経済発展、民主体制への移行と定着、安全保障と核問題、日韓関係などについて、比較政治学と国際政治学のいくつかのアイデアを用いながら、考えてみます。</p>	
	地域研究特論B (東南アジア)	<p>各国の政治史を平板的に述べるのではなく、各国が現在直面している政治的・外交的問題について解説します。具体的なテーマとしては、〈グローバリゼーション〉〈民主主義の定着と安定〉〈政治的腐敗〉〈貧困と格差〉〈中国との関係〉などを取り上げます。</p> <p>受講者のほとんどは、東南アジアの現代政治についての基礎知識を持たないと思われます。そこで、現代東南アジアで進行中の「ホット・イシュー」について理解し、新聞の国際面を読める程度の知識とリテラシーを身につけてもらうことを目的とします。</p>	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
政治 ・ 経済 領域	政治学概論	政治学に関する基礎的な概念や理論を、具体的な事例に即して講義します。概論という科目の特性上、「広く浅く」という形になりますが、他の政治学関係科目を学ぶ上での基本的知識を身につけてもらうことを目的とします。 主なテーマは、〈国家とナショナリズム〉〈権力と正当性〉〈自由主義と民主主義〉〈福祉国家〉〈イデオロギー〉〈議会と選挙〉〈政党と政党システム〉〈社会運動と政治〉などを予定しています。	
	政治思想	政治についての基礎的な概念、観念は古典古代ギリシアとそれを継承した近代ヨーロッパにおいて形成されてきました。西洋政治思想とその基礎概念、問題の展開を、代表的な思想家のテキストを読みながら検討します。	
	日本の政治	日本の政治、とくに第二次世界大戦後から現代までの日本政治の仕組みや実態についての知識を得ることを目的とします。第二次世界大戦後、日本の政治がどのような軌跡を辿ってきたのか、また、現代の日本政治がどんな仕組みによって動いているのか、さらには、そこでいかなるアクターが活動し、どのような問題に直面しているのかなどについて説明します。 当時の資料や映像などを用いたディスカッションや、関連する時事問題についてを解説する予定しています。	
	政治過程論	政治過程論と政治学の関係や政治過程論における代表的な理論やモデルを概説します。また、これらの理論やモデルが日本政治に示唆することについても説明します。こうしたことを通じて、政治過程論の基礎を理解し、自らで政治について分析する力を得ることを目的とします。	
	憲法原論	平和主義・国民主権・基本的人権の尊重という日本国憲法の基本原則の歴史的背景及びその置かれている現状の検討を通して、日本国憲法の全体像を明らかにすることを狙いとしています。まず、日本国憲法がどのように制定されたか、すなわち、日本国憲法の原点を学び、続いて基本原理に関して学説・主要判例を整理します。また、新聞記事などを素材として最新の憲法問題も積極的に取り上げる予定です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代経済入門	現代社会の経済面を理解するために、家計・企業といった個別意思決定主体の行動の相互作用現象をとらえる市場メカニズムの分析（ミクロ経済学）と国民経済を枠組みとして「失業」・「インフレ」といった社会全体の経済現象を分析する国民経済の動向（マクロ経済）に関する標準的な考え方を概観します。また、国民経済が20世紀を通じてより強まってきた国外とのつながりについて、歴史や制度を含めて経済学の立場（国際経済学）から考えます。	
	マクロ経済学	マクロ経済現象を見る眼を養うことを目的として、標準的なマクロ経済学の理論と政策を解説します。国民所得統計、新聞の経済記事、基本的な数学的手法の解説や演習問題も導入します。	
	国際経済論	国際経済学のうち、財の国際取引を対象とする国際貿易を扱います。まず、国際貿易のパターンがどのように決まるのかについて学びます。さらに、国際貿易をめぐる政策が経済に与える影響について学びます。具体的には、(1)貿易の利益、(2)比較優位と貿易パターン、(3)産業内貿易、(4)国際間生産要素移動、(5)貿易政策、(6)地域経済統合などについて講義形式で解説していきます。これらについて学ぶことを通じて、グローバル経済のメカニズムとグローバル経済が抱える問題を理解する視点を身につけることを目標とします。	
	国際貿易論	「国際貿易」という事象に焦点を当て、その基礎的知識を修得します。特に、「なぜ貿易は必要なのか」という点を明らかにします。そのために、貿易理論ならびに国際貿易に係る歴史、制度、政策について学びます。 その上で、第二次世界大戦後における国際貿易を成長エンジンとした東アジア地域の経済発展メカニズムにも言及します。近年では市場経済化を進める中国の存在感が増大しており、その貿易動向は東アジア地域へ大きな経済的インパクトを与えています。 国際貿易の基礎を踏まえた上で、国際貿易を軸にダイナミックな経済成長を続ける東アジアの様相について検証します。	
	政治・経済特論A (裁判と法)	裁判や司法に関するニュース報道のほか、法律に関する関心を前提としたテレビ番組もあります。もめごと（紛争）のすべてが法律で解決されるわけではなく、また、法律による解決がいつでも求められとはかぎりませんが、裁判は、紛争を法的に解決する制度として存在し、機能しています。この授業では、裁判とは何か、裁判は誰がどのようにかかわっているか、裁判にはどのような種類があるかについて、「裁判員制度」、「法テラス」、「ADR」も取り上げながら、考えていきます。裁判という紛争の法的解決手段について関心を持ち、理解するための学習へのきっかけになることをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治・経済特論B (政治と歴史認識)	歴史上の文明社会がどのような歴史観を持っていたかについて、代表的な歴史書をもとに近代以前の歴史認識について考察します。また、近代国民国家における歴史学の発展、国民に対する歴史教育について解説したうえで、世界各国の高校の歴史教科書をもとに、歴史観・歴史認識の違いを比較考察します。さらに、従軍慰安婦問題などを含む第二次世界大戦に対する各国の歴史認識の違い、歴史認識と政治の関係について考察するとともに、ジェンダー史、ワールドヒストリーなどの新しい歴史認識の傾向についても言及します。	
学科 連携 科目	行政学	日本の中央政府による行政を理解することを、目的とします。行政、行政府の立法、行政の拡大、中央官庁の仕組み、中央官庁再編などを解説する中で、重要な用語を説明し、その用語に関係する事例を紹介します。また、各中央官庁の組織と取り組みも説明します。各回のテーマとして取り上げられたことが、新聞記事でどのように報じられているかを確認します。学習の到達目標は、中央政府による行政に関するニュースを理解できるようになることが目標です。	
	地方自治論	地方創生が国の根幹の政策として位置づけられる中、自治体の果たす役割が今ほど求められている時はありません。また、従来はサービスを受け取る客体とされてきた住民の役割も大きく変容し、住民参加による住民自治のあり方も改めて問われています。地方自治に関する諸制度について解説するとともに、地域福祉、都市計画など地方自治をめぐる課題に対する自治体の取組事例についても紹介し、学生自らが地域の諸問題を認識し、それについて考え抜く力の修得をめざします。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政策概論	子ども、学校、仕事に関係する日本の政策を理解することを、目的とします。児童虐待対策、いじめ対策、小学校での英語教育、赤ちゃんポストへの対応、育児休業制度、ニート対策、子育て支援策、スポーツ振興策、代理出産への対応、教員の精神疾患対策、不登校対策などを解説する中で、重要な用語を説明し、その用語に関係する事例を紹介し、各回の授業のテーマとして取り上げられたことが、新聞記事でどのように報じられているかを確認します。学習の到達目標は、各政策に関するニュースを理解できるようになることです。	
	ソーシャルイノベーション論	<p>ソーシャルイノベーションの理念、原理、価値について理解し、最先端の事例を知り、対象地域の社会課題の解決に応用できるようにします。</p> <p>地域の社会課題の解決を通して創造された集合知としてのコミュニティや社会変革の担い手としての新しい社会起業家等が社会に与えるインパクト、さらには社会的インパクト投資等、イノベーションを生み出す社会を形成する持続可能な仕組みについて理解します。</p> <p>地域の社会課題を発見し、ビジョンをもとに着想し、創造性を発揮して、その解決を図るための立案・実践がどの様に行われているかを理解します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(54 三浦 浩之・68 木原 一郎/2回) (共同) ソーシャルイノベーションの理念・原理・価値と社会的起業家、ソーシャルとビジネスをつなぐ</p> <p>(54 三浦 浩之/7回) 社会課題 (気候変動、地震、エネルギー、食料自給、森林、ものづくり、人口減少、高齢化、人口密度、多世帯化) ソーシャルイノベーションの最前線 (子育て、女性、環境、伝統) ソーシャルイノベーションを生み出すための資金 ソーシャルイノベーションの社会的インパクト</p> <p>(68 木原 一郎/6回) 社会課題 (コミュニティ、結婚・出産、育児、子ども、経済格差と雇用、外国人、犯罪、医療・介護、自殺、生活習慣病) ソーシャルイノベーションの最前線 (農業、障害者) ソーシャルイノベーションの担い手 (社会的起業家、学生)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域コミュニケーション	地域の社会課題や地域資源から新しい価値を創造していくために、コミュニケーションの手段を理解します。そのなかで、コミュニケーションとしてのデザインと地域の関係を理解し、思想やスキルを修得し、状況に応じて使い分けることができる様にします。また具体的な事例を取り上げ、実際にどの様に地域に定着し、新しい価値を生み出したかを理解し、応用できるようにします。これらを総合的に活用し、地域の人々とのコミュニケーションを実践できるようにします。	
	社会政策論	人間が安定的に生活を営んでいくための主たる制度的・政策的仕組みである労働・雇用と社会保障を取り上げます。なお、社会保障については、年金保険、雇用保険、公的扶助といった所得補償政策が中心となります。 こうしたいわゆる「セーフティネット」に関する知識を身につけ、我が国の社会保障や労働のあるべき姿について自分なりの見解を持ってもらうこと、少なくともその素地を形成することを目的とします。	
	法律学概論	法律学といってもさまざまな法律があります。憲法、民法、刑法といった知名度の高い法律や法分野もあれば、行政法、会社法、労働法といった身近ではありますがなじみの薄い法律や法分野もあります。また、法律学と隣接領域（歴史学、社会学、思想史など）と結びついた分野や、一国の領域を超えた国際的な法現象を扱う分野もあります。 こうしたさまざまな法律や法分野の姿をできるだけ簡明にその特徴を浮き彫りにできるようにしていきます。  (オムニバス方式／全15回) (61 矢野 達雄／3回) 法学基礎を内容とし、法学入門、裁判規範と法、法体系、法の継受、法の分類、法解釈学などを講じます。  (28 鈴木 正彦／4回) 民事法分野を内容とし、民法の基本、契約、当事者、法律行為、商法、会社法などを講じます。  (86 山崎 俊恵／3回) 刑事法分野を内容とし、刑法の基礎、犯罪と刑罰、刑事手続き、裁判員制度などを講じます。  (57 村上 博／5回) 行政法分野を内容とし、法治主義、行政作用、行政事件訴訟、行政組織、公務員、地方自治などを講じます。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際法	<p>国際法は、主として国家・国際組織間の関係を規律する法と言われますが、外交関係、海洋、宇宙、国際経済、および武力紛争など多様な領域を規律しています。講義形式を中心として、それらの領域に関する基本的な制度および理論を概観するとともに、それらの領域に共通する総論的な事項、すなわち、国際法の存在形式(法源)、条約の解釈、国家責任などの理解をめざします。</p> <p>国際社会における国家・国際組織などの活動や関係を規律する法の全体像を把握し、その理念や特徴を理解することが目標です。</p>	
	労働法	<p>労働法は民法の特別法として20世紀に整備されてきた法領域で、使用者と労働者の関係を契約関係としてとらえます。実際には契約締結における弱者である労働者を保護するために、労働条件について法による基準を定め、使用者に遵守させます。労働組合の結成と活動を認め、労働条件に関する使用者との団体交渉、ときには争議行為も認めています。こうした労働法のポイントとなる項目について、概観から、より深く、より広く、他の項目との関係にも留意しながら説明し、労働法に関する全体的な理解をめざします。</p>	
	社会調査論	<p>社会調査の方法の基礎を学びます。まず、社会調査の課題の設定について検討します。次いで、変数、測定尺度について理解します。概論的な内容となりますが、テキストの内容の理解を通して、実際に調査を行う場合にも役立つ知識を修得していきます。調査票の設計、標本調査の考え方や標本抽出の方法、調査データの整理から結果の報告へ、と進みます。社会調査において看過できないのは、その倫理をめぐる視座です。個人情報取り扱い、インフォームド・コンセントなど、随時、社会調査と倫理についても言及します。</p>	
	特別講義A (マスコミ文章講座)	<p>書き手の思いが読み手に伝わる文章を書く力を伸ばすことをねらいにした科目です。講義は、座学と実作を組み合わせを進みます。伝わる文章の要件を分析・確認し、具体的なテーマを設定して履修生自身が文章を作成します。そして、作成した文章の検証を行います。これらの取り組みを通じて、読み手を意識した、伝わる文章を作成できるようになることをめざします。この科目は、マスコミ・メディア志望の学生の履修に適しています。</p>	
	特別講義B (リサーチリテラシー)	<p>卒業研究やゼミ論文の作成に必要な研究に関する基礎的なスキルの修得を目的とします。研究論文とは、エッセイや感想文などとは異なり、問いを立て、証拠を挙げながら論証していくものです。また、論文を書く際には、注の活用や引用など、研究論文に特有のルールや技法を活用する必要もあります。そこで本講義では社会科学領域における研究論文の作成に焦点をあて、問いの設定、情報収集、文章作成のルールを取り上げます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別講義B (行政法)	行政法が民法や刑法などの科目と異なる点は、行政法という名前の法律が存在しないことです。しかし行政法は、現行法律の大半を占めており、私たちの日常生活と密接に関連する法分野です。そのため、「犬も歩けば棒に当たる。君も歩けば、行政法に当たる」(阿部泰隆)とか「六法のかなめ(要)を占める行政法」(高木光)とされています。そこで、行政法の全体像の概略を説明します。	
演 習 科 目	基礎演習	2年次生のための少人数クラスで、ゼミ形式で運営されます。1年次での学びを基礎に、学習スキルをブラッシュアップさせ、国際政治学における知識の専門性を高めます。同時に、報告と質疑を通じて、3年次以上における高度な学びに必要な、表現する力、議論する力を伸ばします。担当教員ごとにゼミのテーマが設定されます。	
	ゼミナール a	3・4年次生のための少人数クラスで行われる授業です。履修生自身がテーマを設定し、調査・発表し、相互に議論するという、能動的な学びが実践される科目です。複数のゼミナールが開講されるため、履修生は個々の関心に応じて、国際政治学領域のより専門的な学びを実践することができます。継続性の観点から、原則としてゼミナール a とゼミナール b は同一担当者の演習をセットで履修することが求められます。また、学びをより深めるために、3年次、4年次と継続しての履修が推奨されます。	
	ゼミナール b	3・4年次生のための少人数クラスで行われる授業です。履修生自身がテーマを設定し、調査・発表し、相互に議論するという、能動的な学びが実践される科目です。複数のゼミナールが開講されるため、履修生は個々の関心に応じて、国際政治学領域のより専門的な学びを実践することができます。継続性の観点から、原則としてゼミナール a とゼミナール b は同一担当者の演習をセットで履修することが求められます。また、学びをより深めるために、3年次、4年次と継続しての履修が推奨されます。	
	卒業研究	4年次生のための成果評価科目です。国際政治学科における学びの集大成として、履修者は国際政治学に関する論文等、個別の関心に沿って卒業研究作品を仕上げます。履修者は、ゼミナール b に所属し、担当教員からの指導を受けることが求められます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キ ャ リ ア ・ 実 習 科 目	キャリアデザイン	<p>キャリアデザインとは、自分らしい生き方、働き方を考えていく理論と方法です。これまで以上に不確実で予測困難な時代の中で、「個人」と「組織」の関係性も従属的依存する関係から自律的協働関係へと大きくシフトしています。「働く」ということが自分自身の能力や興味、価値観を表現する機会であるならば、自分らしさを可視化し、自律的キャリアを形成しデザインしていくことは、“人生”というまだ見ぬ未開の地を進んでいく為に、必ず役に立つ未来地図や羅針盤を創ることでもあります。</p> <p>それらを各種ワークを通して、体系的に見える化することで、アイデンティティ・キャピタル（自分自身の価値）を参加者同士で高め合い、学びを深めていきます。</p>	
	インターンシップA	<p>この科目は、国際政治学科の学びに関連する仕事（国際交流や国際協力など）とはどういうものか、そもそも働くとはどういうことか、を考える機会として、就業体験をおこなうことを目的とします。実習に先立って、マナー講座を含めた数回の事前学習がおこなわれ、現場での実習ののちは、就業体験から得た気づきをまとめる事後学習が予定されます。実習期間は1～2週間を予定しています。</p>	
	インターンシップB	<p>この科目は、国際政治学科の学びに関連する仕事（国際交流や国際協力など）とはどういうものか、そもそも働くとはどういうことか、を考える機会として、就業体験をおこなうことを目的とします。実習に先立って、マナー講座を含めた数回の事前学習がおこなわれ、現場での実習ののちは、就業体験から得た気づきをまとめる事後学習が予定されます。実習期間は4週間程度を予定しています。</p>	
	長期インターンシップA	<p>長期インターンシップAは、4週間程度を実習期間とするもので、通常インターンシップが職場体験や就業体験を主とするのに対して、従業員と同様の勤務を上記期間にわたり実施し、より具体的かつ実践的に長期インターンシップ受入先における就業を経験するものです。</p>	
	長期インターンシップB	<p>長期インターンシップBは、8週間程度を実習期間とするもので、通常インターンシップが職場体験や就業体験を主とするのに対して、従業員と同様の勤務を上記期間にわたり実施し、より具体的かつ実践的に長期インターンシップ受入先における就業を経験するものです。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	長期インターンシップ事前・事後指導	長期インターンシップ事前・事後指導は、インターンシップが長期にわたることを前提とし、学年による異なる成果に対応できるように準備し、また、終了後の学修へのサポートを意図するものです。	
	地域プロジェクトA	学生たちがチームを組み、世界的な視点から地域社会で必要となる課題解決のプロジェクトや地域社会から提示される具体的な課題解決のプロジェクトに、在学中に学んだ様々な知識や分析力を駆使して取り組むものです。課題解決のための手法・工程を学生自ら立案し、地域の人々とともに実行していきます。とくに具体的な課題に関して、調査対象を選定し、調査方法を計画し、その調査結果の分析内容を地域の人々と共有できるようにします。その各段階に必要な「場」の設定や実行するための体制作りに関しても自ら立案し、地域の方々や地方自治体と協働し、実践できるようにします。	共同
	地域プロジェクトB	学生たちがチームを組み、世界的な視点から地域社会で必要となる課題解決のプロジェクトや地域社会から提示される具体的な課題解決のプロジェクトに、在学中に学んだ様々な知識や分析力を駆使して取り組むものです。課題解決のための手法・工程を学生自ら立案し、地域の人々とともに実行していきます。とくに学生が社会奉仕活動を地域の人々や地方自治体の方々と協働することによって、新たな観点からの気づきや学びを得るようにします。また、プロジェクトの成果は、地域コミュニティの再構築や政策展開に生かしていきます。	共同
	グローバル・プロジェクト入門	海外での先進的・革新的まちづくりに関する調査において、現地調査時の学びや気づきを増やせるようにします。そのために、調査を行う都市・地域を仮定し、規模・気候・都市構造(インフラ)・基幹産業等の基礎知識や歴史等の背景を調査し理解します。またその調査結果を学生自身が所縁のある都市と比較することによって、感覚的にも理解し、比較のなかでデータの分析をすることができるようになります。現地調査時にロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得するために、実際に現地に行く意義や調査のテーマ設定・事前準備の方法を理解します。	
	グローバル・プロジェクトA	才能が集まり賢く成長する街として全米でもっとも住みたい都市となっているPortland(アメリカ)を取り上げ、PSU(Portland State University)と連携して、フィールドワークとレクチャーを組み合わせたプログラムを通して、ロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得し、広島でも応用できるようにします。 特にPortlandの社会的状況、都市形成の過程、社会課題の検証方法・解決プロセス、PortlandにおけるPSUの果たす役割を理解し、広島における活動地域において応用可能な事例の選択や事例応用のプロセスを立案できるようにします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル・プロジェクトB	<p>才能が集まり賢く成長する街として全米でもっとも住みたい都市となっているPortland（アメリカ）を取り上げ、PSU（Portland State University）と連携して、フィールドワークとレクチャーを組み合わせたプログラムを通して、ロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得し、広島でも応用できるようにします。</p> <p>また広島での革新的なまちづくり実践の事例を紹介することやPortlandの社会課題に対して課題解決方法を立案するワークショップ等を行うことによって、広島での知見を現地に提供できるようにし、対話し知見を掛け合わせることで双方にとって新たな知見を修得できるようにします。</p>	
学部 関連 連 科 目	日本史概論Ⅰ	<p>日本の古代～近世における歴史的な諸特質について概説します。</p> <p>各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。そのため、歴史におけるある時点の「常識」（たとえば教科書の記述などがそれにあたります）が、歴史研究の進展などによって非（否）「常識」へと変化したケースも多々あるのです。</p> <p>そのような歴史研究の成果をふまえて、本講義では古代から近世の日本社会の特色を多面的に考察し、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。</p>	
	日本史概論Ⅱ	<p>日本近代史を中心にその近代化のあり方について概説します。（授業の展開上、導入的に日本近世史の内容も一部含みます。）</p> <p>日本近代史の諸特質は、今まさにわれわれが存在する現代社会との「連続性と非連続性」をもっているといわれます。また、各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。そのため、歴史におけるある時点の「常識」（たとえば教科書の記述などがそれにあたります）が、歴史研究の進展などによって非（否）「常識」へと変化したケースも多々あるのです。そのような歴史研究の成果をふまえて、「近代化」をめざした日本が歩んだ道を考察し、それが世界の歴史においていかなる意味をもったのかという視点も加えつつ、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	東洋史概論Ⅰ	<p>社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生を対象とするとともに、アジアの各地域の国家と社会に興味がある学生も対象とします。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(150 津坂 貢政／10回)</p> <p>我々は中国に対して極めて皮相的で画一的なイメージを先行させがちです。広大な「中国」は、多くの民族、複雑な環境、多様な文化を内包しており、そこには我々を引きつけてやまない魅力と、日本との関わりをはじめ、様々なことを考えさせてくれるきっかけがあります。</p> <p>紀元前2000年ごろから現代に至るまで、中国がたどってきた履歴を通史的にながめ、今日の中国がどのような歴史的土壌の上に成立した国であるかを考えます。概説にありがちな、文字資料からの知見をもとにした平板な叙述にならないために、この科目では、各地に保存されている文物や考古学調査によって新たに発掘されたモノ資料も積極的に利用しながら、各時代の特色をより具体的に把握することに努めます。</p> <p>(12 宇野 伸浩／5回)</p> <p>アジアを構成する地域の中で、中国以外に世界史上大きな影響を与えた地域は、イスラム世界と中央ユーラシア世界です。イスラム史として、ムハンマドのイスラム教創始、近世のオスマン朝・サファビー朝・ムガル朝の鼎立をとりあげます。一方、中央ユーラシア世界の遊牧民は、歴史上、国家形成、都市地域・文明地域の支配を繰り返してきました。その事例として、匈奴と突厥、遼、モンゴル帝国をとりあげます。東アジアと西アジアを視野に入れたマクロな視点からユーラシアの歴史を把握することに努めます。</p>	オムニバス方式
	東洋史概論Ⅱ	<p>社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生のためのものです。ただしそれ以外にも、東アジア世界への関心などから、中国という国の歩みに興味があるという学生も対象です。「東洋史概論Ⅰ」を基礎編とすると、その発展編にあたります。ただし「概論Ⅰ」の内容も振り返りながら授業を進めることにします。</p> <p>「概論Ⅰ」では中国史を通史として概観しますが、本授業では中国史を彩るいくつかの特徴的なトピックを取り上げて、少し細かくそれらの歴史をたどってみます。時に応じて、中国の文化と日本の文化などを比較検討するなどして、それぞれの文化の共通性や独自性にも着目してみたいと思います。</p>	
	西洋史概論Ⅰ	<p>先史時代から現代に至る西洋の歴史を概観します。重要な事柄について時代を追って見ていきますが、その時々社会のあり方、人びとの考え方といったことにも触れてみたいと思います。西洋史を理解する鍵となるキリスト教については、特に詳しく論じます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋史概論Ⅱ	前近代を中心に、ヨーロッパの人たちがどのように生きていたか、詳しく見ていきます。時系列に沿って進めるのではなく、各回一つのテーマを取り上げ、様々な角度から検討を試みます。	
	人文地理学Ⅰ	地理学は最も古い学問の一つでもあり、新しい学問でもあります。 人文地理学は地球表面上において展開する人間活動の諸現象を地域的に空間的に理解する学問であり、研究対象は産業や人間生活など多様です。 日本や諸外国における文化現象を捉え、その背景やメカニズムについて学習することによって、地域的背景を基礎とした文化について人文主義地理学や社会地理学などの近年の地理学の新しい動向から考えることを目的とします。 授業内容には、教員免許取得との関連から、高等学校地歴科地理や中学校社会科の教員になるための必要知識を修得するための基礎的内容を含みます。	
	人文地理学Ⅱ	都市構造(インナーシティや郊外地域)の変化や人々の生活行動に着目して、都市社会地理学の概説を行います。	
	自然地理学	人間生活の土台といえる、日本各地で一般的に認められる山地・平野・変動地形などの地形の成り立ちと、そこに住む人々の特徴的な暮らしについて解説します。特に、地形と人々の暮らしの関係は、現代社会においては「自然災害」として「負」の側面が強調されがちですが、本講義では、両者の関係の「正」の面といえる、地形を活かした暮らしを取り上げ、物事の多面的な見方・考え方を教示します。 地図作業を積極的に取り入れることで、専門的な用語による理解にとどまらない、地形に関するイメージの知識の理解や、地形図から地形を認識できる能力を修得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地誌Ⅰ	<p>「世界地誌」はアネクメーネ（永続的居住困難地域）である南極大陸以外の、人間活動が大いに展開しているエクメーネの大陸別地誌について主に扱います。すなわち、(1)アフリカ、(2)アジア、(3)ヨーロッパ、(4)北ユーラシア、(5)北アメリカ、(6)南アメリカ、(7)オセアニアの順に、それぞれ、位置と自然（地形、気候等）、産業（農林水産業、鉱工業）、人口と集落（村落、都市）、（大陸内の）地域区分とその特性、日本との関係の5項目について基本的にみていきます。各大陸の主要観点は次の通りです。</p> <p>(1)アフリカ…熱帯大陸、高原大陸としての特徴。貧困問題。</p> <p>(2)アジア…数多くの大山系、モンスーンアジアと乾燥アジア。巨大人口の存在。</p> <p>(3)ヨーロッパ…高緯度地域にあるが、稠密な人口密度と都市網。</p> <p>(4)北ユーラシア…寒冷半乾燥地域が広大で人口希薄。豊富な地下資源。</p> <p>(5)北アメリカ…高度に進化した農業、工業、都市化。</p> <p>(6)南アメリカ…熱帯大陸。モノカルチャー（単一生産）問題。</p> <p>(7)オセアニア…乾燥大陸。企業的穀作、牧畜と地下資源。</p>	
	地誌Ⅱ	<p>「日本地誌」は日本全体の特徴（自然環境と人文環境）について深くふれたのち、7つの地方ブロック毎、すなわち九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の順に、それぞれの地域的特色について扱っていきます。この場合、各地方別地誌の基本的項目は、位置と歴史的背景、自然的基礎、人口、村落と都市、第1次産業、第2次産業、交通・観光、（地方ブロック内部の）地域性と地域区分、の各項目です。</p> <p>以下、それぞれの地方別地誌についての主要な視点・留意点について列挙しておきます。</p> <p>(1)九州…（九州本島の）北高南低、西高東低型の人口・工業・都市の分布。亜熱帯気候の沖縄の特色。</p> <p>(2)中国・四国…近畿と九州の回廊的性格。瀬戸内、山陰と南四国。</p> <p>(3)近畿…西日本の中核的地域。大阪大都市圏。</p> <p>(4)中部…日本アルプス。日本海側、内陸部、太平洋側。関東と近畿の中間にある位置的有利性。</p> <p>(5)関東…日本の中心。東京大都市圏。</p> <p>(6)東北…日本海側と太平洋側の違い。米の単作地帯。</p> <p>(7)北海道…日本の高緯度地域。冷涼な気候と広大な人口密度希薄地域。</p>	
	哲学概論Ⅰ	<p>岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書、2003年）を精読することで、西洋哲学の大きな流れを学びます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	哲学概論Ⅱ	哲学思想の総論的理解を踏まえたうえで、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方などの現代的諸課題の哲学的分析を通じて、哲学的なものの見方・考え方を養うとともに、「哲学」という視点から現代社会を見直すことの重要性を理解し、解決に向けての方途を模索します。	
	倫理学概論Ⅰ	西洋倫理学の基本的事項について見ていきます。西洋の倫理学説は、大きく見て、「義務倫理学」の立場か「価値倫理学」の立場をとります。両者の相違についてまず見、それに当てはめながら代表的な倫理学説について検討します。	
	倫理学概論Ⅱ	私たちは日常生活を営む中で、様々な困難に直面します。そのとき私たちは生きていく上で考えずにはいられない「問い」と出会います。日常生活の身近な問題を取り上げ、その「問い」について倫理学の代表的な考え方をもとに考えていきます。	
資格課程に関する科目	教職に関する科目	教職入門 (中等)	教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する学習を通して、自分が本当に教師という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを考える機会を提供します。自分の描いてきた教師像、子ども像、学校という場を現実のそれらと比較して、これからの教育に関する研究の視点を再構築します。
		教育心理学 (中等)	中等教育学校現場で有用な実践力の基礎を学びます。「教育心理学(中等)」では、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとし、さらに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力を養うことをめざします。 (1)教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、中等教育学校現場での今日的課題について考えます。 (2)中等教育学校現場で求められる「実践力」とは何かについて心理学的見地から考えます。 (3)「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育原理 (中等)	<p>教育問題が話題に上らない日はありません。しかし、それらはともすればセンセーショナルに語られ、一過性のことがらとして忘れさられ、また新たな教育問題がとりあげられているということが繰り返されています。</p> <p>この授業では、(1)そうした一時的な関心から踏みこむこと、そして、(2)傍観者としてではなく当事者として関わるための意識をどうやって育むかについて、教育学の基礎的な知見と対照させながら講義を進めていきます。</p>	
	教育制度論 (中等)	<p>現代の公教育を支える法的構造に基づいて教育制度を理解した上で今日の制度改革を検証します。また、学校での教育課程編成のあり方を、学習指導要領に示された国の基準や教育委員会の示す地方の基準を踏まえながら明らかにし、その今日的な課題を新学習指導要領の研究を通して把握します。</p>	
	中等社会科教育法A	<p>中学・高校時代の経験から、社会科、特に地理・歴史分野については、暗記するだけの教科とのイメージが強いでしょう。しかし、社会科とは、本当にそういう教科でしょうか。</p> <p>そこでまず、そもそも社会科とは何か、なぜ学校で社会科が教えられるのか、という根本的な部分から社会科について考えてみたいと思います。そして次に、地理・歴史分野について、社会科の授業をつくりあげていくためのいろいろな考え方を学んで、各自なりの「社会科観」を育てるようにします。</p>	
	社会科・地理歴史科 教育法A	<p>これまで行われてきた社会科の枠組みにおいて高校地理歴史科も行われるべきだという基本認識に立って、高校地理教育、日本史教育、世界史教育の目的、カリキュラム、授業構成の講義を通して、地理歴史科教師に必要な教授能力を育成します。</p> <p>そのために、教育原理や授業原理に基づいて地理教育、歴史教育の目標、カリキュラムに関する類型化を施すとともに、その類型化にしたがって実際の地理授業や歴史授業を視聴したり指導案を分析したり作成したりします。</p>	
	社会科・公民科教育 法A	<p>公民分野に必要な教授能力を育成するために、教材研究、授業分析及び授業構成に関する個々人の研究・指導力を培います。とりわけ、教授実践に重点化するために、特定単元の教材研究、授業分析、授業構成を各人が追求し、よりよい公民授業を創造することをめざします。</p> <p>この目的のために、公民科を社会的教科と捉え、公民科の目標、カリキュラム、教材研究、教科書研究、授業分析について講義し、公民授業についての見方を提示します。それとともに、公民授業を演習形式で各自作成します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等社会科教育法演習 A	授業づくりを学びます。実際に学校で授業を行う際に必要となる教材研究、学習指導案作成、発問・板書の方法、などの教育技術を身に付けます。 そして、自分で作成した学習指導案をもとに、実際に交代で模擬授業を行い、よりよいものに修正していきます。	
	中等道徳教育論	道徳とはいったい何なのでしょう。そもそも、道徳を教えるなどということは可能なのでしょう。こうした問いへの答を、倫理学、心理学、社会学、教育学などの知見に沿いながら、道徳教育についてのさまざまな考え方、教育現場において生起する諸問題、あるいは道徳教育の歴史といった諸側面からアプローチし、考えていきます。	
	中等特別活動論	特別活動は、教育課程に規定された教育活動であり、授業時間割に位置づけて指導する必須の科目です。と同時に、学校教育の中で児童生徒の全人格的で健全な成長発達をすすめていく上で、意図的計画的な学校年間計画（学年年間計画・学級年間計画）をもって活動を組織運営していく体験的実践的教育活動です。 また、特別活動は、主要教科と呼ばれる学力よりも軽視されがちな傾向がありますが、今日的な児童生徒の課題実態や未来を創造する生きる力の育成を考える時、それらの解決・改善と同時に向上・充実を図る教育的な役割は大きいものと考えます。 こうしたことから、特別活動の特質たる目標・内容・方法などについて、理論と実践化の両面から理解が図られるようにしたいと思います。	
	中等教育方法論	中・高の教員をめざす学生の必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が修得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
	中等生徒・進路指導論	「生徒指導」は、学習指導と並び立つ全生徒を対象にした教育活動で、学習指導要領に示されている「生徒指導の意義」をふまえて実施される学校教育において重要な教育機能の一つです。生徒の人格形成を促す上で大きな役割を担っている「生徒指導」の理論と実際について、基本的な知識理解が図れるようにします。 また、生徒・進路指導に関する今日的な課題に関心と将来の展望をもって、教育専門職として生徒指導に求められる資質や能力に資する意欲や態度を培うことができるようにしたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等教育相談	<p>中・高の教員をめざす者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成をめざして講義を中心にしていきます。</p> <p>大きな柱としては、</p> <p>(1)学校における教育相談の意義</p> <p>(2)教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の修得</p> <p>(3)教育相談の遭遇する諸問題と連携</p> <p>以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的な関わりのセンスを修得することをめざします。</p>	
	教育実習事前事後指導	<p>教育実習Ⅰ・Ⅱへの参加に際して、まずその実習の意義を前もって理解しておく必要があります。そのため、随時の事前指導を行います。なお、その一環として、3年次に協力校における観察実習指導を行います。（詳細については、中等社会科教育法A・中等社会科教育法演習Aの授業時に指示します。）</p> <p>また、実習後には、その体験によって得られたものを再確認することにより、免許状取得に向けて、教員として求められる諸能力の定着をはかることをめざして、事後指導を行います。</p> <p>(オムニバス方式／全7回)</p> <p>(78 西森 章子／2回)</p> <p>&lt;事前指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力校における観察実習指導</li> <li>・教育実習に際しての心構え</li> </ul> <p>(25 笹尾 省二／5回)</p> <p>&lt;事前指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の職務</li> <li>・教材研究の方法</li> <li>・学習指導案の作成法</li> </ul> <p>&lt;事後指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する体験の共有</li> <li>・教員の仕事に関する体験の共有</li> </ul>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習Ⅰ	<p>中学校教員をめざす者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>現在の教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。</p> <p>教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。</p> <p>具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験します。</p>	
	教育実習Ⅱ	<p>中学校、高等学校教員をめざす者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>現在の教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。</p> <p>教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。</p> <p>具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験し、その後、これらの体験で得られた理解をもとに、実際の授業実践を行います。</p>	
	教職実践演習 (中・高)	<p>この科目の履修を通じて、将来教員として務めるために、自己にとって何が課題であるのかという自覚のうえに、必要とされる知識や技能を補うことを可能とする学習能力を獲得させることをめざします。そのため、少人数クラスによる演習形式で、具体的な事例研究に基づくグループ討論やロールプレイング、実地見学、各教科内容の模擬授業の実施など、実践的な学習を行わせます。また、そのような集団的な活動とは別に、必要に応じて、履修カルテに基づく個別指導を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部国際政治学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	差別問題論	<p>《社会問題としての差別》は、いつか・どこかにあるものではありません。それは、私たちをとりまく具体的な日常の関係性・常識などの中に見ることができるのです。差別問題は社会的なことがらであるにもかかわらず、「傷つく」などといった、個人的な「心（心がけ）」の問題として語られることの方が多く、さらには、非日常的な、私たちから遠いものとして処理されています。ところが、こういったとらえ方自体に差別問題を考えていく際のポイントがあるのです。まずは、「差別とは何か？」から考えはじめることが求められます。</p> <p>本講義では、部落差別、性差別、障害者差別、民族差別等々の構造を社会科学的に明らかにすることで、上に述べたことを検証していきます。</p> <p>なお、講義の各時間終了後に感想・意見・質問をコミュニケーションカードに書いてもらい、それに対して次の時間に応えます。また受講生同士の紙上討論を展開していく、といったコミュニケーションシステムをとります。</p>	
	人権教育論	<p>本講義は、差別問題・人権問題が私たちの日常生活と密接に関連しているという事実に着目し、これらの問題に対して教育には何が可能で、何をなすべきかを具体的な状況設定を行いながら検討していきます。その時、「仏つくって魂入れず」といった単なるハウ・ツーではなく、自分はいったい何を伝えたいのか、という問いから出発（もちろん、その問いは科目担当者も免れうるものではありません）することによって、グローバルスタンダードにも通用する差別問題学習＝人権教育をめざします。そのためには、部落差別問題をはじめ様々な差別問題に対する歴史的なまなざし、社会科学的なまなざしとともに、表現力も身につけていかねばなりません。その意味においても、講義の各時間出席確認を兼ねた感想・意見・質問をコミュニケーション・カードに記載し、それらに対して次の時間に答えるというコミュニケーション・システムをとります。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部地域行政学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
修 道 ス タ ン ダ ー ド 科 目	全 学 共 通 科 目	<p>1年次生が大学での学びや大学生生活に円滑に移行するために、大学生としての態度や姿勢を身に付け、大学の学びに必要な学習スキルを修得することを目的とします。具体的には、本の読み方、レポートの書き方などの学習スキルを学ぶ教員授業（計8回）と、大学における目標設定や時間管理、進路選択の前提となる自己分析、図書館利用などの情報収集法、地域連携等現在の本学の取組の概観など、部局授業（計7回）を組み合わせて実施します。内容を統一した教員授業は3クラス設置され、部局授業は学部合同で運営されます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 佐渡 紀子・6 矢部 恒夫・9 矢野 秀徳／8回)</p> <p>授業ガイダンス、文章の読み方、文章の書き方、定期試験の位置づけと取り組み方・まとめ</p> <p>(9 矢野 秀徳：学生センター／1回) 学生生活を円滑にするために</p> <p>(9 矢野 秀徳：図書館／1回) 図書館活用法</p> <p>(9 矢野 秀徳：キャリアセンター／1回) 自己発見と自律へのアプローチ</p> <p>(9 矢野 秀徳：学習支援センター／3回) シラバスを読み直す ノートテイキング・スキル 大学生生活における時間管理</p> <p>(9 矢野 秀徳：ひろしま未来協創センター・総合企画課／1回) 地域に立脚した修大の歩みと将来像</p>	オムニバス方式	
		初年次セミナー	<p>地域行政学科の1年次生が、地域の政治・行政・政策の基礎に触れ、かつ、ゼミ形式の授業で必要となる能動的な学習姿勢を身に付けられるように、3クラスに分かれて実施される少人数授業です。教材を読み、まとめて、クラスに報告し、質疑する、という、ゼミ形式の授業運営を通じて、能動的な学びに必要な、情報収集、文献読解、文書作成、プレゼンテーション、質疑などの経験を積むことができます。なお、授業で取り上げられるテーマや教材は、クラスによって異なります。</p>	
		情報処理入門Ⅰ	<p>文書作成や表計算ソフトウェアの操作については、現実的な例題、問題の精選により最適な課題設定を行い、授業時間外学習も活用して基本技能の定着をめざします。情報モラルや著作権、セキュリティなど情報社会の課題、情報通信技術のしくみなど情報科学の基本的事項について可能な限り広範な領域を取り扱い、これらの学習内容をソフトウェア技能の修得と関連付けて、科目全体の一体化をはかります。入学後の早い段階で短期間のうちに修得し、大学における学習基盤として活用できることをめざします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部地域行政学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	情報処理入門Ⅱ (情報と表現)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。文書作成や画像編集を通じたコンテンツ制作を行い価値創出のプロセスを学びます。		
	情報処理入門Ⅱ (情報と分析)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。データ分析とモデル構築を行い、問題解決の枠組みを学習します。		
	大学生活とキャリア 形成	<p>講義（キャリア理論、労働基準法等）の他、フィールドワーク、ペア・ワーク、チームビルディングアクティビティ等、複数のワークを通して自律的キャリア形成力を獲得し、大学生活をマネジメントできるようになります。また、学士課程教育の目標であるディプロマ・ポリシー（思考・行動・態度）、社会人基礎力及びジェネリックスキルを涵養していきます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(107 山本 和史 3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・卒業生による講演「先輩から後輩に贈るメッセージ」</li> <li>・テーマ：「大学生活がキャリア（人生）を変える」</li> <li>・総括</li> </ul> <p>(107 山本 和史・172 古田 由美／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア（人生）とキャリア理論</li> <li>・チーム形成</li> <li>・キャリアの過去・現在・未来を考える～自己認知～</li> <li>・コミュニケーション能力とプレゼンテーションの基本</li> </ul> <p>・ニューズの情報共有 (107 山本 和史・144 高野 真之・172 古田 由美／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシースキル～パワーポイント作成 No.1～</li> <li>・コンピテンシースキルを培う～パワーポイント作成 No.2～</li> <li>・コンピテンシースキルを高める（P-D-C-A）～パワーポイント作成 No.3～</li> <li>・ジェネリックスキル～パワーポイント作成 No.4～</li> <li>・パワーポイント完成～パワーポイント作成 No.5～</li> <li>・プレゼンテーション大会</li> </ul>	オムニバス方式	
グ ロ ー バ ル 科 目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。実際の使用例に触れながら、仮名、漢字、表記、語構成、語彙の体系などの基礎について学びます。	
		日本語Ⅱ	文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字、表記、語構成、語彙の体系などの基礎をふまえ、あらゆる場面に対応できる能力を身につけます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語Ⅲ	文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。各レベルにおいて習得すべき文法項目の約半分を扱います。	
	日本語Ⅳ	文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。各レベルにおいて習得すべき文法項目の残りの半分を扱います。	
	日本語Ⅴ	文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅵ	文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのレベルに応じた活動に取り組みます。	
	日本語Ⅶ	音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話スキルの習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅷ	音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話技能の習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためにレベルに応じた活動にも取り組みます。	
	アカデミック日本語	大学における専門的な学びに必要とされる「資料を読む、講義を聴く、レポート・論文を書く、ディスカッション・プレゼンテーションをする」などのスタディ・スキルの習得をめざすとともに、さまざまな課題に取り組むことで実践的運用能力を高めることをねらいとします。日本語能力試験N1レベル程度の授業を展開します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ビジネス日本語	日本国内での就労において求められる上級レベルの日本語運用能力の習得とビジネスマナー、ビジネス文書作成、職場での会話表現などの技能を身につけることを目的とします。また、企業での就労を視野に入れた実践力を強化します。日本語能力試験N1レベル程度の授業を展開します。	
	日本研究 (日本の政治)	留学生を対象に、日本の政治の仕組みや実態を概観します。日本の政治がどのような仕組みによって動いているのか、また、いかなる集団が活動しているのかなどについて、できるだけ分かりやすく説明します。また、第二次世界大戦後の日本の政治がどのような軌跡を辿ってきたのかについても概説します。基本的には講義形式となりますが、適宜、留学生による報告等も取り入れる予定です。こうしたことを通じて、日本の政治の概要を自分の言葉で説明できるようになることが目標です。	
	日本研究 (日本の民俗)	「日本」を知るための入門講座で、文化、政治経済、社会などのテーマに関する知識・経験を深めることを目的とします。講義に加えて、プロジェクト・ワークを取り入れることで、自ら情報収集・考察・発表する力を養成します。この科目では昔話の考察・分析を通して現代にも受け継がれている日本の精神文化に焦点をあてます。	
	日本研究 (日本の経済)	経済を読み解く基礎的な力を養いながら、日本経済について学びます。基礎的な経済用語の理解を通じて、経済のしくみについて学んだ後、その経済知識をもとに、戦後70年における日本経済の発展過程を検証した上で、現在の日本経済が抱える諸問題を明らかにします。加えて、東アジア諸国・地域との連関にも触れ、共生という視点から東アジア発展の課題について考察します。	
留学 支援 教育 科目	留学スタートアップ	社会、経済、文化の急速なグローバル化の進展や多文化共生が進む現代の社会状況を踏まえつつ、留学・海外体験の目的や意義について考えます。また、留学体験の効果を高めるために必要な、言語習得、国際理解、異文化間コミュニケーションの基礎について学びます。海外渡航の基礎知識についても触れます。	
	留学英語入門 (海外生活Ⅰ)	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景を交えながら学びます。社会生活（日常）、家庭生活（ホームステイの場合）、学校生活（授業、寮など）の場面を想定し、留學生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得をめざします。渡航・入国から新生活を始める過程に焦点を置きます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	留学英語入門 (海外生活Ⅱ)	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景を交えながら学びます。社会生活（日常）、家庭生活（ホームステイの場合）、学校生活（授業、寮など）の場面を想定し、留学生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得をめざします。現地での生活にとけこむ過程から帰国までに焦点を置きます。	
	留学英語入門 (TOEFL/IELTS)	(英文) This course uses popular global English proficiency tests, such as IELTS and TOEFL iBT, in order to develop essential academic English skills. There will be a combined focus of learning what is involved in taking these tests and improving a general all round ability in common academic tasks such as essay writing, article reading, and face to face interviews. This course will be useful for students who have a general interest in developing their university-level academic English skills, as well as for those who are interested in taking a globally-recognised English proficiency test at some point in the future. (和訳) 世界で通用する英語能力試験であるIELTSやTOEFL iBT を用いてアカデミックな英語スキルを高めることを目的とします。試験の形式・内容を把握するとともに、文書作成、文献読解、面談などで必要となる能力の習得をめざします。(海外の) 大学での学びに必要な英語スキルを身につけたい学生、世界で通用する英語能力試験の受験を計画している学生に適しています。	
	英語圏留学入門	(英文) This course is intended for students who want to study abroad in English-speaking countries and regions. This will be accomplished in three ways. First, students will gather information about their particular country; this information focuses on the country's social, economic, geographic and cultural features. Second, students will use this knowledge as a way to better understand the written and oral skills necessary to communicate effectively whether it is at an airport, homestay, or a university setting. Third, students will give an in class presentation based on the research that they have gathered and learned concerning their study abroad destination. (和訳) 英語圏の国・地域への留学を希望する学生が対象です。各国の社会、経済、地理、文化について情報収集することで、その知識を空港、ホームステイ先、大学などの場面における効果的なコミュニケーションに活用するスキルを身につけます。さらに、留学派遣先に関する調査・情報収集に基づいてレポート(発表)を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アジア圏留学入門	中国、韓国、ベトナムなどのアジア圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集に基づいてレポート（発表）します。	
	外国語としての日本語	学内における留学生、留学派遣先における日本語学習者を対象とした日本語学習のサポートをする場面を想定し、「外国語としての日本語」を客観的に観察・分析する視点を養うとともに、日本語学、日本語教育（日本語教授法）の基礎について学びます。	
	留学フォローアップ	学内外の留学プログラムに参加した学生を対象として、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげることを目的とします。留学体験によって自身の中に芽生えた心情的な変化や新たに身につけた知識、関心、技能の意識化を促すとともに、それを帰国後の日本社会や地域への積極的な貢献にいかにか活用できるかを考えます。最終的には発表にまとめます。	
	グローバル特講 I	<p>グローバルコースの入門講座で、グローバルコース生としての3年間の目標設定や学びのステップについて考察するとともに、異文化相互理解の基礎について学びます。異文化理解のための好奇心・観察力・感受性を高めるとともに知識を深め、異文化の中の自分の立ち位置を確立することをねらいとします。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（38 竹井 光子／5回）</p> <p>グローバルコースの概要、コース修了までのスケジュールの説明や3年間の学びの中での目標設定について説明します。また、英語学習や学内外における国際交流の機会の提供や情報共有を行うとともに、グローバルコースの期生間の交流や情報交換の機会を設けることで動機づけを高めます。</p> <p>（109 今石 正人／10回）</p> <p>異文化とは自文化を写し出す鏡です。異文化理解するためには自文化を理解する必要があります。このコースでは特に言語と宗教に焦点を合わせて異文化のさまざまな事象に書籍や映画などを通して触れ、最終的には自文化について洞察を深めます。</p>	オムニバス方式
	グローバル特講 II	グローバルコースの発展講座で、入門講座を踏まえつつ、学内外での国際交流活動を通じて異文化コミュニケーションの実践へと展開させます。交流活動に参加することだけに留まらず、活動を自主的に企画・運営するための手法を学びつつ交流実践へとつなげていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル特講Ⅲ	<p>(英文) This course is for Global Course students who are about to embark on an overseas study abroad program in America or New Zealand. The focus of the student's research is to help them develop the basic intercultural communication skills necessary to communicate effectively in their overseas country. This will be accomplished in two ways: in-class lectures and information from past students. In-class lectures will include worksheets and videos related to topics such as cultural identity, values, observations, interpretations and judgments. Further research into these topics will be accomplished by having the student interview and later present information about former participant's experiences as it relates to their intercultural communications overseas.</p> <p>(和訳) アメリカまたはニュージーランドへの留学を間近に控えたグローバルコース生のための直前講座です。現地での円滑な異文化間コミュニケーションに必要なスキルを習得することを目的とします。文化的アイデンティティ、価値観、観察・理解・判断力に関するワークシートとビデオを用いた講義をふまえ、留学経験者へインタビューを行いその聞き取り結果から得た異文化間コミュニケーションに関する情報をまとめて発表します。</p>	
	グローバル特講Ⅳ	<p>(英文) This course is for Global Course students who have returned from their study abroad experiences. The students will share, reflect and analyze their experiences. After due consideration of their own personal development, students will then take part in learning processes such as discussions, debates and presentations to facilitate group awareness. It is intended that students will then use and act upon their findings in future educational and work environments.</p> <p>(和訳) グローバルコースの留学事後講座で、体験の共有、ふりかえり、分析を行います。自己の成長を熟考した上で、議論・ディベート・プレゼンテーションなどに参加することで自己開発を促進させます。その過程で生じた気づきを将来の教育・就業環境において活用することをねらいとします。</p>	
	海外研修A	現在、協定大学と調整中のプログラムにおいて、1単位相当(授業時間23時間以上)の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき認定するための科目です。	
	海外研修B (CCCU/General English Topic 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、トピック別の授業について受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外研修B (RMIT/Reading 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、リーディングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Writing 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、ライティングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Listening 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、リスニングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (RMIT/Speaking 1)	ロイヤル・メルボルン工科大学ベトナム校が提供する English for University Program のうち、スピーキングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修B (AIC/New Zealand Studies)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、ニュージーランド事情の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修C (CCCU/General English Skills 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、四技能強化の授業について受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (AIC/Conversational English)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、会話の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (AIC/Written English)	クライストチャーチ工科大学が提供する集中英語コースのうち、ライティングの授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (PIA/Experience America)	メリルハースト大学附属パシフィック・インターナショナル・アカデミーが提供する Experience America Program において受けた成績評価を本学の規定に基づき単位認定するための科目です。	
	海外研修D (ASU/Intensive English)	アリゾナ州立大学が提供する Intensive English Programにおいて受けた成績評価を本学の規定に基づき単位認定するための科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外研修E (CCCU/General English Core 1)	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学が提供する General English Programme のうち、文法中心の授業において受けた成績評価を本学の規定にもとづき単位認定するための科目です。	
国 際 共 修 科 目	Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society I)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: Developments in “popular music” and Japanese society from the Meiji Restoration to the 1964 Tokyo Olympic Games. From content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks involving periodic overviews and music appreciation, students will select topics for further investigation to be presented and discussed in this multicultural setting.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、明治維新～昭和30年代の「大衆音楽」を題材として、海外文化との関わりや日本社会の変遷に目を向けます。音楽鑑賞を交えた双方向講義や時代背景を振り返る小グループタスクなどで学ぶ内容から学生の様々な文化的視点で感じ取ったものをさらに探究し、英語プレゼンテーションを通して共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society II)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: Developments in “popular music” and Japanese society from the Post-WWII period of rapid economic growth to the present. From content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks involving periodic overviews and music appreciation, students will select topics for further investigation to be presented and discussed in this multicultural setting.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、高度経済成長期から現在までに発展・多様化していった日本の「大衆音楽」を題材として、社会の変遷と照し合せます。音楽鑑賞を交えた双方向講義や時代背景を振り返る小グループタスクなどで学ぶ内容から学生の様々な文化的視点で感じ取ったものをさらに探究し、英語プレゼンテーションを通して共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Japanese Culture in Hospitality and Service)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is: "Japanese hospitality and service" with a focus on the historical and cultural influences on their forms and standards of practice. Building upon content knowledge gained through such means as interactive lectures and small group tasks, students will record, and probe into, their personal observations and experiences of Japanese hospitality and service to present and discuss their findings in this multicultural group.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、日本のおもてなし・サービスの形態や基準がどのような歴史的背景や価値観に影響を受けているのかを考えます。双方向講義や小グループ作業で学ぶコンテンツをもとに、観察・経験した「おもてなし」の実例を記録し、学生の持つ様々な文化的視点から考察した事柄を英語プレゼンテーションにまとめ、共有します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Contemporary Issues in Japanese Society)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is contemporary issues facing Japanese society, centering on 5 topics: People and Society, Health and Fitness, Children and Education, Science and Technology and Art and Culture. Each topic focuses on a series of selected vocabulary, listening, reading and writing exercises that will help students better understand and explain about the complex issues facing modern-day Japan. By the end of the course students will present and discuss their own research topic on a contemporary based theme that they are interested in.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、「人々と社会」、「健康と運動」、「子供と教育」、「科学と技術」、「芸術と文化」の5つの分野を中心とする現代日本が抱える多種多様な社会問題に焦点をあてます。諸問題を説明するために必要な語彙や4技能を習得するとともに、各自が選択した興味あるトピックについて調査に基づく発表を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Multicultural Project (Images of Japan in Western Cinema)	<p>(英文) In this course, Japanese and international students from a variety of cultural backgrounds learn co-operatively and work toward a final project through meaningful interaction in English. Based on a selected cultural theme which varies by section, lectures introducing content are combined with activities to promote further learning through the sharing of information, ideas and perspectives. The course provides an ongoing opportunity for students to experience intercultural exchange firsthand with English used as a global means of communication. The theme of this section is the ways that Japan has been portrayed and presented in western English language cinema in the last 100 years. Lecture topic focus will be periodic, thematic as well as genre based. Contrasts between images held inside and outside of Japan will also be highlighted along with changes over time.</p> <p>(和訳) 日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。ここでは、過去100年間に制作された洋画（英語版）の中で日本がどのように描かれているかを時代別、テーマ別、ジャンル別に見ていきます。時代とともに変化する日本内外におけるイメージの相違に焦点をあてます。</p>	
	多文化交流プロジェクト (多文化理解)	<p>日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は日本語とします。前半は異文化・多文化理解を進める上での課題を発見し、解決に必要な理論を学ぶと共に様々なケースについて考察・議論を行います。後半は前半に出てきた課題をテーマにグループで活動（調査・演劇制作等）を行うことで、相互理解を深めると共に多文化共生に対する意識を高めることをねらいとします。</p>	
	多文化交流プロジェクト (地方の魅力)	<p>日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は日本語とします。日本各地の地方における特色（歴史や文化など）を意識してテーマを設定します。プロジェクト遂行のための情報収集、企画、運営を協働して行うことで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地方に密着した文化資源を発掘し、発信し得る感性と能力を育むことをねらいとします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部地域行政学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	多文化交流 プロジェクト (広島再発見)	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型 共修授業で、使用言語は日本語とします。広島の魅力 再発見を意識してテーマを設定します。プロジェクト 遂行のための情報収集、企画、運営を協働して行うこ とで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地域貢 献の意識を高めることをねらいとします。		
	多文化交流 プロジェクト (日本語・日本文化 セミナー)	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型 共修授業で、使用言語は日本語とします。日本語・日 本文化セミナー（短期プログラム）参加する海外協定 校からの参加者との交流を深めたり、授業・文化体験 をサポートしたりすることを目的として、情報収集や 調査に基づいた企画とその運営に取り組みます。		
共通 教育 科目	教 養 科 目	哲学	近代哲学の展開について学びます。授業では、主要 な哲学者の業績を取り上げていきます。例えば、デカ ルトの「方法序説」と「省察」、ロックの「人間知性 論」、カントの「三批判書」などです。 学生は単に講義を「聴く」だけではなく、事前にテ キストを読み込んでくることが要求されます。授業 は、学生がテキストを読み込んでいることを前提とし て展開されます。	
		倫理学	西洋の倫理思想史を概観することをめざします。た だ、すべてを見渡すことは不可能なので、対象を絞っ て検討します。	
		美学	「芸術」「自然」「天才」など、近代美学の基本概 念に着目しながら、西洋近代美学がいかなる問題意識 に根ざしていたのか、西洋近代美学の根本問題が何で あるのかを、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に即 しつつ探ります。	
		芸術学	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしてお り、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました 。本講義ではギリシア・ローマ神話に基づいた美術 作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学び ながら、そこで表現されている場面がどのような物語 の流れの中にあり、登場人物が誰であるのかなどにつ いて理解を深めていきます。	
		日本文学	日本文学史上、一部の特権階級だけのものだった文 学が初めて一般大衆のものになったのは、江戸時代で した。江戸時代に読者層がこのように劇的変化をとげ たのは、この時期に印刷技術が向上し、文学作品が出 版（大量生産）されて市場に出たからです。 この授業では、中学・高校で学んできた文学史とは 違った視点から、文学史を解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋文学	ヨーロッパとヨーロッパ語圏の文学作品を主な題材として取り上げ、その読解を通して、こうした作品が作り出された地域の歴史、文化、社会的背景を学んでいきます。この地域の主要作家や主要文学作品を紹介し、その文学（史）的意義を解説していくことが主な講義内容になりますが、時には文学作品以外の絵画や映像作品をおりまぜながら、各時代が提起する政治的、社会的、芸術的問題にもふれていきます。	
	日本語学	授業では、よく知られている国語の常識（五十音図、ローマ字、小さな「つ」）を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。比較的やさしい日本語の規則性として、以下のテーマを取りあげ解説します。 (1)日本語の音声（音節、拍、特殊拍） (2)日本語の韻律（リズム、アクセント、イントネーション） (3)日本語音声学（母音、半母音、音声記号） 毎週の授業は次の形式で実施します。 (1)先週の復習 (2)今週の講義 (3)ノートテイキング(実習) (4)まとめテスト	
	心理学	何が不思議といって宇宙がその内部に意識を持った存在（人間）を有していることほど摩訶不思議なことはないでしょう。そこで、本講義では生物科学の一領域である心理学から人間の心（意識を含む）の問題にアプローチしてみることにします。講義の結果、受講生諸君に少しでも人間の“心理学的な（＝生物学的な）見方”が理解されれば、と願っています。講義では「心理学の基礎領域（前半部分）」を主に取り上げて解説します。	
	文化論	グローバル化の進展に伴い、世界のありとあらゆる事象が複雑に絡みあうようになった現代社会において、国家間の境界線の揺らぎや文化アイデンティティの変容が起っています。 こうした社会情勢を背景に文化（商品、ライフスタイル等）の均質化・混淆化・ローカル化が発生しています。 本講義では、マクロ・メゾ・ミクロの観点から各分野の文化変容の考察を行います。 第一部「文化のグローバル化」では、マクロレベルな観点から文化の変容にアプローチします。 第二部「ローカル文化の変容」では、グローバル化が進展しナショナルな境界が薄れる中において、よりいっそう注目されるようになったローカルの文化に焦点を当て、その変容を考察します。事例として広島神楽を取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化人類学	文化人類学は(1)「住み込み型の調査(フィールドワーク)」と、(2)それに基づいて描かれた「民族誌(エスノグラフィー)」によって支えられています。よって本講義では優れた民族誌の紹介と、講師自らの調査経験を交えながら、文化人類学の概念、方法、視角を修得することをめざします。	
	日本史	日本史を古代から近世まで講義します。その時代を特徴づけるテーマを選び、掘り下げることによって、歴史の流れを把握する感覚を養います。 学問は本来面白いものです。なかでも歴史は、熾烈な権力闘争があり、また、ときには血も涙もある人間の汗と涙の物語もあります。とりわけ、自分や家族の住んでいる地域や国のたどってきた過程を尋ねるのは、楽しいことです。「面白くなければ学問ではない」というコンセプトのもとに、歴史を学んでいきます。自分がその場にいたらという臨場感をもって、ふり返って欲しいものです。そうすれば歴史上の人物の思いや行動を実感をもって受け止めることができます。そして、そこから今後われわれはどう生きるべきかという問題を考えるヒントを得ることができます。	
	東洋史	いまに残る中国の文物や歴史上の人物にスポットをあて、それらを通して中国史を概観してみます。 各時代の文物や人物の生き様には、その時代の特色が濃厚に反映されています。したがって、ただ文物や人物だけに注目するのではなく、なぜそのモノが生み出されたのか、なぜその人がそう考え行動したのか、といったことにも関心を払い、それぞれの背景に広がる歴史的世界にも目配りをします。 文物などの歴史的遺産を出来るだけ視覚的にも理解してもらうために、画像や写真、映像資料も使いながら授業を進めたいと考えています。	
	西洋史	史学史とは歴史学の歴史であり「どのように歴史が書かれてきたか」を問う学問です。西洋世界で歴史がどのように認識され、叙述されたか、詳しく見ていきます。「そもそも歴史とは何か」という問いから入り、古代世界の歴史認識、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける歴史叙述を見ていきます。最後に歴史学の最新動向についても触れてみたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地理学	<p>地理学は、研究上の方法からまず系統地理学と地誌学に大きく分かれます。系統地理学のうち、(人間の諸活動が反映した)地表空間を対象とする人文地理学について説明します。地理学の存在理由は、人口の疎密の違いにみるように、地表面上は決して均等な空間ではなく、諸事象の分布が地域的差異に満ちているという点にあります。系統地理学は、これらの諸事象の地域的差異および法則性について扱うものでありますが、この地表空間の差異はすなわち、まず自然環境を基盤とする人間活動の諸性質によって、さまざまな特徴ある地域形成から構成されています。テーマとしてさらに「人文地域の諸形成(諸形態)」と題し、こうした人文地域(人々の活動範囲)の諸特徴について、理解していきします。その際、主要な各人文現象の立地・分布に関する規則性・法則性に着目した認識法を基本として、各種地図や日本・世界の事例を利用しながら、授業を進めていくことにします。</p>	
	社会学	<p>社会学とは、人間の営みに対して、徹底的に、恥じらうこともなく、倦むこともなく、強烈な関心を抱くことから始まる学問です。探検家や冒険家の記述が「見知らぬ世界を体験すること」による興奮を提供するのに対して、社会学は「見慣れた日常世界の意味を変容させること」によって知的興奮を提供します。</p>	
	法学	<p>現代社会の法の機能を考察するために、ここではジェンダーという切り口で法現象を検討していきます。たとえば、身近な課題としては、ミスコンテストは違法行為なのか、夫婦別姓制度を導入すべきなのか、といったことです。そうした学習を通して、「法とは何か」という命題を考える一助にしたいと思います。</p>	
	政治学	<p>政治学における基礎的な概念を、具体的な事例や問題に即して講義します。 経済学や社会学、法学などの社会科学隣接分野、あるいは政治学の各分野をこれから履修していく上での基礎的科目として位置づけてもらいたいと思います。</p>	
	経済学	<p>経済学の初学者のために「経済」とは何か、そして「経済学」はなにをやるのかということを考え、経済現象の因果関係を理解するために必要な経済学の基礎的理論、基礎概念を修得します。また最も身近な日本経済の国民経済計算マクロ時系列データを観察し現状を認識し、日本経済が抱える諸問題について学習します。 ミクロ経済学の基礎的概念(経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など)や、需要と供給、家計・企業の行動、市場のしくみなどの基礎的理論について解説します(図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます)。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統計学	理論上の厳密性より応用面でのわかりやすさを求めて展開されたものです。統計データの処理から、統計解析、統計推計、仮説検定までという認識論のプロセスによって、統計学の基本概念、データの作成と整理の統計的扱い方、不確実の現象を把握するための確率分布のパターン、標本と母集団の関係、分析現象の姿を帰納的に推定しようという方法論を解説します。統計学の基本的な内容と枠組みを理解したうえで、これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが目標です。	
	情報社会論	「情報社会」の未来論ではありません。現実の「情報社会」を解明しようとしています。そういう意味では、情報社会を主体的に生きていくための「マニュアル」になるはずですが、情報社会において、どのような問題が発生し、それらの問題をどのように解決するのかを、自ら考え、模索してもらえたらと思います。	
	物理学	物理学は自然現象を理解するための基礎として重要な学問です。物理学の分野の中で、力学や熱力学、電磁気学、量子力学、相対性理論の各分野についての基本的な考え方を学びます。力学の分野では速度、加速度の定義やニュートンの運動の法則について学びます。熱力学の分野では、熱と内部エネルギー、理想気体について学びます。電磁気学では電流の性質や電気と磁気の関係について学びます。また、講義の後半では量子力学や相対性理論の概要について学び、最後に物質を構成する素粒子について学びます。	
	化学	化学者達が創ってきた物質の世界を概説します。私達の身の回りには人工あるいは天然の化学物質が満ちあふれています。化学とは、原子・分子あるいは化学反応を土台として物質の世界を理解し、新しい物質を創りその働きを見出す学問です。「化学物質＝わからないもの・危ないもの」、「化学＝暗記科目」、「化学式＝難しい」という発想から抜けだし、周囲にあふれる化学情報を理解するための基礎を身につけることを目標とします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生物学	<p>外界の変化を察知し、的確に行動することは、動物の生存に不可欠です。このため、動物には外界の変化を捉えるための感覚系とこれを中枢に伝え処理する神経系（脳と脊髄）、そして行動を引き起こすための筋肉系（運動）が備わっています。下等な動物では、生まれつき生存に必要な行動プログラムが中枢神経系に備わっており、感覚情報に基づきこのプログラムの中から最適を選択し、筋肉系を動作させて行動に移します。動物が高等になると、生きる過程で獲得した多くの情報（主に経験と学習）は神経系に記憶として蓄えられ、行動プログラムに影響します。</p> <p>動物行動の背景にある生物学的事項について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 細胞の種類と働き</li> <li>(2) 動物が営む生命現象（呼吸、血液循環、消化など）</li> <li>(3) 動物が生存するためにとる行動</li> <li>(4) 行動の背景に潜むしくみ</li> <li>(5) 中枢神経系の役割</li> </ol> <p>を中心に、最新の研究成果を交えて解説します。</p>	
	環境科学	<p>環境や環境問題は現代のキーワードです。多様な環境問題のうち、熱帯林消失と生物多様性減少について現状とその原因を紹介し、さらに問題解決のために、どのような取組が行われているのか解説します。毎時間配布するプリントをもとに、講義を進めていきます。</p>	
	数学	<p>古代ギリシャ時代にユークリッドが解いた不定方程式からはじめて、18世紀までの初等整数論について述べます。その手法として、代表的な定理を数個挙げて数学の発展について考えていきます。解き方は分かっているにもかかわらず、膨大な計算量のある具体的な問題は解くことは困難を伴いますが、数学の予備知識が多くない文科系学生にも理解できる問題を選択して、その解法を説明していきます。</p>	
	教養講義 (現代の哲学)	<p>哲学という分野には、2000年以上前にプラトンが提出した問いをいまだに論じ続けている、という面があります。これは、2000年程度では人間の基本的なあり方は変わらないという事実を反映しています。</p> <p>その一方で、今を生きる私たちは現代社会の様々な問題に直面してもいます。それらの問題を取り上げ、哲学の観点から考察を加えていきます。講義で紹介する様々な見解を鵜呑みにするのではなく、それらを自分の頭で考え直してほしいと思っています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋の美術)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。聖書およびそれに関連する物語に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
	教養講義 (西洋の音楽)	チェコ共和国の首都プラハは、18世紀にヨーロッパのコンセルヴァトワール（音楽院）と呼ばれ、ある時期、その主流に比肩する音楽の天才達が集いました。イギリスのルネサンス期にはチューダー王朝の下にシェイクスピアの演劇は栄え、海外からの文化人達が渡英した頃のバロックは名実ともに揺るぎ無い音楽が定着しました。 チェコの宗教改革者フスを称える賛美歌は現代にもおよび、イギリス国教の賛美歌はチェコ同様、近代の作曲家に受け継がれています。それらの作品集を鑑賞し、歌い、比較もしていきます。 イタリアと同様に芸術文化人達を生んだチェコ、音楽の消費国として世界に貢献したイギリス、ともに歴史背景と文化史を読み取りながら、中世から現代までの音楽の変遷と進化の度合いを名曲鑑賞や実演を通して理解していきます。	
	教養講義 (江戸文学)	江戸時代中期から後期にかけて発達した大衆文学の作品例をあげ、その内容を講読します。	
	教養講義 (ドイツ文学)	「父権制の歴史（女性差別の歴史）」を中心テーマに、ヨーロッパの文学（ギリシャ神話から現代にいたるまで）を見ていきます。具体的文学作品にあたるというよりも、「文学をする営み」の意味、その深層を探っていこうと思っています。具体的に扱う教材は、ギリシャ神話『エレクトラ』、オペラ『サロメ』、ドイツ映画『マリア・ブラウンの結婚』、ドイツ小説『朗読者』（ベルンハルト・シュリンク）、在日韓国人作家李良枝（イ・ヤンジ）他、です。	
	教養講義 (現代心理学の展開)	心理学の基礎領域（動機づけ、意識、自己）に続いて、人格、知能、生涯発達、精神障害、心理療法、集団などの応用の領域について解説します。 心理学とはヒト、人、人間の行動の理解を試みる生物科学である、ということが理解されることを期待しています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋文化論)	ヨーロッパの人権獲得の歴史と日本のそれとの比較を行います。ここでもやはり、映画、ドキュメンタリー、文学作品、音楽、絵画その他ありとあらゆる教材を使用します。中心テーマは「ヒロシマ」です。講義のねらいは、この世界が注目する平和都市広島にある大学で、広島人からヒロシマ人へ一歩踏み出すきっかけを見つけることです。 扱う教材は、原一男監督の映画『ゆきゆきて神軍』、ハラルト・ヴァインリッヒ著『<忘却>の文学史』、ドイツ映画『カスパー・ハウザー』、フォルカー・シュレンドルフの映画『ブリキの太鼓』他、です。	
	教養講義 (アジアの文化と社会)	視聴覚教材を活用しながら近現代の韓国・朝鮮の社会変動について考察します。とくに第二次世界大戦後から現在までの歴史・社会・文化の変動を日本との関係も交えながら考察していきます。 具体的には、韓国および朝鮮半島における約1世紀間の出来事（植民地化、開放と分断国家の成立、朝鮮戦争、軍事独裁政権の成立と経済開発、日韓国交正常化、民主化運動、南北首脳会談など）を中心に振り返りながら、現在、朝鮮半島が抱える問題やいまの韓国・北朝鮮と日本との関係について考えていきます。	
	教養講義 (日本近代史)	明治維新以降の日本の歩みを、経済の部面を中心に学びます。	
	教養講義 (日本近現代史)	日本史を、明治以降現代までの近現代史を中心に講義します。 現代の日本は様々な問題を抱えています。その問題は、歴史のどの時点で出現し、現在の姿に至ったのか、そしてそれは現在に至るまでどのような影響を与えているか、など歴史の流れを重視しつつ検討していきます。 歴史を明らかにするには、歴史史料によらねばならないのは勿論です。しかし、歴史を追体験するには、歴史史料の他、マンガ、ドキュメント、小説・日記、など多様な素材が有効です。これらを手がかりに、当時の実態に迫りながら、そのとき人々はどうかどう考えどう行動したかなど、多角的に検討していきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (東洋近世史)	<p>「日本」と「中国」の関係を語る際にしばしば用いられるのが「一衣帯水」という言葉です。この言葉は、一筋の帯のように狭い海によって隔てられているが両者の間は近接している、というほどの意味です。ここでの「海」は、両者の間を区切るものとしてイメージされているとも受け取れますが、実際に日中の関係の歴史を考えてみると、この海を往来した人やモノ、あるいはこの海を拠り所にして活躍した人々の動向を無視することは出来ません。つまり両者の間に広がる海自体が、その周辺に位置する諸地域を巻き込む歴史の舞台であったのです。</p> <p>「日本」と「中国」の関係の歴史について、その間にある海の様相にも着目しつつ取り上げてみたいと思います。なお、時間軸としては、主に9世紀以降19世紀初頭までを対象とします。この時期は、科目名にもある「近世」という時代を考える際にも重要な時期です。</p>	
	教養講義 (西洋中近世史)	<p>中近世ヨーロッパの歴史について詳しく見ていきます。高校世界史に出てくるような事柄にも触れますが、中近世ヨーロッパの人たちが、人間や世界のあり方についてどのような考え方を持っていたのか、ということについても詳しく見ていきます。叙任権闘争後に起きた国家観の変化については特に詳しく論じます。</p>	
	教養講義 (生活の中の地理学)	<p>前半は、比較的身近なトピックの中から、地理学的な現象をとりあげ解説します。後半は、近年の地理学の新しい潮流の中から、行動地理学、交通、ジェンダーの地理学、人口移動、地理情報システム(GIS)を取り上げ講義します。</p>	
	教養講義 (社会学のものの見方と考え方)	<p>社会学は(1)さまざまな方法による社会調査と、(2)それを説明する社会理論によって支えられています。優れた社会学のモノグラフを通じて、社会学の概念、理論、方法、視角などを修得します。具体的に講義で取りあげるのは、暴走族、建築業、性風俗業、ホームレスの人びとなどです。</p>	
	教養講義 (政党と選挙の政治学)	<p>近年の法改正により、有権者年齢が18歳以上へと引き下げられました。これにより、大学生は全員が有権者となりました。政治学の中でも、特に政党と選挙に重点をおいた説明を行います。</p> <p>最近では、無党派層の増大や投票率の低下といった現象にみられるように、政党や選挙への関心は低下しています。しかし、よりよい有権者となるために政党や選挙についての理解は必要不可欠と言えるでしょう。有権者として必要な政治に関する基本的知識を身につけ、今日における政党と選挙の意味を理解することを目標とします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (現代経済学)	マクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます）。 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定ですので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	
	教養講義 (応用統計学)	統計学の研究対象とするものは、自然現象であっても、社会現象であっても、どの分野にも適用できる一般的方法論とみなします。統計的考え方とその応用方法に重点をおいて統計推計の基本内容を説明します。高度情報化社会の進展とともに、統計情報の作成や統計推測は、不可欠な社会認識の手段となっています。不確実の現象を把握するための連続的確率分布のパターン、統計推計及び仮説検定などの方法論を解説します。これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることがねらいです。	
	教養講義 (情報環境論)	「情報とは何か」をテーマに講義を行います。「情報」の創造・利用・伝達に実際に関わっていることを意識してもらいます。後半は、情報の技術的な問題が多くあります。これは、自分のマシンを自分で守るにはどうすればいいのかということのヒントを提供しています。	
	教養講義 (ヒトの生命科学)	ヒトの身体は、60兆個もの細胞によって構成されています。個々の細胞は細胞外から栄養素や水などを得、生命活動に必要なエネルギーを産生し、またこのエネルギーを利用して生命維持に必要な物質を作り出しています。細胞に栄養素などを届けるため、ヒトには器官系（消化器系、呼吸器系や循環器系など）が備わっています。例えば、食物は口から入り、胃や腸を通過する間に消化されて栄養素や水となり吸収され、血管を通じて身体各部の細胞に運ばれます。エネルギー産生には酸素が不可欠であり、鼻から取り込まれて肺で血液中に入り、身体各部の細胞に運ばれます。また、生命活動によって生じた不要物・老廃物などは肝臓で分解され、血管を通じて腎臓にまで運ばれ、最終的に身体外に排出されます。このような生物の営みは、生命が続く限り止まりません。 『ヒトの生命維持のしくみ』に焦点を合わせ、 (1) エネルギー産生に必要なガス交換（呼吸） (2) 物質と熱の運搬（循環） (3) 水や物質の身体内への取り込み（消化と吸収） (4) 不要物や老廃物の身体外への排出（排泄） について最近の研究成果を交えて解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (応用数学)	集合と写像の概念の応用として、あみだくじの作成・一筆書き問題・四色問題について論じます。また初等整数論の応用について2つの例を紹介します。1つは三山崩しゲームにおける必勝法の解析です。もう1つは公開鍵暗号システムにおいて、その暗号が有効に働くことを証明することです。また数学の別な応用として、線形計画法の概略についても述べます。	
	総合教養講義a (近現代の哲学)	柘植尚則『イギリスのモラリストたち』（研究社、2009年）を精読することで、イギリスの近現代哲学における人間観・道徳観を学びます。	
	総合教養講義a (終末期医療と倫理)	終末期医療に関する諸問題を検討します。また、それに基づいて人間が生きることを考えます。	
	総合教養講義a (人間と生命の倫理学)	古今東西の人間観、生命観を理解した後、今日の生命をめぐる諸問題について具体的に考察します。そして、考察を進めるなかで、今一度そもそも「生命とは何か」という根本問題に立ち返ります。そして、今日の生命をめぐる諸問題を解決するためには、人間中心の従来の倫理学ではなく、もっと広い人間も動物も地球も含めた「生命」に基づく倫理学の必要性に気づき、「生命への畏敬の倫理」を実現するための方策を検討します。	
	総合教養講義a (人生の探求としての倫理学)	人間が社会生活を営んでいくためには、そこに一定の守るべき人倫の理法があり、意識的あるいは無意識的にその理法に従って生きています。今日、その人倫の理法を逸脱、あるいは破壊する行為が頻繁に生じ、社会秩序が根底から覆されようとしています。果たして、その人倫の理法は現代に適するものとなっているのでしょうか。人間観・世界観の考察を通して、現代社会に必要な新たな人倫の理法についての考察を試みます。	
	総合教養講義a (愛の倫理的考察)	愛は幻想か。動物行動学や脳科学などの領域で語られる「愛」について考察し、その問題点を把握します。また、様々な愛について、ギリシア神話や現代のポップミュージックの歌詞から考察し、分類整理します。その上で、今こそ愛が必要であるにもかかわらず、愛が欠如していることを理解し、愛に満ち満ちた社会環境の構築の必要性を認識します。	
	総合教養講義a (西洋美術の図像学)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。主として旧約聖書を題材にした美術作品、特にシステイーナ礼拝堂内の天井画を取り上げます。図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (浮世絵)	浮世絵は、海外でも有名な日本の伝統文化の代表格といえますが、その実、浮世絵がどのようにして製作されるかといった基本的なことが意外に日本人の間で理解されていません。特に、広島には浮世絵の常設展示を行っているミュージアムもなく、浮世絵を実際に目にする機会が少ないためか、認識が低いように思われます。 知っているようで知らない浮世絵の製作工程・技法について解説します。	
	総合教養講義a (江戸時代の化粧・結髪)	日本人の伝統的美意識は、衣食住の様々な局面に表されてきましたが、化粧・結髪の形式も、その一局面です。 化粧・結髪は、男女とも時代により階層により色々な形式がみられますが、主に浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・遊女に的を絞って解説します。	
	総合教養講義a (神仏と芸能)	世界的にみても、芸能というものは多く信仰に根ざしています。わが国の例として、いわゆる「三大伝統芸能」（能・狂言・歌舞伎）以外の、より直接的な招福除災の性格の強い伝統芸能の各種を紹介します。	
	総合教養講義a (現代日本語の特質)	学校文法として知られている国語の常識を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。日本語の規則性を扱う日本語学の中で、比較的むずかしいものを取り上げて解説します。 扱うテーマは、以下の通りです。 (1) 日本語の統語 (活用、正格活用) (2) 日本語形態論 (語幹、形態素、異形態) (3) 日本語の音声 (子音、調音、IPA) (4) 日本語音韻論 (音素、異音、相補分布)	
	総合教養講義a (英語と日本語)	日本語と英語を以下のような観点から比較します。 ・世界の諸言語の中での位置づけ ・歴史 ・音声 ・方言 ・語彙 ・文構造 ・未来の姿	
	総合教養講義a (ことばと社会)	ネイチャーライティング(自然・環境に関する文学、芸術・メディア)を通じて、「ことばと社会」について考察します。 特に、日本と英米の文学作品や芸術・メディアの比較を行います。また、「場所の感覚」という視点から様々な文化現象について分析します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (ピアノ講座)	毎回の授業は、講義と実演とで構成します。 講義では、ピアノ作品を演奏する上で必要となる楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の修得を目的とします。 実演では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、ピアノ演奏技法の修得をめざし、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。	
	総合教養講義a (声楽と合唱)	実技では、主に合唱曲を用いて、自らの演奏のために必要な発声や歌唱法および表現に関する基礎的な技法を修得することを目的とします。 また上記の事柄をより深く理解するために、講義による基本的な音楽理論も学びます。	
	総合教養講義a (教育文化論)	日清戦争が勃発した明治27(1894)年11月、英文の『日本及び日本人』が民友社から刊行されました。戦争のさなかに幾度か版をかさね、日露戦争が終結したのち、『代表的日本人』と改題されます。東アジア世界に育った日本は、明治維新後、急激な脱亜の道をつきすすみ、帝国主義国の地位を確立します。『代表的日本人』は、キリスト教に帰依した内村鑑三が「キリスト教徒に優るとも劣らぬ立派な日本人」がいたことを欧米のキリスト教徒にむかって示すために著述したものです。内村は、5人の「代表的日本人」をとりあげ、かれらの生涯を紹介しながら日本的な道徳や倫理の美しさについて語ります。『代表的日本人』は、『茶の本』、『武士道』とともに、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。『代表的日本人』を講読しながら、それぞれの人物が生きた時代について分析し、自己形成のあり方、価値観などについて検討します。	
	総合教養講義a (歴史人類学)	フランスの歴史学は、アナール派が歴史学に人類学的視点を導入して以来、歴史学のテーマが多彩となり、歴史学の活性化に大いに貢献しました。日本の歴史学界もこの影響を受け、西洋史、日本史、東洋史において、様々な歴史人類学的テーマがとりあげられるようになっていきます。その中から、遊牧民、気候変動、裁判記録、王権と婚姻、歴史人口学、ジェンダーにかかわるテーマを取り上げ、いくつかのトピックを通じて、歴史上の社会を人類学的視点から多角的に考察します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (歴史と社会)	西洋史では16～18世紀を近世と呼びますが、近世はヨーロッパが周辺世界とかつてないほど深い関わりを持つに至った時代です。近世以降に関して、ヨーロッパからはたらきかけを抜きに南北アメリカ、アジア、アフリカの変容を理解することはできませんが、反対に、周辺世界との関わりを考慮せずにヨーロッパの変容を理解することもできません。近世ヨーロッパと周辺世界の関係のなかでも、特にハプスブルク家とオスマン帝国の関係に焦点を絞り、その関係からどのような変化がヨーロッパにもたらされたか、考えていきます。バルカン社会の変容、メディアを用いた世論操作、議会における情報の扱われ方、といったトピックについては特に詳しく見ていきます。	
	総合教養講義a (現代日本社会の諸相)	(英文) This course aims to give you a deeper understanding of some aspects of modern Japanese society. One of the themes of the course is minorities, which, in turn, is related to another important theme, human rights and discrimination. I have prepared selected vocabulary lists for each topic and, if you wish, I can give you a mini test every week of a few of those words, which you think may be of use to you. We will also be looking at some key Japanese concepts. (和訳) 現代日本社会の様々な諸相の理解を深めることを目的とします。一つは人権擁護や差別といった重要なテーマに関連するマイノリティについて取り上げます。トピックごとに単語のリストをまとめ、その中から役に立つ語彙があれば、毎回小テストを行います。また、日本人の基本的な考えについても触れていきます。	
	総合教養講義a (日本の社会および経済の文化的基礎)	このコースの狙いは学生が現代日本社会のいくつかの側面をより深く理解できるようになることです。このコースのテーマの一つは「マイノリティ」で、それは別の重要なテーマである「人権と差別」に関係があります。私はまた特に交換留学生のために、長い間論じられてきたホットな話題を取り上げたいと思います。例えば憲法9条の改正、自衛隊の位置づけ、第二次世界大戦に対する謝罪、靖国神社参拝、慰安婦問題、歴史修正主義、国政選挙における一票の格差、中国と北朝鮮・韓国との関係、それから沖縄の基地問題も含むアメリカとの関係です。 最初の3回は次のようなトピックの簡単な紹介をします。政治、経済状況、最近の画期的な法律の制定、憲法改正、貧困、社会の不平等、女性の地位、世界と国連における日本の立ち位置、アジア諸国との外交関係。4回目からは、違法外国人労働者、死刑制度、広島長崎の被曝、在日韓国・朝鮮人、日本の高度経済成長、小津安二郎の「東京物語」、について取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (グローバルゼーションと経済)	グローバルゼーションと呼ばれる日本に限らず世界では、ヒト・モノ・カネが国境を越える活動がより加速してきています。この現象は各国民経済に及ぼす影響を決して無視することはできない流れです。この流れの背景を理解するために、貿易および国際金融の基礎的な理論や国際的制度をふまえたうえで、現状分析および当面する政策的問題について学習します。	
	総合教養講義a (ベーシック・ファイナンス)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (コーポレートファイナンス入門)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、証券が市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (働く人のための経営学)	現代の日本は、働く人の約85%が企業やその他の組織に雇用される、いわゆるサラリーマン社会といわれています。まず日本の経営組織で働く人たちの側に立って、従来までの日本的経営の特質、モノづくり、人事・労務管理、日本企業を取り巻く経営環境の変化とその現状など「働く側の経営学」について取り上げ、次に経営学の基礎的諸事項、基本的視座や見方・考え方など「企業経営の基礎知識」を取り上げながら、近い将来、社会に出て「働く人のための経営学」について講義していきます。	
	総合教養講義a (現代社会と企業)	今日私たちは、様々な組織や社会集団に所属しています。学校を卒業すると多くの人は企業や官庁といった組織で働き、様々な仕事に従事します。組織という社会的装置、そこでの仕事や雇用、さらには組織を取り巻く経済社会の動向について基礎的な知識や洞察を深めます。	
	総合教養講義a (現代社会とマーケティング)	現代のビジネスにおいて「マーケティング」を知り、それを「管理（マネジメント）」していくことは必須だと言われます。マーケティングとは何かを学ぶとともに、企業のビジネスにおいて戦略・組織面でのどのような位置づけにあり、どういった役割を担っているのかを学習します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (市民と行政法)	(1) 国民主権、法治主義、適正手続といった基本原理、行政立法・行政行為・行政上の義務履行確保といった行政作用、さらに、国家賠償法・取消訴訟という基本的な救済方法が、どういう歴史的背景のもとに生まれ、それらがいまもなぜ必要とされているのか、いまの政治社会でどのように運用され機能しているのかということについて学びます。 (2) 以上のような行政法に関する最も基礎的な事柄を、おぼえて、理解し、それを活用する能力を身に付けることを目標としています。	
	総合教養講義a (家族と法)	プロポーズをすれば後で気が変わっても必ず結婚しなければならないのでしょうか。結婚すると夫婦それぞれが稼いだお金は誰のものになるのでしょうか。親子の縁を切ることは法律上できるのでしょうか。女性が結婚すれば親の財産を相続する権利を失うのでしょうか。結婚や離婚、相続などの家族の問題についての基本的な法律のルールを学びます。日常的な問題を法律に結び付けて考えられるように、授業では具体的な事例を挙げて解説します。また、授業の内容を整理し、理解度を確認するために、授業の後半では課題に取り組む時間を設け、解説します。	
	総合教養講義a (事例で学ぶ民法)	各種資格試験・国家試験等で出題される民法択一式問題をもとにした事例問題の演習および解答・解説を通じて、民法の基礎的な論点(争点)についての理解を深めます。各学部で開講されている民法科目履修の前提となる知識を整理するとともに、やや発展的内容の学習にもとりくみ、また各種試験の択一式問題に対応できる知識・実践的能力を養うことを意図しています。検討対象は、民法の各分野（主要には財産法）の基本的な諸論点です。	
	総合教養講義a (現代社会と企業法)	現代社会において企業が法的にどのように位置づけられ、何を期待されているか、そしてどのような問題を内在しているのかについて、現在論じられている最新の法情報にも触れながら解説を行います。内容としては、企業法の中心である「会社法」の仕組、不正競争防止法、中小企業の事業承継問題、合併などの組織再編、また会社法との比較において一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（一般法人法）と消費生活協同組合法を解説し、さらに企業のCSR活動、NPO法とNPOの活動および社会的企業論を概観します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (国際社会と法)	地球温暖化や武力紛争など、メディアで目にするような国際社会の現状と課題を理解するには、政治などのほかに、法を軸とした視点も必要です。環境、武力紛争をはじめ、外交など様々な分野における国家などの活動や関係を規律する法規範(国際法)の基本的な内容を概観します。新聞記事などを素材として時事問題を扱い、履修者には現代社会と国際法とのつながりを意識してもらいます。 世界が抱える問題の解決を考察する際に、国際法を基準とした議論を行えるようになることが本科目の目標です。	
	総合教養講義 a (近代日本と戦争)	近代日本は、対外戦争を経るたびに、国内の政治体制、社会構造、文化、思想、そして人々の生活様式までをも変容させてきました。近代日本の歩みは、まさに「戦争の歴史」といっても過言ではないでしょう。日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、太平洋戦争といった近代日本の対外戦争を取りあげ、これらの戦争が国際秩序とともに国内の政治・外交・社会・経済・文化のあり方に変容をもたらしたことを跡付けします。 近代日本の歩みを領域横断的に理解し、戦争の持つ意味を多面的に把握できることが目標です。	
	総合教養講義 a (中国の歴史と社会)	中国は悠久な歴史を有し、輝かしい文明を作り出しましたが、歴史の展開過程を見ると、それは統合と分裂、安定と混乱、繁栄と衰退という繰り返しの歴史でもありました。 古代から数え切れないほどの農民蜂起、近代以降、アヘン戦争、日清戦争、義和団運動、辛亥革命、日中戦争、国共内戦等多くの戦争や動乱が発生しました。中華人民共和国成立後も、大躍進運動、文化大革命、「天安門事件」等の「激動」が続きます。 「激動」が中国社会を安定と不安定の循環をもたらしますが、それは中国歴史の重要な特徴でもあります。歴史的、社会的な角度から、中国事情を解説します。	
	総合教養講義a (生命の化学)	生命とは何かを考える基礎となる、生命化学と生活に関わる化学を講義し、自然科学への関心を育て基礎知識を修得します。我々の身体を構成する物質がどのようなものであり、複雑な生命体の仕組みを知ることが、生活・産業・環境・医療・食糧・安全にまつわる様々な社会問題を考える基礎として重要です。生命はいわば分子を素材とする機械とも言えますが、機械にはない“何か”を持っています。その“何か”は科学者もはっきりと答えることはできません。尊い生命をはぐくんできた地球環境の大切さを考える土台をつくるために、生命の仕組みの奥深さと不思議さを学習します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (病気の生物学)	<p>第二次世界大戦終了後、医療技術の発達、栄養の向上、そして衛生環境の改善によって日本では感染症が激減しました。ところが、高度経済成長期に入ると、生活の場には新たな化学物質が溢れ、これらは公害を生み、その後ガンやアレルギー疾患の発生へと繋がっていきました。また、社会構造が変化（高齢化社会）する中で、脳血管疾患や心疾患が表在化し、これらの発生には生活習慣が関係していることが明らかになってきました。近年、家庭環境や労働環境の変化が過度のストレスとなり、これが原因となって生じる精神疾患が増加の一途を辿っています。このような現代社会を健康に暮らすには、自分の健康に関心を持ち且つ管理することは当然であり、このために「身体機能の正常と異常」を知ることは不可欠です。</p> <p>(1) 病気とは（死因と現代生活）  (2) 生体防御のしくみ（自然免疫と獲得免疫）  (3) アレルギーとアナフィラキシー（生体の防御過剰）  (4) 見えない恐怖（ウイルス、細菌、カビの攻撃）  (5) 心疾患と脳血管障害（高血圧、動脈硬化と糖尿病）  (6) ガンとの戦い（正常細胞のガン化）  (7) タバコの害</p> <p>などのテーマについて解説し、われわれが健康に生きるための術を授けます。</p>	
	総合教養講義a (大気環境問題と生態系)	<p>わが国では1980年代の後半から地球環境問題が注目されはじめました。その後20年以上たった現在でも、深刻な影響をおよぼす、未解決の問題としての位置づけはかわっていません。地球環境問題のうち、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の問題と最近注目されている微小粒子状物質(PM2.5)問題を取り上げます。地球誕生以来生物の進化が大気の形成にどのようにかわり、現代の人間活動が大気環境をどのように変え、上記の4つの問題が生態系にどのような影響を与えているかについて講義します。さらにこれらの地球環境問題の解決のためにどのような試みがなされているかについて紹介します。</p>	
	総合教養講義a (生物多様性保全の環境問題)	<p>現在、地球上の様々な環境で生物種や品種の多様性が失われ、また個体数が減少しています。このような現象はこれまで生物学者や自然愛好家だけが注目していましたが、近年環境問題の一つとして位置づけられ、その深刻さに対する理解も少しずつ進んできています。地球上に多様な生物が生息することの価値、様々な生態系における生物多様性消失の現状とその問題点、生物多様性保全への取り組みについて解説します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (宇宙と環境科学)	生命誕生のサイエンスを宇宙環境の視点から概説し、自然科学への関心を育て基礎知識を修得します。現在、地球上で起こっている様々な問題は、宇宙規模で見れば小さなことかも知れませんが、我々にとっては大きな問題です。これを解決するためには宇宙・地球・生命の歴史を知ることが必要です。生命出現は、宇宙史の最大の出来事です。広大な宇宙において生命が存在するこの地球は最も尊いものでしょう。この科目では、地球の一員としての我々がどこから来たのか、生命と地球環境の尊さと自然の奥深さを講義・討論します。生命は、約40億年前の原始地球上で無生物から出現したと考えられていますが、この歴史を、地球外生命探査やバイオテクノロジーなどによる最新の成果を取り入れ講義します。	
	総合教養講義b (キリスト教倫理)	キリスト教の経典は言うまでもなく『聖書』であり、その『聖書』を拠り所としてキリスト教は成立しています。しかし、『聖書』に収められている「福音書」「パウロ書簡」「使徒言行録」には相互に矛盾する記述も多く見受けられます。今日の「キリスト教」の成果を踏まえながら、イエスの言行、パウロの思想等を理解し、今日的な意味でのキリスト教倫理について考察します。	
	総合教養講義b (芸術文化学)	ドイツを中心としたドイツ語圏の映画芸術について学びます。特に近年の中心テーマ「移民」「ナチス」「東西統一」を扱った21世紀のドイツ映画を取り上げ、それぞれの作品が時代の社会状況と如何に照応しているかに関して理解を深めます。	
	総合教養講義b (江戸時代の服飾)	日本の伝統的美意識は、衣食住のさまざまな局面に表されてきましたが、外出着の文様・形式も、その代表的な局面の一つです。 外出着の文様・形式は、男女とも時代・階層によって色々なものがみられますが、本講義では、主として浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・芸者・遊女の服飾に的を絞って解説します。	
	総合教養講義b (和紙)	和紙は現在、書や絵画に用いられるだけでなく、その独特な風合いを生かしてインテリア・服飾品の材料としても注目されていますが、和紙の広範な活用は今に始まったことではありません。 古来、日本人が和紙を情報記録媒体としてそのまま利用するだけでなく、様々な加工をほどこして衣料・調度品の材料としてきたことについて、解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (メディア論)	「公権力の監視」を使命としながら「第四の権力」とも称される新聞・テレビなど日本の主要報道機関の組織の仕組みや取材・報道・編集業務の実態を、長年の実務経験に基づいて解説し意義や問題点を考えます。国家や軍に屈して戦争を賛美した戦前の歴史や、憲法で言論の自由が保障された戦後の判例、歴史的な事件報道などにも触れます。日本のマスメディアを中心としますが、比較のため海外の主要メディアやその報道も取り上げます。内外の重大なニュースは適宜解説し学生の時事的知識の整理に役立てます。	
	総合教養講義b (社会保障論)	社会保障の対象領域、基本構造、原理などを学び、その後各領域の現行制度について講義します。	
	総合教養講義b (労働問題と法)	労働法のポイントとなる項目について、裁判例や実務上の問題点を素材として現実の労働問題と労働法とのかかわりを説明します。近年、労働法の分野では法改正が続いています。それらの動向もできる限り、授業内容に反映させます。各回の項目について、裁判例や実務上の問題点を取り上げて説明します。	
	総合教養講義b (地方政治のしくみ)	地方自治のしくみは、国の議院内閣制と異なり、大統領制に似ているといわれます。それは、首長に強大な権限が付与されているのが特徴であるためです。それを牽制しチェックする立場に議会はあり、最近では議会基本条例などを制定し、透明化などの議会改革に努めています。住民においては、従来にまして自治への参加機会がより求められるとともに、地方自治基本条例による住民投票などの制度も整備されてきています。これら地方政治のアクターとしての三者の役割を通して、地方政治の基礎的なしくみを理解し教養を深めます。	オムニバス方式・ 共同(一部)
		(オムニバス方式/全15回) (共同)	
		(6 矢部 恒夫・9 矢野 秀徳/1回) 第1回 ガイダンス	
		(9 矢野 秀徳/7回) 第2回～第8回	
		(6 矢部 恒夫/7回) 第9回～第15回	
	総合教養講義b (国際理解)	テキスト『国際社会を学ぶ』を素材に、国際社会を分析するための多様なアプローチの仕方を理解します。アイデンティティ、地球文化、人類益がキーワードとなります。各章には具体的な問いが設定されているので、その問いに基づいてテキストを読み解きます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (生命情報論)	<p>5億3千年程前、生物に眼が現れ、外界の光環境の変化を感知することが可能となりました。その後、眼には光感度の調節、波長弁別、そして動きの感知などの高度な視覚機能が加わり現在に至っています。眼の獲得によって、接触、臭い（あるいは匂い）そして物音などに頼っていた生活に『見る』という感覚が加わり、周囲を探索する能力が格段に向上したため、生物の行動範囲は相当広がったに違いありません。</p> <p>ヒトでは、生活に必要な情報の約80%を視覚から得ているといわれています。昨今のマルチメディア技術の発達とこれを媒体とした情報伝達の現状に鑑みると、他の感覚器に比べ視覚への依存度が高いことは肯けます。</p> <p>本講義では、眼球内に入った光がどのような生体内プロセスを経て『見る』という感覚を生むのかを、</p> <p>(1) 光の性質 (2) 眼の構造と機能 (3) 眼から脳への視覚情報伝達 (4) 脳での視覚情報処理</p> <p>の順序で、最新の研究成果を交えて解説します。</p>	
	総合教養コース (世界の言語と文化)	<p>元来、人間と言語、そして言語と文化は切っても切れない関係にあり、そのつながりを理解することは、人間と異文化理解に大いに役立つものと考えられます。</p> <p>東から西（アジア言語圏からヨーロッパ言語圏）の順で進みます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 朴 大王／1回) ・韓国</p> <p>(53 藤井 隆／2回) ・ガイダンス ・中国</p> <p>(130 金 栄鎬／1回) ・北朝鮮</p> <p>(23 郭 春貴／1回) ・シンガポール</p> <p>(35 高田 峰夫／2回) ・タイ ・バングラデシュ／ベンガル</p> <p>(71 吉川 史子／1回) ・イギリス</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(98 山尾 涼／1回) ・ドイツ  (30 杉浦 順子／1回) ・フランス  (169 FERRAN GUBERN, Santiago／1回) ・スペイン  (65 矢田部 順二／1回) ・チェコ  (37 高橋 利安／1回) ・イタリア  (139 佐藤 道雄／2回) ・アラビア ・イスラエル	
	総合教養コース (情報化社会と人間)	タイピング練習、Windowsの操作の修得、ワープロソフトWord、製本エディタTeXの修得、HTMLの修得、ホームページの作成を行います。  (オムニバス方式／全15回)  (96 都築 寛・75 佐藤 達男／8回) ・オリエンテーション ・Officeソフトの活用 (1) ・Officeソフトの活用 (2) ・情報環境に応じた表現 ・情報化社会と人間 ・ワードプロセッサ “Word” と “TeX” ・ワードプロセッサTeXの概要 ・TeXによる表の作成 ・Word とTeXによる数式の表現 ・本の作成について  (79 出木原 裕順・127 北原 宗律／7回) ・インターネットの仕組み ・インターネットHPの作成 ・インターネットHPの開設 ・インターネットHPの出版 ・インターネット宝探し	オムニバス方式
外国 語科 目	英語 科目	英語リスニング I	英語リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リスニングⅡ	「英語リスニングⅠ」に続いて、リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅢ	リスニングの弱点を克服して、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦するためのクラスです。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅣ	「英語リスニングⅢ」に続いて、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦します。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅤ	より高いリスニング力を身につけ、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しむよう訓練するクラスです。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅥ	「英語リスニングⅤ」に続いて、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しむようリスニングの訓練をします。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リーディングⅠ	英語の基礎的な読解力を身につけるためのクラスです。やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校までに学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅡ	「英語リーディングⅠ」に続いて、比較的やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校で学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リーディングⅢ	弱点を克服して様々なテキストを読み進める力を養うためのクラスです。少しやさしめの英語で書かれた読み物からはじめて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅣ	「英語リーディングⅢ」に続いて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。リーディング活動を通して、苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅤ	読解に必要な語彙力をさらに高め、読むスピードアップを図るためのクラスです。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	英語リーディングⅥ	「英語リーディングⅤ」に続いて、さらに読解に必要な語彙力を高め、読むスピードアップを図ります。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	実用英語実習Ⅰ	日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の修得をめざします。語彙・文法・語法の確認を併用しつつ、インターネット上での情報収集や場面設定にそったアクティビティーやグループワークを活用して実践的運用能力の養成を行います。英語学習に対する動機づけ、英語の使用に対する積極性や自信を醸成することをねらいとします。	
	実用英語実習Ⅱ	「実用英語実習Ⅰ」に続き、日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の修得をめざします。より発展的な場面設定を行いつつ、修得した語彙や文法の範囲内で発信・自己表現するための実践的活動やインターネット上での情報収集を行うことで、英語を使う楽しさを感じ取ることをねらいとします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ライティング研究 I	トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究 II	「英語ライティング研究I」に続いて、トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究 III	自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。手紙、メール、履歴書、短いエッセイなど日常生活で必要とされる内容の文章を英語で書くことができる能力を養成します。また適切な書式に従って書くことについても学びます。	
	英語ライティング研究 IV	「英語ライティング研究III」に続いて、自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。ビジネスレポートや本・映画の書評などある程度まとまった内容を持つ文章などを英語で書くことができる能力を養成します。	
	英語読解研究 I	精読、多読、もしくは、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフ構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながらやさしい読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究 II	「英語読解研究I」に続き、より難易度の高い英文の精読か、やさしい英文の多読、または、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、やさしい読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語読解研究Ⅲ	難易度のやや高い英文の精読、初中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながら、初中級レベルの読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅳ	「英語読解研究Ⅲ」に続き、より難易度の高い英文の精読、中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く正確に読むことをめざします。なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、中級レベルの読み物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語聴解研究Ⅰ	英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅱ	「英語聴解研究Ⅰ」に続いて、英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語聴解研究Ⅲ	<p>(英文) The aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English.</p> <p>(和訳) より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者が行います。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。</p>	
	英語聴解研究Ⅳ	<p>(英文) Building upon the skills and concepts in English Listening Studies Ⅲ, the aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English.</p> <p>(和訳) 「英語聴解研究Ⅲ」で学んだスキルと概念を踏まえて、より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者が行います。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。</p>	
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	<p>さまざまなコミュニケーションの場面に基づくコミュニケーションの基本的な理論と実践について学びます。文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションの様式を理解しつつ、多様なアクティビティーを通じて実践的な訓練を行います。</p>	
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	<p>「英語コミュニケーション研究Ⅰ」に続いて、文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションについて、より複雑な場面を想定して、情報の受信から発信にいたるプロセスを意識した言語活動の実践的な訓練を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	「英語コミュニケーション研究Ⅲ」に続いて、人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	<p>(英文) The aim of this course is to develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. Through lectures and various activities, students will learn how to listen to and understand the ideas and viewpoints of others, and to express their own ideas and viewpoints as clearly as possible. They will review fundamental communication techniques such as using appropriate eye contact, body language, and vocal tone and through lectures and activities they will also learn and practice more advanced techniques such as active listening, reflecting, clarification, and timing.</p> <p>(和訳) 英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。講義に加えて、様々な教室活動を行い、話者の考えや視点を聴きとり理解する方法や、できるだけはっきりと自分の考えや視点を表現する方法について学びます。適切なアイコンタクトや、身ぶり、声の調子などについて概観すると同時に、アクティブ・リスニングや、相手のことばを繰り返して質問し、相手の言ったことを明確にする方法、タイミングのはかり方といったより高度な技術についても学び、練習します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究VI	(英文) Building on the skills and concepts in English Communication Studies V, the aim of this course is to further develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. They will learn more advanced techniques such as empathy, building rapport, dealing with aggression and criticism, and communicating in difficult situations. (和訳) 「英語コミュニケーション研究V」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。共感、信頼関係の構築、攻撃や批判の処理、困難な状況の中でのコミュニケーションといったより高度なコミュニケーション技術について学びます。	
	英語語法研究 I	高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めていきます。	
	英語語法研究 II	「英語語法研究I」とは異なるトピックで高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めていきます。	
	英語語法研究 III	英語の語法・文法のより細かな事項を修得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 テキストをまとまりのあるものにするための文法的もしくは語彙的結束装置(grammatical/lexical cohesive device) について、具体的にテキストを分析しながら学んでいきます。文法・語法に関する専門用語を英語で学び、英語で書かれた文法書も臆せず利用できるよう訓練します。	
	英語語法研究 IV	「英語語法研究III」に続き、英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 類義語の語源の違いに基づくニュアンスの違いや、話者の心的態度(法: mood)を表すいくつかの手段などについて学び、現代の英文法・語法をより総合的かつ俯瞰的に考えられるようにすることを目標とします。そのため、現代の英文法・語法に至るまでの英語の歴史的な変化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格英語研究Ⅰ	TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得をめざします。特に、企業などで利用される機会の多い TOEIC テストの出題形式の解説を行い、試験の形式に慣れるとともに、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、必要な英語力を身につけます。語彙力や文法などの総合的な英語能力を身につけます。	
	資格英語研究Ⅱ	「資格英語研究Ⅰ」に続いて、TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得をめざします。特に、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、解説を行います。TOEIC テスト形式の問題に取り組みながら、基本的語彙を身につけたり、英語を聞いたり読んだりして検定試験でより高い得点を取ることをめざします。	
	資格英語研究Ⅲ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅳ	「資格英語研究Ⅲ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅴ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	
	資格英語研究Ⅵ	「資格英語研究Ⅴ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を習得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語プレゼンテーション研究 I	<p>(英文) The aim of this course is to develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. Through lectures and various activities, students will learn how to analyze model presentations, brainstorm for ideas, organize and develop content, and write short presentations of their own. They will also learn and practice fundamental presentation techniques such as making effective note cards, using eye contact to connect with their audience, making gestures to describe objects, and using correct posture and hand position.</p> <p>(和訳) 本科目は英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力を養うことを目的とします。講義に加えて、様々な教室活動を行い、手本となるプレゼンテーションを分析したり、アイデアを出し合ったり、伝えたい内容をプレゼンテーションとして組み立てて発展させたり、短いプレゼンテーション案を書いたりします。また、プレゼンテーションに効果的なインデックスカードの作成、アイコンタクト、ジェスチャー、正しい姿勢や手の置き方といった基本的なプレゼンテーション技術についても学び、実際に練習します。</p>	
	英語プレゼンテーション研究 II	<p>(英文) Building upon the skills and concepts in English Presentation Studies I, the aim of this course is to further develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. They will learn slightly more advanced presentation techniques such as projecting their voice, speaking clearly and avoiding fillers ("um", "ah", etc.), using stress to emphasize intensifiers ("very", "really", etc.), making gestures for actions, checking for understanding when giving instructions, using sentence stress, and pausing between phrases.</p> <p>(和訳) 「英語プレゼンテーション研究 I」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力をさらに養うことを目的とします。明瞭な声を出し、はっきり話す、つなぎ言葉を避ける、強調語を強く発音する、身ぶりで動作を示す、指示を与える場合は理解しているかチェックする、文強勢を用いる、まとまりのある句と他の句の間に休止を入れる、といった少し高度なプレゼンテーション技術を学びます。</p>	
初修 外国語 科目	ドイツ語 I	<p>ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に文法を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語 I からドイツ語 II へと難度が高くなり、I, II 合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰの続きです。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。ドイツ語Ⅱでは、辞書を引ながら自分でドイツ語の文章を読み、書くことができるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、Ⅲ、Ⅳ合わせて、簡単な日常会話が話せ、簡単なドイツ語の読み物を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲの続きです。基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、ここでは、具体的な場面での日常会話が話せ、ドイツ語の簡単な読み物(物語等)を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルをめざします。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ～Ⅳ(スペイン語初級)では、初修者を対象として、スペイン語の基礎を学習します。「読む」「書く」「聞く」「話す」という4種類のスペイン語運用能力の向上をはかると同時に、スペイン語の学習を通して、スペイン語圏世界の文化の豊かさや多様性にも触れていきます。 スペイン語Ⅰ～Ⅳは共通の教科書を用いますが、Ⅰ、Ⅱでは文法説明が中心になります。Ⅲ、Ⅳでは、Ⅰ、Ⅱとの密接な連携を保ちつつ、表現学習や、文法知識を応用する形での各種練習に重点を置きます。 スペイン語Ⅰでは、文字と発音、名詞の性・数、形容詞、冠詞、重要な動詞の現在形などを学びます。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅳと連携しつつ、スペイン語の基礎文法を学びます。重要な動詞の現在形の学習を継続するとともに、再帰動詞、目的語代名詞、比較表現、不定語と否定語などの事項を学び、最後に現在進行形と現在完了形に触れます。	
	スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅰの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力の向上をめざします。挨拶から始めて、日常生活の表現にチャレンジします。	
	スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅱの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅱで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力のさらなる向上をめざします。複雑で高度な内容をスペイン語で表現することにチャレンジします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語Ⅰ	「中国語Ⅲ」と連動して行います。最初の4週で中国語の発音を習得するとともに、発音記号であるピンインを学びます。その後、基本的な文法事項と会話表現を系統的に学びます。すなわち「是」を使う判断文に始まり、形容詞述語文、名詞述語文、動詞述語文の基本形を学びつつ、それらを使った実用的な文を組み立てる練習をします。また、日常会話に欠かせない、年齢、時刻、金額などの数詞を使った文の作り方も学びます。	
	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」の続きの講義であり、「中国語Ⅳ」と連動して行われます。「中国語Ⅰ」で学んだ文法事項をふまえて、助動詞を用いる文（願望や可能の表現）、アスペクト（経験、過去、持続、進行、将然）の表し方、副詞、前置詞を用いる文など、やや複雑な語法を学びます。「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」をあわせると、中国語検定試験4級合格レベルの文法事項を習得することができます。	
	中国語Ⅲ	「中国語Ⅰ」と連動して行います。最初の4週は発音練習に充てます。その後は「中国語Ⅰ」で学ぶ文法事項を用いた会話表現の実践練習を行います。中国語による自己紹介の練習や他人の自己紹介を聞き取る練習をはじめとして、中国語のオーラルコミュニケーション（聴くことと話すこと）の力を養います。授業では履修者同士の練習が主たる内容となります。	
	中国語Ⅳ	「中国語Ⅲ」の続きの授業であり、「中国語Ⅱ」と連動して行われます。「中国語Ⅱ」で学ぶさまざまな文法事項を用いて、実用的な会話表現の実践練習を行います。履修者同士の練習を主とし、自己の願望の表現や、過去、現在の叙述、接続詞を用いる複文など、中国で生活するうえで基本となる会話表現をマスターします。会話では話す力とともに聴く力が重要であるので、中国語のリスニング能力の向上も重視します。	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	韓国・朝鮮語Ⅲ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国・朝鮮語Ⅳ	一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることをめざします。	
	言語と文化Ⅰ (ドイツ)	初級～中級レベルの教材を使用し、復習を兼ねて一年次で修得したドイツ語の基礎知識を発展させることが当講義の目的です。易しいドイツ語で書かれたテキストを読解しながら、ドイツ語力を伸ばすと同時にドイツの社会、文化、歴史への理解を深めていきます。	
	言語と文化Ⅱ (ドイツ)	ドイツが近代国家になった頃から現在に至って、様々な時代的・社会的背景を物語る「ドイツ語」に挑戦します。 例えば、19世紀を代表する言語学者のGrimm兄弟の童話や20世紀の戦争の恐怖を表現するBrechtの作品に触れたいと思います。なお、ドイツ初の漫画、そして現代の社会問題をピックアップする、生きている話し言葉で書かれている漫画などを用意しています。 それぞれのテキストは分かりやすく、短いものにします。そして、授業で一緒に読んで、解説し、ドイツの社会、文化、歴史などについて考えます。	
	言語と文化Ⅲ (ドイツ)	「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を単位修得した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
	言語と文化Ⅳ (ドイツ)	「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を単位修得した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
	言語と文化Ⅰ (フランス)	「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で習得した基礎をしっかりと固め、さらに未習の文法事項の学習へと発展させます。それと同時に、フランスの最新の文化事情と、フランスから見た日本を考えつつ、実践的なフランス語によるコミュニケーション能力を高めます。日仏の歴史・文化・経済・政治を比較しつつ、今われわれが生きつつある世界の変容について考えます。	
	言語と文化Ⅱ (フランス)	「言語と文化Ⅰ（フランス）」に引き続き、フランス語の未習事項を学び、実践的コミュニケーション力を向上させます。同時に、フランスの最新の文化事情を知り、過去の歴史との関連の中で、理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅲ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」 シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー(フランス語圏)に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということが不可分です。	
	言語と文化Ⅳ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」 シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー(フランス語圏)に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということが不可分です。	
	言語と文化Ⅰ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ・Ⅱ(スペイン)」では、「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」の単位修得者を対象に、日本人大学生がラテンアメリカ諸国を旅行するという設定の教科書を用いて、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかるとともに、ラテンアメリカの社会や文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ(スペイン)」の継続です。ラテンアメリカの国々について学びつつ、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかります。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅲ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習。 a. 2) スペイン語の直説法の過去形。Imperfecto線過去、indefinido点過去、perfecto現在完了、pluscuamperfecto大過去。 a. 3) 会話の練習。 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペインの多様性：言語、歴史、地理、食文化等を日本と比較。 b. 2) サッカーと闘牛 “Fútbol y Toros”。	
	言語と文化Ⅳ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習 a. 2) Futuro (未来形)、Condicional (過去未来) Imperativo (命令形)、Subjuntivo (接続法) a. 3) 会話の練習 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペイン人の平日のスケジュール、余暇の使い方、夏休み等を日本と比較。 b. 2) 都市計画と人間関係。Gaudí (ガウディ)。	
	言語と文化Ⅰ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを単位修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅱ (中国)	「言語と文化Ⅰ(中国)」を単位修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅲ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳをすでに単位修得した学生を対象として、中国語の文章を読解しながら、(1)中国語のレベルアップを図り、(2)中国の伝統的な文化について学ぶとともに、(3)グローバル化のなかでの中国社会・文化の変化の様子を紹介します。	
	言語と文化Ⅳ (中国)	「言語と文化Ⅲ(中国)」に引き続き、中級レベルの中国語文章の読解を通じて、中国語の力(特に読解力とリスニング力)をひき上げ、それとともに中国の社会・文化への理解を深める科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅰ (韓国・朝鮮)	韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳを単位修得し、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (韓国・朝鮮)	韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅲ (韓国・朝鮮)	歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することをめざします。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学び、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていきたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。(とくに近代から1980年代までを扱います。)	
	言語と文化Ⅳ (韓国・朝鮮)	歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することをめざします。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学びながら、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていきたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。本講義ではとくに1980年代以降の韓国社会、南北関係、歴史認識をめぐる問題など、テーマごとに学びます。	
	上級外国語Ⅰ (ドイツ語)	初修外国語で修得したドイツ語能力を踏まえて、実践的なドイツ語の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力を中級以上のレベルに高めることが目標です。学生主体で練習問題やパートナー練習を繰り返し行い、ドイツ語検定3級以上のドイツ語運用能力の獲得をめざします。ドイツ語話者にある程度、自分の要望などを伝えることができるように、日常的な言い回しや、便利な表現なども学んでいきます。また、教科書付属のDVD教材などを取り入れて、ドイツ語圏の文化を視覚的に理解していきます。ドイツ料理のレシピ本や映画の紹介なども適宜取り入れつつ、文化的な知識や関心をひろげることも本授業の主眼のひとつです。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	上級外国語Ⅱ (ドイツ語)	上級外国語Ⅰ(ドイツ語)で学んだドイツ語能力を踏まえて、実践的なドイツ語の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力をさらに向上させていきます。学生主体で練習問題やパートナー練習を繰り返し行い、ドイツ語検定3級以上のドイツ語運用能力の獲得をめざします。相手の要望を聞き取ったり、自分の簡単な意思を伝えるための日常的な言い回しや、便利な表現なども学んでいきます。また、上級外国語Ⅰ(ドイツ語)に引き続き、教科書付属のDVD教材などを取り入れて、ドイツ語圏の文化を視覚的に理解していきます。ドイツ料理のレシピ本や映画の紹介なども適宜取り入れつつ、文化的な知識や関心をひろげることも本授業の主眼のひとつです。	
	上級外国語Ⅰ (フランス語)	将来的にフランス語圏への留学を考えている学生やさらに上の検定取得をめざす学生など、高いモチベーションを持つ学生を対象に、フランス語圏で滞在したときに最低限困らない程度の実践的なフランス語を修得することをめざします。買う、頼む、尋ねる、断るなど、具体的な行為目的を設定し、場面にあった表現パターンを学んでいきます。またCM、映画、TVなど加工されていないドキュメントにも触れ、生のフランス語に耳を慣らしていきます。	
	上級外国語Ⅱ (フランス語)	上級フランス語Ⅰにつづき、フランス語圏で滞在したときに簡単なコミュニケーションがとれる程度の実践的なフランス語の習得をめざします。ここでも具体的な行為目的を設定し、場面にあった表現を学んでいきますが、最終的にはそれを発展させ、現地での小旅行や友人を呼んでのパーティーの企画など、グループで具体的な企画を達成することをめざします。またCM、映画、TVなど加工されていないドキュメントに触れ、生のフランス語に耳を慣らしていくことも続けていきます。	
	上級外国語Ⅰ (スペイン語)	スペイン語文法の主要部分を習得し、ある程度のスペイン語運用能力を身につけ、中級レベルに達した学生を対象とした授業です。発展的な文法知識を習得しながら、長文読解練習、作文練習、会話練習、ヒアリング練習などをおこない、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各能力をさらに高めていきます。同時に、スペイン語圏世界の国々の歴史・文化・社会への理解をさらに深めていきます。	
	上級外国語Ⅱ (スペイン語)	スペイン語文法の主要部分を習得し、ある程度のスペイン語運用能力を身につけ、中級レベルに達した学生を対象とした授業です。前期開講の「上級外国語Ⅰ(スペイン語)」からの継続であり、引き続き、発展的な文法知識を習得しながら、長文読解練習、作文練習、会話練習、ヒアリング練習などをおこない、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各能力をさらに高めていきます。同時に、スペイン語圏世界の国々の歴史・文化・社会への理解をさらに深めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	上級外国語Ⅰ (中国語)	<p>1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。</p> <p>2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。</p> <p>また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。</p>	
	上級外国語Ⅱ (中国語)	<p>1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。</p> <p>2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。</p> <p>また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。</p>	
	上級外国語Ⅰ (韓国・朝鮮語)	韓国・朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを単位修得した学生を対象に、最上級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	
	上級外国語Ⅱ (韓国・朝鮮語)	韓国・朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを単位修得した学生を対象に、最上級レベルの韓国語力をめざします。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	
保健 体育 科目	健康科学論	<p>健康に関する情報が氾濫しているとも言える今日において、それらの情報の正否は何を基準に判断すれば良いのでしょうか。また自分が今、健康的な生活を営んでいるのかどうか、何を基準に判断すれば良いのでしょうか。これらについての理解をしていないと、自分の健康を維持・増進することはできません。</p> <p>健康を維持・増進するための運動を中心とした基礎的な知識を集積し、それを実行するためには何が必要かを学習します。また、健康に関する最新の話題や身近な問題を提供します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動科学論	スポーツや運動にかかわる諸問題を考える場合、運動をとらえる切り口はいろいろあります。この科目では、スポーツ運動だけでなく日常的な運動も含めた、身体運動における私たちの身体の構造と機能の理解から始め、この側面から人間の運動というものにアプローチしていきます。運動に関するハードウェアとソフトウェアをながめると、あなた自身もつ「すばらしさ」と「かけがえのなさ」が見えてきます。私たちのからだや、運動をめぐるいくつかのことについて考えてみます。	
	健康科学演習	今日、運動不足やストレスの問題はますます増加の傾向にあり、これらは健康阻害の一因となっています。この科目では、「運動・スポーツ」を通じて、どのように「健康」な状態を生み出していけるのかについて考察します。まずは、健康づくりに関する基礎的な知識を学習した上で、運動時の生理的指標の変化を確認してみます。そして、明らかにしたい運動や健康に関連した実験テーマを自分で決め、正しい手続きで数値データを取り、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明します。	
	運動科学演習	人間の運動や運動の学習を材料にして「学問・研究」を行います。スポーツの熟練者は「瞬間的にもものを見て取る」ことができるのでしょうか。ターゲットが何色のとき狙いやすいのでしょうか。どんなストレスが反応の速さや強さに影響するのでしょうか。運動がすぐに上達する「秘策」みたいなものはあるのでしょうか。あなたは日常の運動やスポーツについて、不思議だなあと感じていることはありませんか。 また、広島県の高中生バスケットボール国体候補選手や小学生スーパージュニア選手のタイミングコントロール能力の測定・解析も予定しています。 正しい手続きで数値データを取り、あらわれた差が偶然のものではないことを明らかにして、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明してみます。	
	健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	アダプテッド・スポーツとは、障害のある人はもちろん、幼児から高齢者、体力の低い人であっても、ルールや用具を対象者の特徴に適合(adapt)することによって展開するスポーツ活動のことです。本授業では、様々なアダプテッド・スポーツのルールを学習し、体験していきます。また、特別支援教育に対応できるよう、障害の疑似体験者をインクルーシブしてスポーツを行います。このようなことから、アダプテッド・スポーツを理解し、どのように展開していくと、みんなが楽しむことができるのかということの理解を深めていきます。	
	健康スポーツ実習 (ゴルフ)	生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術のグループ練習やゲームを通して、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (ソフトバレーボール)	ソフトバレーボールを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (ソフトボール)	社会的健康を成熟したチームとして機能することと捉えます。この場合、自他の能力を本質的に理解することが必要とされますが、ここでは、まず他人のプレイに注意を向け、見ることで、そして、すごいな、うまいな、というレベルにとどまることなく、これを分析することに主眼をおきます。幸いにして野球型の種目では、1プレイ1プレイを記録する方法が確立されており、また他人のプレイを観察できる時間的余裕もあります。ゲームにおいては、チームメイトのパフォーマンスを記録し、これを分析し、各人の特性を生かしたプレイについてのコメントや助言を行える関係を形成します。 キャッチングやスローイング、バッティングなどの基本スキルは、部分練習も行いますが、多くはシートバッティング(守備位置について実践的バッティング練習)の中で習得します。	
	健康スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。	
	健康スポーツ実習 (テニス)	テニスを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	ニュースポーツの授業では、一般的に多くのスポーツ愛好者に普及しているオリンピック種目などとは異なる、比較的近年になって作られたスポーツを行います。ニュースポーツは、おそらくほとんどの受講者が実施した経験のない種目であり、一からルールを覚えて実施することになります。新しいスポーツに全員で取り組む中で、スポーツの有益性を学んで行くことが授業の主要目的であり、健康な心身を作るという面で運動がどのような役割を担っていけるかを考えていきます。ニュースポーツ種目のルールを把握し、自分たちでゲームを実施できるようになってもらいます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールというスポーツ種目が、果たしてからだの健康の維持増進を図る上でのスポーツとして適切であるか否かについて検討します。また、そうすることで、最適な運動とは何かを探り、環境や身体の変化に適応したスポーツ種目の選択をするための方略を学びます。 同時にバスケットボールの基本的な技術や戦術を身につけ、ルールを覚えてゲームを他の人と一緒に楽しめるようになることも目的とします。	
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	健康の維持増進を目的として、バドミントンを生涯継続してできるための基本的技術や戦術を学びます。また、バドミントンのルールや審判法を学び、チームのメンバーと協力し自主的に試合を運営します。さらに脈拍や歩数計を用いて自分の健康状態や活動レベルを確認します。	
	健康スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	プロジェクト・アドベンチャーの手法による体験学習を用いて、人間関係の健康のために最適な言動・行動とは何かを探り、人間関係を主とした環境の変化に適応するための方略を学びます。「Shudo AP」とは、広島修道大学 (Shudo) アドベンチャー (Adventure) プログラム (Program) の略です。	
	運動スポーツ実習 (アкваティクススポーツ)	スキンドайビングやスクーバダイビングで自由に活動するためには、器材の取り扱いに慣れるだけでなく、水中という特殊な環境が身体に及ぼす影響やダイバーが自然に与える影響についての理解が必須となります。そこでは安全に対する高い意識と自然に対する謙虚な姿勢が強く求められます。 フィン・マスク・スノーケル・ウェットスーツをはじめとしたダイビング器材を用いて、スキンドайビングとスクーバダイビングの基本的な技術を身につけるとともに、野外（海）で安全に楽しむために必要な知識・技術・態度を最適にコントロールすることを学ぶことで、生涯にわたってスキン&スクーバダイビングを楽しむ態度やマナーを養成します。	
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、ジュニアから高齢者、男女問わず愛好者が目立っています。また、原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであるゴルフにおいて自らのプレーを自らのレフリーとなって律するという基本精神について実践を通して学びます。	
	運動スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	ソフトボールの実験を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーからなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的な技術を修得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールを最適にコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも気軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための俊敏な動きや持久力も必要となっています。卓球の楽しみ方には色々あります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、俊敏な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え、試合で効果的に用いることができるようにしたいです。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。	
	運動スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体カトレーニングなどを行います。	
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 チームプレイは、個々のプレイヤーの動作（走る、跳ぶ、止まる、向きをかえる、投げる、捕る、ころがすなど）の相互作用によって成立しています。このときのプレイヤーの関係には、(1)ボール保持者と非ボール保持者、(2)非ボール保持者と非ボール保持者という2つがあります。このことはチームプレイには最低3人が必要であることを示しています。現在のバスケットボールのチームプレイは、カットインプレイとスクリーンプレイの少なくとも一方を含んで構成されています。プレイヤーは、カットインをするか、スクリーンをするか、何もしないかによって相互作用を行うのです。授業では、チームとして、カットインやスクリーンを用いてディフェンスラインを破った状態でシュートをするための学習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	バドミントンを通して、身体を最適にコントロールすることを学びます。サーブやスマッシュ、ドロップ、ドライブといったバドミンントンの個人技術を身につけ、ゲームとしてバドミントンをより楽しむことを目的とします。また、どのようにすればゲームに勝てるかの戦略を考え、シングルスやダブルスゲームを行っていきます。バドミントンでは、「目では見えているけど身体が動かない」、「当てたつもりなのに空振りをした」、「練習しているうちにいつの間にか頭で考える前に身体が動くようになった」などを経験することがあります。本授業では、こういったスポーツで経験する身体と脳の不思議や健康への貢献についても学んでいきます。	
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	バレーボールを用いて、練習方法と指導方法の関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。バレーボールのルールや審判法を学びます。バレーボールのサーブ、レシーブ、パス、スパイク、ブロックなどの基本的技術を修得し、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動を通して社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	
	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	「はじめチョロチョロ、なかパッパ、...グツグツいったら火をひいて、...赤子泣くともフタとるな。」これは、炊飯器のマイクロコンピュータの中に隠されてしまった先人たちの「日常」です。この授業は、山の中で生活することによって、このようなブラックボックスと化した日常を手作業で行います。しかし、これは決して歴史への逆行や単純に「不便さ」を求めるものではありません。それは、「便利さ」をもたらす科学技術へのより深い理解をめざした学習なのです。 また、私たちはふだん雑菌の中で生活していることをほとんど気に留めていませんが、山の中では、ちょっと気を許すと、食料は傷み寝床は虫だらけ、ということになってしまいます。ゴミを片付けたり、清潔に整理整頓しておくことは、けっして環境のためだけではありません。環境問題はきっと私たち人間にはね返ってくるということを切実に想い起こさせてくれる科目です。 大自然は逆らおうとする者には激しく牙を剥き、友達でいようとする者には優しく応えてくれます。山での生活は、人間がまさに大自然の一部であることを感じさせてくれます。大自然の懷に抱かれて、PC・スマホゲームやカラオケボックス・テレビ・漫画以外の楽しいことを「同じ釜の飯を喰う」仲間とともにたくさん見つけます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	野外運動実習Ⅰ (スキー)	<p>冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では修得できない身体のコントロール方法です。初めてスキー板を履く人、スキーを始めたばかりの人について、重心線が常に2本のスキー板の間にある安定したポジションで、スピードコントロールをしながら安全に、山の頂上から麓まで滑って降りられるようになることを目標とします。</p> <p>一方、野外運動実習Ⅱ（スキー発展）においてパラレルポジションでのターンを修得した人については、プルークポジションで左右のエッジをすばやく切り替えることによる、より短いタイミングでのターンの修得を目標とします。いずれも、しっかりと「谷足にのる」感覚を身につけてください。</p> <p>また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。</p>	
	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	<p>野外運動実習Ⅰ（キャンプ）で行う、テントの設営と撤営、鉈を用いた薪割り、かまどにおける火起こしと炊事、などのいわば理論的側面を主に扱います。「理論」といっても机の上で行うではありません。理論化するということは、体系的に言語化することです。</p> <p>ほかの人に伝えようとしても、内容が十分に理論化されていない場合は、聞いている人が「ん?!」という顔をします。</p> <p>この授業では、テントを張る順番がなぜ決まっているのか、ご飯が炊けるとはどういうことなのか、火や鉈がこの上もなく危険なものとなるのはどういときか、などを体系的に言語化し、「整理」して、キャンプⅠの受講者にわかりやすく「伝達」することの学習を行います。</p> <p>また、Ⅰにはない、ロープワーク、クラフト、ナイフや鉈の手入れ、見えない相手との通信方法などの学習も予定しています。</p>	
	野外運動実習Ⅱ (スキー発展)	<p>冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では修得できない身体のコントロールです。</p> <p>スキー発展では、クロスオーバーのあるターンができるようになることを基本とし、そのターンを基にした大回りのパラレルターン・小回りのパラレルターンの修得を目標とします。また、新雪や不整地など様々な状況に合わせた滑り方の学習も行います。さらに、板をずらさないカービングターンについても学習します。</p> <p>また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	学 部 入 門 科 目	<p>世界と地域</p> <p>国際コミュニティ学部での学びの基軸となる、「グローカリズム」の考え方を身につけることをねらいとする科目です。この科目では、グローバルな課題群と地域社会の課題群の関連性を意識できるようにするための視点や事例を取り上げます。この科目の学びを通じて履修生が、グローバルな課題を通じて地域社会の課題を見つめる姿勢と、地域社会の課題からグローバルな課題を見つめる姿勢を手に入れることをめざしています。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 伊藤 敏安・2 佐渡 紀子・4 広本 政幸・5 三浦 浩之・6 矢部 恒夫・7 木原 一郎・8 篠原 新・9 矢野 秀徳・13 宇野 伸浩・14 王 偉彬・34 TOWNSEND, Jana.M.・38 竹井 光子・47 名波 彰子・54 船津 靖・56 HOY, Keith C.・59 三上 貴教・65 矢田部 順二・76 JAMES, Daniel・89 柳生 一成・97 樋口 真魚/1回) (共同) 国際コミュニティ学部の理念 教員紹介</p> <p>(14 王 偉彬・47 名波 彰子・59 三上 貴教/1回) (共同) 国際政治から社会を見る①</p> <p>(2 佐渡 紀子・54 船津 靖・89 柳生 一成/1回) (共同) 国際政治から社会を見る②</p> <p>(65 矢田部 順二・97 樋口 真魚・13 宇野 伸浩/1回) (共同) 国際政治から社会を見る③</p> <p>(34 TOWNSEND, Jana.M.・38 竹井 光子・56 HOY, Keith C.・76 JAMES, Daniel/1回) (共同) 相互理解のコミュニケーション</p> <p>(1 伊藤 敏安・4 広本 政幸・8 篠原 新/1回) (共同) 地域政策から社会を見る①</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/1回) (共同) 地域政策から社会を見る②</p> <p>(6 矢部 恒夫・9 矢野 秀徳/1回) (共同) 地域政策から社会を見る③</p>	オムニバス方式・共同

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治の考え方	<p>ニュースでとり上げられることや、日常の生活の中で見聞きすることが、どのように政治や行政と関わっているかを理解することを、目的とします。毎日の生活の中で起こっていることや、情報として触れていることが、政治や行政とかわっていることを、意識できるようにすることをめざします。回によっては、説明されたことを素材にし、政治や行政の影響や、政治や行政に関係する問題について考え、自分の意見をまとめたり、他の人と意見交換をしたりするという作業を行います。</p> <p>具体的には、政治学の観点と行政学の観点に分けて、日常生活で見聞きする事象を解説し、受講者がそれらについて考えていけるよう助言します。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 広本 政幸・8 篠原 新／3回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要</li> <li>・前半のまとめ、質疑応答</li> <li>・後半および全体のまとめ、質疑応答</li> </ul> <p>(8 篠原 新／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活のなかの政治</li> <li>・政治学が捉える日常生活</li> </ul> <p>(4 広本 政幸／6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活のなかの行政</li> <li>・行政学が捉える日常生活</li> </ul>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会のしくみ	<p>社会とはどのようなものか、について、法と政治の視点から考え、日々の生活が社会生活の一部分であることを認識することを目的としています。個人の生活はその人だけのものではなく、周囲の他者との間で複雑かつ多岐にわたって関係しており、個人と社会は相互に依存し合っています。法は社会の基盤を整え、政治は現実の諸問題への解を模索し、国会を通じて法を作り出し、また、変えていきます。他方で法は適用範囲を解釈により広げ、また、狭めていく作用を持っています。法と政治によって社会がどのように構築され、変容されているかの認識を深めていきます。</p> <p>具体的には、法律学の観点と政治学の観点に分けて、人と社会に関する事象を解説し、受講者がそれらについて考えていけるよう助言します。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 矢部 恒夫・9 矢野 秀徳／3回) (共同) 授業の概要、前半のまとめ、質疑応答、後半および全体のまとめ、質疑応答</p> <p>(6 矢部 恒夫／6回) 人と社会に関する法の世界、法律学が捉える人と社会</p> <p>(9 矢野 秀徳／6回) 人と社会に関する政治の世界、政治学が捉える人と社会</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	日本と世界の現代史	<p>第二次世界大戦後の日本と世界の政治変動を解説します。冷戦から冷戦後の国際政治の変化と日本社会の変化が、どのように関わり合うのかを捉えることが目標となります。</p> <p>具体的には、国際関係史の立場と日本政治史の立場に分けて、時系列的に全体で12のテーマを設定し講義します。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(65 矢田部 順二・97 樋口 真魚／3回) (共同) 授業の概要、まとめ、質疑応答</p> <p>(65 矢田部 順二／6回) 冷戦期の世界</p> <p>(97 樋口 真魚／6回) 冷戦期の日本</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	異文化理解論	<p>多文化共生社会において必要とされる異文化理解能力(態度・知識・技能)を身につけることを目的に次の3つのテーマでオムニバス形式の講義を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(38 竹井 光子/5回) 「文化」「言語」「コミュニケーション」の3つをキーワードとして、異文化コミュニケーションについて考えるときに必要な概念を理論的、体系的に論じます。文化の定義、コミュニケーションの定義、言語と文化の相互作用などを踏まえた上で、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの特徴や機能を理解し、異文化コミュニケーションの実践の場で活用できるようになることをめざします。</p> <p>(13 宇野 伸浩/5回) 文化人類学の研究にもとづき、文化の定義をふまえて、具体的なトピックから文化の違いを考察します。トピックとしては、食べ物、よそおい、コミュニケーションにおける身体用法の3つを取り上げます。この3つのトピックについて、文化の違いを越えた人間としての共通性がどの点にあり、文化によるバリエーションがどの点に生じるかについて解説し、文化についての理解を深めることをめざします。</p> <p>(54 船津 靖/5回) 世界人口の過半数が一神教の信徒かその文化圏に属する現実を踏まえ、大半の日本人にとっては理解が容易でないユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本思想、古代から現代に至る主な展開、地理的分布などを宗教史的に論じます。東アジアの仏教的、儒教的文化、さらには天皇制との比較宗教社会学的な考察も行い、理解を深めます。現代の一神教世界の人々と接する際の実際的な注意点にも触れます。</p>	オムニバス方式
学 科 基 礎 科 目	地域行政入門	<p>初学者が政治学・行政学の学問領域の広がり意識できるように、学科教員が自らの研究領域と政治学・行政学の関係性を解説していくオムニバス授業です。この作業の中では政治学・行政学を考える際の分析方法や視点が提示されます。</p> <p>政治学・行政学の学問領域に包括的に触れることで、地域行政学科における学びの全体像を理解し、2年次以上での学びのアウトラインを鳥瞰することが目標です。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 矢部 恒夫/1回) 授業の概要、地域政策と私たち</p> <p>(1 伊藤 敏安・2 佐渡 紀子・5 三浦 浩之・7 木原 一郎・8 篠原 新・9 矢野 秀徳/6回) 地域政策と私たち</p> <p>(4 広本 政幸/1回) 地域政策と私たち、授業のまとめ</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科学入門	<p>地域や世界で課題となっている事象を素材として、考察を深める練習をします。児童虐待対策、社会的弱者への支援対策など、また難民問題や異文化摩擦問題などを、各回のテーマにします。各回のテーマに関して、どのような立場からどのような意見があるかを確認し、ゲストスピーカーを迎えて、授業で活動に関する説明をしていただきます。ゲストスピーカーに学生がインタビューを行う時間も設けます。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(4 広本 政幸／4回) 授業の概要、地域課題から考える</p> <p>(65 矢田部 順二／4回) 国際問題から考える、授業のまとめ</p>	オムニバス方式
	体験実践A	<p>学外学習プログラムの中から、実習先を選択し、約2週間の実地作業を経験する科目です。派遣前には学外学習の準備や心構えに関する事前授業が用意されています。地域行政学科学生の実習先は、地域課題の現状を認識し、課題解決への方策を探る上で有効と考えられる現場を設定しています。</p> <p>この科目は「体験実践論」と同時に履修することが求められ、学外学習後には「体験実践論」の中で、報告会への準備作業をおこないます。</p>	
	体験実践B	<p>学外学習プログラムの中から、実習先を選択し、約4週間の実地作業を経験する科目です。派遣前には学外学習の準備や心構えに関する事前授業が用意されています。地域行政学科学生の実習先は、地域課題の現状を認識し、課題解決への方策を探る上で有効と考えられる現場を設定しています。</p> <p>この科目は「体験実践論」と同時に履修することが求められ、学外学習後には「体験実践論」の中で、報告会への準備作業をおこないます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニティ学部地域行政学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	体験実践論	<p>原則として「体験実践A」または「体験実践B」と同時に履修します。またこの科目は、1-2年次のうちに1度は履修することが求められます。</p> <p>この科目で履修者は、学外学習における目標設定と過ごし方を事前学習として検討します。学外学習後にはそれぞれの「経験」を個別に内省し、そこに地域行政学科における学びとのつながりを発見し、他者にその気づきを語る「体験の言語化」プロセスを実践します。個人ワークと共有、ディスカッションの双方向型の学びを繰り返しながら、個人経験を社会とのつながりの中で捉える力を養成します。</p> <p>第1回：授業ガイダンス、学外学習の心構えと目標設定            第2回：健康管理と日誌のつけ方            （以上、学外学習の事前授業として）            第3回：個別的体験のふり取りと共有            （以下、学外学習の事後授業として）            第4回：内面のふり取り            第5回：社会課題との連関を考える(1)            第6回：社会課題との連関を考える(2)            第7回：クラス内発表による共有化            第8回：報告会への準備</p>		
学 科 目	政 治 領 域	政治学概論	<p>政治学に関する基礎的な概念や理論を、具体的な事例に即して講義します。概論という科目の特性上、「広く浅く」という形になりますが、他の政治学関係科目を学ぶ上での基本的知識を身につけてもらうことを目的とします。</p> <p>主なテーマは、〈国家とナショナリズム〉〈権力と正当性〉〈自由主義と民主主義〉〈福祉国家〉〈イデオロギー〉〈議会と選挙〉〈政党と政党システム〉〈社会運動と政治〉などを予定しています。</p>	
		政治理論	<p>現代政治理論として、J・ベンサムなどの功利主義の政治理論、および功利主義批判のJ・ロールズやリバータリアニズム、コミュニタリアニズムなどの政治理論を取りあげ、現代政治を読み解きます。この読み解きの基礎として、まず「政治」概念の変化について考察し、次いで、近代の代表的な政治理論である社会契約論の特質を、ホッブズ、ロック、ルソーの比較を通じて明らかにし、近代政治理論から現代政治理論への変化を考察します。</p>	
		政治思想	<p>政治についての基礎的な概念、観念は古典古代ギリシアとそれを継承した近代ヨーロッパにおいて形成されてきました。西洋政治思想とその基礎概念、問題の展開を、代表的な思想家のテキストを読みながら検討します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治文化論	各国の政治システムを支える固有の政治文化を比較しながら、政治システムの変化と政治文化の変化の関連性について説明します。その際、冷戦構造を崩壊させることになった東欧革命を手掛かりに、市民の政治意識の変化という視点から、政治文化の変化、政治システムの変化を考察します。また、戦間期の政治システムの変化を、日本とドイツの政治文化の比較を行うことによって明らかにし、双方の特殊性と共通性についても考察します。	隔年
	民主主義論	民主主義を思想、運動、制度の三つのレベルから分析し、民主主義の全体的把握を試みます。思想のレベルでは民主主義の5類型を提示し、運動のレベルでは、「第三の波」の民主化を、制度のレベルでは大統領制と議院内閣制を取りあげて比較分析します。なぜなら、今日、民主主義は、あらゆるものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的かつ曖昧なものとなっていることから、民主主義を様々な視点から再検討することによって、民主主義を活性化しなければならないからです。	隔年
	日本政治外交史	日本は、19世紀後半の「西洋の衝撃」を契機として、主権国家体制への参入を余儀なくされました。ここにおいて、日本の対外関係は西洋世界へと拡大し、近代的な意味での「外交」が展開されることとなります。 19世紀後半から20世紀後半までの約100年にわたる日本外交の歩みを、帝国主義、総力戦、冷戦といったグローバルな現象に伴う国際関係の変動に留意しつつ、概観します。日本外交史の基礎的知識を修得するとともに、現代日本における外交課題を歴史的文脈から捉えなおすことを到達目標とします。	
	東洋政治外交史	「アヘン戦争」以後、欧米列強の東アジア進出が強まりましたが、日本の明治維新や中国の「洋務運動」が、19世紀後半の近代化を求めるアジアの代表的な動きでした。日露戦争、日韓併合、日中戦争、太平洋戦争及び中国の国共内戦等が20世紀前半の主な出来事だとすれば、中米対立や中日の「政経分離」及び朝鮮半島・中国大陸と台湾の分断は、20世紀後半の東アジア国際関係の特徴といえます。 21世紀以後、中米間の様々な摩擦や、歴史問題や尖閣諸島(中国名:釣魚島)問題をめぐる中日の対立が続き、北朝鮮の核問題や日朝・日韓関係の問題も存在します。 東アジアを中心に、近代以後の国際関係が如何に展開されたのか、その国際関係の構造的特徴を解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋政治外交史	<p>一般に、近代国際社会の国際関係は、三十年戦争のちに成立した西欧国家体系が世界に拡散する過程と考えることができます。本講義では、ヨーロッパ外交史を基礎としながら、ナショナリズムの登場や、資本主義の発達と社会の変化、世界の植民地化と帝国主義の対立、第一次世界大戦、ファシズムと第二次世界大戦、を主要なトピックとして、20世紀前半までのヨーロッパ国際関係の歩みを概説します。</p> <p>歴史は現在と過去の対話といわれますが、現代の国際政治が形成された背景を歴史的な脈の中に位置づけることをこの科目の目標とします。</p>	
	日本の政治	<p>日本の政治、とくに第二次世界大戦後から現代までの日本政治の仕組みや実態についての知識を得ることを目的とします。第二次世界大戦後、日本の政治がどのような軌跡を辿ってきたのか、また、現代の日本政治がどんな仕組みによって動いているのか、さらには、そこでいかなるアクターが活動し、どのような問題に直面しているのかなどについて説明します。</p> <p>当時の資料や映像などを用いたディスカッションや、関連する時事問題についての解説を予定しています。</p>	
	政治過程論	<p>政治過程論と政治学の関係や政治過程論における代表的な理論やモデルを概説します。また、これらの理論やモデルが日本政治に示唆することについても説明します。こうしたことを通じて、政治過程論の基礎を理解し、自らで政治について分析する力を得ることを目的とします。</p>	
	NGO・NPO論	<p>近年国際・国内政治において、主要アクターとして認識をされてきたNGO・NPOについて、その役割や課題について考察を行います。まずNGO・NPOをめぐる理論を学び、その後NGO・NPOが取り組む国内外のさまざまな事例を用いていきます。また、近年日本で着目をされる災害後の学生ボランティアについても事例を検討します。NGO・NPOの役割はそれぞれが置かれた政治的・社会的背景により大きな影響を受けるということの理解を進めていきます。</p>	
	国際政治学	<p>国際政治学は、国際社会を理解しようとする知的営為の蓄積を修得し、それを土台に世界に自らの意見を発信する力を身につけることを課題としています。つまり国際政治学理論を基礎に、創造性と想像力を発揮して自分なりの意見を作り上げ、それを的確に世界の人々に伝える力が大事となります。</p> <p>そのための学びの一つとして、ここでは具体的な問いとそれに関連する理論に焦点をあて、国際政治学の専門的知識を修得して行きます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際日本学	世界の中の日本について考察します。自分自身の社会における存在意義は、社会そのものの理解なくして見定めることはできません。その社会が日本という国家と重なる部分が多いとき、世界の中の日本についての理解なくして自分自身のアイデンティティも定まりません。世界の中の日本について、特に日本のソフトパワーは何か、という問いを土台に講義を進めます。その検討において、影響力ある世界ランキングを活用します。世界の中の日本を柱に、ランキングを通して世界各国の状況にも切り込んでいきます。	
	平和学	平和学における、平和に対する考え方を修得することをめざします。そのために本講義では、まず、平和の発祥とその背景を取り上げます。ここでは武力紛争が重要なテーマとなります。そのうえで、平和学の発展過程をたどりながら、平和学が何を平和への脅威としてとらえてきたのかを示します。具体的には、貧困（格差）、環境破壊、人権問題などです。これらの学びを通じて、平和への脅威に対する平和学の考え方とその意義を共有します。参加者間での意見・情報共有の機会をもちながら、進めていきます。	
	外交政策論	政策決定者たちの利害関係は一樣ではありません。また、外交政策を決定するうえで相手国の動向も無視することができません。本講義では、国際政治の理論モデルに触れつつ、政策決定過程における個人・国家・国際関係の果たす役割やそれらの相互関係について検討します。具体的には、太平洋戦争、日米安保条約改定、沖縄返還交渉などの日本外交史上の重要トピックを事例として、外交政策に関する合意形成過程を跡付けます。 国内政治と国際政治の連関性に留意しつつ、歴史的制約条件の下で各個人が果たした役割を把握することが本講義の到達目標です。	
	安全保障論	安全保障に対する考え方を修得することをめざします。そのためにまず、安全保障の捉え方を概観したうえで、脅威の多様化に触れながら、安全保障を強化するために生み出されてきた制度や考え方を取り上げます。そして、安全保障政策の特徴と変化を、その背景に触れながら分析します。これらの学びを踏まえ、安全保障を高めるための選択肢の多様性や、それらの効果と限界への理解を深めることをめざします。参加者間での意見・情報共有の機会をもちながら、進めます。	
	紛争と平和	紛争原因および紛争解決のアプローチを把握することをめざします。そのためにまず、武力紛争の背景と経緯を取り上げ、武力紛争の姿をより具体的に把握する機会をもちます。そのうえで、武力紛争の原因分析を取り上げ、紛争解決のためのアプローチを検討します。これらを通じて、武力紛争の原因の多様性や、解決に向けたアプローチの効果と限界を認識することをめざします。なお、事例を用いた、履修生による紛争原因や解決策の検討プロセスを組み入れて展開されます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際人権論	第二次世界大戦後、国際的な人権保障制度の発展はめざましく、国連が人権の尊重を促進するほかにも、人権保障を目的とする条約が次々と作られ、各国による条約の履行を監督する条約機関も設立されてきました。欧州などでは地域的な人権裁判所もできています。それらの制度の歴史的発展と概要を講義します。その中において日本との関係や重要な事例も扱います。 制度の全体像の理解にとどまらず、人権保障における意義や問題点などを考え、人権のより良い実現とは何かを探究することが目標です。	
	国際協力論	安全保障や人権、人道、開発、環境といった様々な 이슈にどのようなアクターが関わるのか、また、その際にどのような論点があるのか理解を深めます。講義では国際連合（国連）を中心的に取り上げつつ、それが国際協力において他のアクターといかなる関係にあるかに着目します。また、日本の国際平和協力の現状と課題についても検討を行います。日本政府が実施する国際平和協力は、PKOや平和構築、ODAなど多岐にわたります。各イシューにおける日本の取り組みを取り上げます。	
	政治と社会 (アメリカ)	日本と同盟関係にある超大国アメリカは、自由と民主主義を掲げる合衆国憲法を基礎に多民族・多人種の統合をめざすダイナミックな「理念の共和国」です。この巨大で複雑な隣国を理解するため、植民地時代以降の歴史、憲法の構造、政治制度、経済、地域的特性などを概観した上で、現代の政治・外交・軍事問題の主要な論点、さらに人種、銃、格差など現代社会の諸問題について講義します。外交では中東と東アジア、少数民族ではアジア系とユダヤ系、地域では情報・金融・文化の世界的中心都市ニューヨークに重点を置きます。	
	政治と社会 (中国)	中国について、経済の成長や富裕層の拡大等のイメージがあれば、格差問題や環境問題及び一党独裁等のイメージがあります。また、21世紀は中国の世紀になるだろうという議論があれば、中国はそろそろ崩壊していくだろうという見方もあります。中国には様々な「顔」があります。 「中国像」をどう捉えてよいか。この問題を問いながら、政治、経済、文化、外交、イデオロギー等の多角的な視点から、現代中国を見ます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治と社会 (ヨーロッパ)	ヨーロッパ連合（EU）の加盟国が28カ国にまで増加した現在、ヨーロッパの政治と社会を知るには、欧州統合の問題を避けることはできません。 ヨーロッパの複雑な民族・言語分布を概観したのち、欧州統合の歴史を扱います。さらにEUの仕組みを概観し、とくに冷戦終結後のEU拡大の諸問題、統合の深化の問題など、EUの実際の政策に焦点を当てながら、EUが抱える課題を論じます。多様性の中の統合という現代ヨーロッパ社会の実相を、歴史的背景に留意しながら把握できることが到達目標です。	
	政治と社会 (中東)	中東は国際紛争の焦点の地です。古代からさまざまな帝国や宗教集団、諸民族が覇を競ってきた広大かつ複雑な地域で、まんべんなく触れるのは不可能です。講義では、①イスラム教を中心としキリスト教、ユダヤ教を含む一神教の誕生と展開、基本思想、現代への影響、②日本の同盟国アメリカとイスラエル、パレスチナ、イラクとの関係、の2つを軸とします。パレスチナ紛争やイラク戦争を現地で取材した見聞や分析も紹介します。国際テロリズム、日本・EU・ロシア・国連との関係にも適宜触れ、現代の国際安全保障の諸条件についても考察します。	隔年
	政治特論A (国際移動研究)	「人の移動」に焦点をあて、国境を越える人の流れが生み出す社会的・政治的問題について考察を行います。冷戦終結以後、内戦などの紛争の激化に伴い、世界の難民は増加の一方であり、近年ではヨーロッパを揺るがすシリア難民の問題などがあります。また、よりよいライフスタイルを求めて自ら国籍国を離れる移民も増加しています。このような国際的な人の移動について、難民や移民に関する国際理論について学び、その後様々な事例を用い、理解を進めていきます。	
	政治特論B (国際ジャーナリズム論)	ニューヨーク・タイムズ紙、CNNテレビ、BBC放送、AP通信など言論の自由を掲げる米英メディアが大きな影響力を持つ国際報道の歴史と現状を概観した上で、国際社会の公共財として自由で多様であるべきメディアと、情報統制に傾く政治権力・大組織との緊張・共犯関係を講義します。中東紛争、一神教の特徴、テロリズムなど現代の国際ニュースを理解するのに有益な基礎知識を解説するほか、実務経験に基づき国際報道の実際や舞台裏も適宜紹介します。	
行政 領域	行政学	日本の中央政府による行政を理解することを、目的とします。行政、行政府の立法、行政の拡大、中央官庁の仕組み、中央官庁再編などを解説する中で、重要な用語を説明し、その用語に関係する事例を紹介します。また、各中央官庁の組織と取り組みも説明します。各回のテーマとして取り上げられたことが、新聞記事でどのように報じられているかを確認します。学習の到達目標は、中央政府による行政に関するニュースを理解できるようになることが目標です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地方自治論	地方創生が国の根幹の政策として位置づけられる中、自治体の果たす役割が今ほど求められている時はありません。また、従来はサービスを受け取る客体とされてきた住民の役割も大きく変容し、住民参加による住民自治のあり方も改めて問われています。地方自治に関する諸制度について解説するとともに、地域福祉、都市計画など地方自治をめぐる課題に対する自治体の取組事例についても紹介し、学生自らが地域の諸問題を認識し、それについて考え抜く力の修得をめざします。	隔年
	自治体行政学	日本の地方自治体による行政を理解することを目的とします。地方自治体の仕組み、条例、住民参加、都道府県間の連携、大都市制度、過疎自治体、市町村合併、地方税、地方交付税、国庫補助金、地方債、第三セクターなどを解説する中で、重要な用語を説明し、その用語に関係する事例を紹介し、各回のテーマとして取り上げられたことが、新聞記事でどのように報じられているかを確認します。学習の到達目標は、地方自治体による行政に関するニュースを理解できるようになることが目標です。	
	都市経営論	人口減少社会において、持続可能な都市経営とは何か。定住人口の減少を補うのは市外との交流人口やグローバル社会における外国人の増加、交流による新たなエネルギーの渦をいかに巻き起していくかが大きなカギとなります。また、都市のコンパクト化を推進しコアとなる地域を確保する一方で、その他の地域とのネットワーク化を図っていくことも重要となります。人口減少をネガティブに捉えるのではなく、新たな「地域行政」を展開していく好機とする都市経営について講義します。	
	地方財政論	自治体の活動を支える屋台骨が地方財政です。この地方財政が今、危機的な状況にありますが、地方創生を実現していくためには、健全な財政運営がその大前提となります。地方財政は国の財政・租税制度と密接にリンクしており、それらとの関連の中で地方財政の仕組みの基礎に触れます。また、歳出カットを中心とした行政改革などに取り組んでいる自治体の事例も紹介し、そのような改革によって私たちの暮らしや意識をどのように見直す必要があるのかについての理解を深めていくこともめざします。	隔年
	環境行政論	多くの国家で環境行政が積極的に施行されています。日本においても東日本大震災・放射能被害を契機とするエネルギー政策の見直し等にもない、環境をとりまく政治体制や行政システムは大きく変わりつつあります。 政治の環境問題解決への役割、環境行政の成立史、従来行政との相違・相克等を概説する他、近年の環境行政や施策を理解するための社会経済的背景及び基本的考え方について平易に解説します。そして、典型7公害、ゴミ問題、貴重生物の減少、自然生態系の破壊、住民移転等の地域コミュニティへの影響、地球温暖化等、多様な環境問題を認識し対策を実施するための国レベルや地方自治体の政治体制、環境行政システム、各種政策、保全計画等の過去の実績及び今後の方向性について理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	合意形成論	政策展開と合意形成ならびに市民/住民参画との関係、その歴史的経緯、そして必要性を、具体例を織り込みながら理解します。とくに、地方創生「まち・ひと・しごと創生総合戦略」立案において、ステークホルダー（利害関係者）との社会的合意形成をどのように行ったかを理解します。これらを踏まえて、プレスト、ワークショップ、ファシリテーション、プロトタイプング、ストーリーテリング、ワールドカフェといった、人々の合意形成を図るための理論・スキルを理解・獲得し、コミュニティエンゲージメントによる社会の創造を実践できるようにします。	
	地域コミュニケーション	地域の社会課題や地域資源から新しい価値を創造していくために、コミュニケーションの手段を理解します。そのなかで、コミュニケーションとしてのデザインと地域との関係を理解し、思想やスキルを修得し、状況に応じて使い分けることができる様にします。また具体的な事例を取り上げ、実際にどの様に地域に定着し、新しい価値を生み出したかを理解し、応用できるようにします。これらを総合的に活用し、地域の人々とのコミュニケーションを実践できるようにします。	
	ソーシャルイノベーション論	<p>ソーシャルイノベーションの理念、原理、価値について理解し、最先端の事例を知り、対象地域の社会課題の解決に応用できるようにします。</p> <p>地域の社会課題の解決を通して創造された集合知としてのコミュニティや社会変革の担い手としての新しい社会起業家等が社会に与えるインパクト、さらには社会的インパクト投資等、イノベーションを生み出す社会を形成する持続可能な仕組みについて理解します。</p> <p>地域の社会課題を発見し、ビジョンをもとに着想し、創造性を発揮して、その解決を図るための立案・実践がどの様に行われているかを理解します。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 木原 一郎・5 三浦 浩之／2回) (共同) ソーシャルイノベーションの理念・原理・価値と社会的起業家、ソーシャルとビジネスをつなぐ</p> <p>(5 三浦 浩之／7回) 社会課題（気候変動、地震、エネルギー、食料自給、森林、ものづくり、人口減少、高齢化、人口密度、多世帯化） ソーシャルイノベーションの最前線（子育て、女性、環境、伝統） ソーシャルイノベーションを生み出すための資金 ソーシャルイノベーションの社会的インパクト</p> <p>(7 木原 一郎／6回) 社会課題（コミュニティ、結婚・出産、育児、子ども、経済格差と雇用、外国人、犯罪、医療・介護、自殺、生活習慣病） ソーシャルイノベーションの最前線（農業、障害者） ソーシャルイノベーションの担い手（社会的起業家、学生）</p>	
	自治体行政実務	自治体職員が各部署で従事している業務について、当該職員（ゲストスピーカー）から話を聞き、基礎自治体における実務について理解することを目標にします。授業では、地方議会制度、環境対策、固定資産税、長期人口ビジョン、社会福祉、待機児童問題、商業と観光、自然災害と公共土木施設、都市整備、下水道事業、水道事業、大規模災害への対応、学校の適正配置、文化財保護と文化振興など、これらの業務の概要を講義するとともに、これらの業務に従事している職員をゲストスピーカーに招いて、その実情を理解することを目指します。	
	地域資源論	<p>世界また日本の各地域には、それぞれ天然資源（生物、鉱物、水等）、文化的資源（技術、組織、儀礼等）、人的資源（労働力等）があります。そうした地域資源を利用し、特徴的な文化的あるいは経済的な人間活動が営まれます。その結果、地域資源の固有性が、各地域の歴史、文化、産業のあり方に大きな影響を与えています。</p> <p>地域コミュニティの活性化を目的に、地域に賦存する資源を発見・再認識し、その地域資源を持続的かつ有効的に利用するための方法論や課題を学びます。</p>	
	地域政策実践論	<p>現在、ごく一部を除き、都市域であれ中山間地域であれ、人口減少に伴う新たな政策・ビジョンの確立が求められています。それは、都市域では都市間競争に打ち勝てる都市の個性を引き出せる都市づくりとマネジメント、中山間地域ではコミュニティ・集落の衰退の現状を踏まえた地域の持続と活性化のための方策です。こうした政策の内容・意味を理解し、新たな傾向・特徴の理解・分析を進め、行政や地域の人々と協働してアクションプランの立案や政策提言の立案に取り組めます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	行政特論A (ソーシャルビジネス論)	地域の社会課題を経済的価値と社会的価値を同時に実現する組織体によって解決する手法を理解し、実践できるようにします。すなわち、社会課題を解決するための、ビジネスによるソーシャルイノベーションを、様々な具体事例を参照しつつ、システム構築とデザインにより生起させる手法を修得します。	
	行政特論A (地域資源創造論)	<p>地域コミュニティの活性化を目的に、地域に存在する資源を発見・再認識し、その地域資源を持続的かつ有効的に利用していくための実践的な方法論として、地域のブランディングやシティプロモーション、地域資源の商品化とそのデザインについて学びます。地域の持つ独特の意味や価値を見つけ、これらを創造的に編集することで、他の地域には無い独自のアイデンティティやストーリーを構築する手法について、様々な事例を通じて理解・修得します。</p> <p>広島県を中心に展開された「しまのわ」のほか、「九州ちくご元気計画」、「淡路はたらくカタチ研究島」といった各地での新たなものづくりへの取組を教材としていきます。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/1回) (共同) 地域のブランディングとプロダクトデザイン</p> <p>(5 三浦 浩之/4回) 地域ブランディングステップ、地域ブランディング事例とそのインパクト(広島)、地域プロダクトデザイン事例とそのインパクト(九州ちくご元気計画)、淡路はたらくカタチ研究島)</p> <p>(7 木原 一郎/3回) 地域ブランディング事例とそのインパクト(しまのわ)、地域のブランディングを考える、地域プロダクトデザインを考える</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	行政特論B (公共空間創造論)	われわれが直面している様々な社会問題や自然災害の脅威に対処していくには、都市が多様化し、レジリエンスを獲得することが必要です。そのためには、自治体や大企業の主導ではなく、より多くの市民が直接参画し、自ら支える新たな「公共」の理念が求められています。この「公共」の理念を問い直すため、「公共空間」の有り様を考えていきます。公共空間の在り方を提示することで、新しい公共の概念を問い直していきます。それにより、「公共」としての市民・民間主導のまちづくりの構想へと発展させていきます。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/1回) (共同) 公共 (official、common、open) とは</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/1回) (共同) 公共空間のリノベーション</p> <p>(5 三浦 浩之/4回) 公園のリノベーション、水辺のリノベーション、交通結節点のリノベーション、公共空間活用のにぎわいまちづくり～官民連携まちづくりの制度</p> <p>(7 木原 一郎/3回) 学校のリノベーション、団地のリノベーション、役所のリノベーション</p> <p>(68 山川 肖美/2回) 公民館のリノベーション、図書館のリノベーション</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/2回) (共同) 広場の果たす役割を考える</p> <p>(5 三浦 浩之・7 木原 一郎/2回) (共同) 「公共」としての市民・民間主導のまちづくりの構想</p>	
	行政特論B (地域交通論A)	<p>私たちの社会活動は、ヒトやモノの移動を抜きにしては成立しません。そして、社会の発展は交通の発展に大きく依存してきたと言っても過言ではありません。しかし一方で、現在の社会の姿は複雑であり、交通が周囲に与える影響を正しく読み解くことは必ずしも容易ではありません。</p> <p>私たちが直接・間接にふれあっている交通の姿を体系的に整理し、私たちの社会と交通のかかわりを正しく理解すること、そして私たちの社会が抱える交通問題を明らかにし、その改善の方法について考えることを目的としています。</p>	
政策 領域	政策概論	<p>子ども、学校、仕事に関する日本の政策を理解することを、目的とします。児童虐待対策、いじめ対策、小学校での英語教育、赤ちゃんポストへの対応、育児休業制度、ニート対策、子育て支援策、スポーツ振興策、代理出産への対応、教員の精神疾患対策、不登校対策などを解説する中で、重要な用語を説明し、その用語に関する事例を紹介します。各回の授業のテーマとして取り上げられたことが、新聞記事でどのように報じられているかを確認します。学習の到達目標は、各政策に関するニュースを理解できるようになることです。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政策構想論	政策を構想するという事は、単に政策を立案するというだけでなく、未来をデザイン（発明）することでもあり、鋭い時代感覚と学際的な総合力と未来への構想力を必要とします。したがって、政策構想論は、政策価値の創造、市民の政策構想と密接な関係を持ちます。すなわち、さまざまな政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討し、近・未来の政治社会のあるべき姿について考察します。そのためにも、まず、政治と政策にかかわる基礎知識を提供し、次に、政策構想の具体例の分析を行います。	
	政策システム論	現代国家は時として「行政国家」と呼ばれますが、それは単に政策過程における「行政」の比重が高まったことに止まらず、行政活動の成果への国民の期待も強くなっていることに起因します。本講義では、国および自治体を通じるこの公共政策の立案、形成、実施および評価という政策過程の各段階の特質を明らかにし、さらにあるべき政策過程についての評価の視点を養うことを目標とします。講義では、政策体系と政策類型、政策の循環過程、政策立案と審議会、政策形成と意思決定、第一線職員の実施活動、中央省庁の意志決定方式、予算編成過程、会計検査と行政評価、行政活動と能率について、順次取り上げて概説します。	
	公共政策論	住民が豊かさを実感できる暮らしの実現には、公共政策の成否がその明暗を分けます。具体的なケーススタディを用いて、現状分析や課題抽出、そして政策の立案作業を学生とともにを行う中で、公共政策への関心を引き出します。また、政策の見える化、政策評価、PDCAサイクルの重要性についても触れるとともに、従来の総花主義的な政策ではなく、限られたパイの中での政策の「選択と集中」、そしてそのパイを出来るだけ大きくしていく「成長と分配」をキーワードにした政策への転換の必要性について講義します。	
	地域産業政策論	わが国の地方都市では工場閉鎖、若者の流出が続く、社会保障関係費の増加が財政を圧迫します。若く、優秀な人材を確保しながら、将来的に有望な産業を振興することが火急の課題です。優れた産業成果を実現する国内外の都市（シリコンバレー、ヘルシンキ、京都や浜松）でのその要因を精査し、それをわが国の都市に広く取り込む政策（大学設置、創造的事業文化の形成や生活環境整備）の有効性を検討します。現在の地域産業政策の柱と言える企業誘致策の限界にも触れます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会政策論	人間が安定的に生活を営んでいくための主たる制度的・政策的仕組みである労働・雇用と社会保障を取り上げます。なお、社会保障については、年金保険、雇用保険、公的扶助といった所得補償政策が中心となります。 こうしたいわゆる「セーフティネット」に関する知識を身につけ、我が国の社会保障や労働のあるべき姿について自分なりの見解を持ってもらうこと、少なくともその素地を形成することを目的とします。	
	都市・地域戦略論	今、わが国の都市・地域は人口減少、超高齢化、少子化、地球温暖化と気候変動、地方分権、都市・地域間の連携と競争等、新たな課題を突きつけられています。この課題に応える、都市・地域を持続的とするために、地方創生のための総合戦略や大都市戦略等様々な戦略が打ち立てられています。そこで、これらについて理解し、都市・地域が国際的な競争力を持ち、魅力、持続性を高めるための戦略の提案ができるようにします。	
	地域デザイン論	多様な価値観や社会的な要因によって複雑化する地域の社会課題を解決し、持続可能な社会を創造していくため、これまでのコミュニティのあり様や現代のコミュニティの成り立ちの仕組み、行政の関わり等を理解します。そして、地域にイノベーションを起こすための人々や組織間の関係性のリ・デザイン、コミュニティにおけるプロジェクトやのデザインの手法を修得し、対象地域の固有の意思決定のプロセス等を考慮し、新たなコミュニティをデザインできるようにします。	
	政策特論A (雇用の法と政策)	雇用をめぐる法と政策についての基本知識を修得し、それを基にして現在の雇用に関する諸問題の状況とその解決に向けた方策を考えることができるようになることを目的としています。雇用問題は19世紀以降、多数の労働者が工場などに雇用されることにより、社会政策の一部として研究されてきた歴史があります。また、国民の大多数が雇用されている労働者とその家族である現在、国と地方自治体の重要施策の一つにもなっています。新聞・テレビで日々報道されている雇用に関する諸問題を理解し、考察することができるようになることが目標です。	
	政策特論B (労働政策論)	戦後日本、とりわけ現代の雇用・労働をめぐる様々な問題と、それに関連する諸政策について講義します。具体的なトピックとして、〈長時間労働とワーク・ライフ・バランス〉〈女性労働（あるいはジェンダーと労働）〉〈非正規雇用〉〈日本型雇用慣行の変容〉〈労働人口減少〉〈「就活」と若年労働市場〉〈ブラック企業〉などの諸問題と、関連する諸政策を取り上げます。 日本の労働社会の姿と、それを生起させた／規定してきた諸政策を理解し、自身の「働き方」について考えてもらうための一助となることが、目標です。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
法律 領域	法律学概論	<p>法律学といってもさまざまな法律があります。憲法、民法、刑法といった知名度の高い法律や法分野もあれば、行政法、会社法、労働法といった身近ではありますがなじみの薄い法律や法分野もあります。</p> <p>また、法律学と隣接領域（歴史学、社会学、思想史など）と結びついた分野や、一国の領域を超えた国際的な法現象を扱う分野もあります。</p> <p>こうしたさまざまな法律や法分野の姿をできるだけ簡明にその特徴を浮き彫りにできるようにしていきます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(67 矢野 達雄／3回) 法学基礎を内容とし、法学入門、裁判規範と法、法体系、法の継受、法の分類、法解釈学などを講じます。</p> <p>(31 鈴木 正彦／4回) 民事法分野を内容とし、民法の基本、契約、当事者、法律行為、商法、会社法などを講じます。</p> <p>(90 山崎 俊恵／3回) 刑事法分野を内容とし、刑法の基礎、犯罪と刑罰、刑事手続き、裁判員制度などを講じます。</p> <p>(62 村上 博／5回) 行政法分野を内容とし、法治主義、行政作用、行政事件訴訟、行政組織、公務員、地方自治などを講じます。</p>	オムニバス方式
	憲法原論	<p>平和主義・国民主権・基本的人権の尊重という日本国憲法の基本原則の歴史的背景及びその置かれている現状の検討を通して、日本国憲法の全体像を明らかにすることを狙いとしています。まず、日本国憲法がどのように制定されたか、すなわち、日本国憲法の原点を学び、続いて基本原理に関して学説・主要判例を整理します。また、新聞記事などを素材として最新の憲法問題も積極的に取り上げる予定です。</p>	
	行政法	<p>行政法が民法や刑法などの科目と異なる点は、行政法という名前の法律が存在しないことです。しかし行政法は、現行法律の大半を占めており、私たちの日常生活と密接に関連する法分野です。そのため、「犬も歩けば棒に当たる。君も歩けば、行政法に当たる」(阿部泰隆)とか「六法のかなめ(要)を占める行政法」(高木光)とされています。そこで、行政法の全体像の概略を説明します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地方自治法	昨今の地方自治法の改正や地方分権論議を踏まえて、地方自治法制度の概略を説明します。具体的には「地方自治の本旨」を扱う「憲法と地方自治」、「地方自治制度改革論」、「自治体と地方自治を支える公共的団体・民間組織」、住民の直接請求権などの「住民の自治権」、首長、議会を扱う「自治体の自治組織権」、条例制定権を扱う「自治体の自治立法権」、「自治体の自治財政権」、「自治体労働者の法的地位」、地方公共団体に対する国の行政的関与を扱う「国と自治体との関係論」です。	
	地域の環境法	環境と法について考える素材として、瀬戸内海を取り上げて、瀬戸内海という「地域」から、環境法について学ぶことで、人と自然の共生のあるべき姿を、受講生のみなさんとともに構想してみたいと思っています。併せて、瀬戸内海という「地域」から環境(法)を学ぶとともに、オーストラリアの自然環境政策を勉強して、南半球にあるオーストラリアの環境法の視点から、瀬戸内海という地域を見ていきます。 環境法の勉強を通して、問題発見と分析そして問題解決方法の提示ができる能力を身に付けることを目的としています。	
	国際法	国際法は、主として国家・国際組織間の関係を規律する法と言われますが、外交関係、海洋、宇宙、国際経済、および武力紛争など多様な領域を規律しています。講義形式を中心として、それらの領域に関する基本的な制度および理論を概観するとともに、それらの領域に共通する総論的な事項、すなわち、国際法の存在形式(法源)、条約の解釈、国家責任などの理解をめざします。 国際社会における国家・国際組織などの活動や関係を規律する法の全体像を把握し、その理念や特徴を理解することが目標です。	
	民法 I	民法とくに財産法(総則、債権法総論)の内容について概観します。民法は、市民社会における市民相互間の財産関係および家族関係について規律する法律です。民法の基本理念(自由、平等、個人の尊重、私的自治の原則等)と基本原則(人格平等原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則)は、社会における人と人、および人と物のあり方にかかわる最も重要な指針の一部を示しています。民法・財産法に関する基本的な理解の獲得により、日常生活に関わる民法・財産法上の具体的課題について、民法上の規定と関連づけて理解できるようになることを目標とします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	民法Ⅱ	民法とくに財産法（物権法、債権法各論）の内容について概観します。経済関係の基本は、所有と契約です。各人は、それぞれ物と金を持ち（所有）、このことを前提として、各人はそれぞれの物や金を交換します（契約）。物権法は前者の所有を規律する法律、債権法各論は後者の契約を規律する法律です。この講義では、物権法・債権法各論の重要な内容を把握して、経済関係のしくみについて理解すること、民法が内包する基本的な考え方を理解すること、身の回りのことを民法の問題として分析する習慣を身につけることを目標とします。	
	行政法総論	行政法総論の内容は、多くの行政法規を整序し、学説・判例などを踏まえて体系化されたものです。主に、「行政法の基本原則」の中の「法律の留保論と法律の授権論」、「行政作用法」の中の「行政の行為形式」、具体的には「行政計画」、行政行為の効力を中心とする「行政行為」、行政手続法上の「行政指導」、「行政契約」、「行政調査」、行政上の強制執行制度などの「行政の実効性を確保する制度」、「個人情報保護・情報公開」を取り上げ、その基本的な考え方を学びます。	
	労働法	労働法は民法の特別法として20世紀に整備されてきた法領域で、使用者と労働者の関係を契約関係としてとらえます。実際には契約締結における弱者である労働者を保護するために、労働条件について法による基準を定め、使用者に遵守させます。労働組合の結成と活動を認め、労働条件に関する使用者との団体交渉、ときには争議行為も認めています。こうした労働法のポイントとなる項目について、概観から、より深く、より広く、他の項目との関係にも留意しながら説明し、労働法に関する全体的な理解をめざします。	
	社会福祉法	社会福祉の法概念、法的人間像、要保障事故などについて学び、社会福祉諸法の構造理解を目指します。講義は、法理・構造と制度の概要のうち、前者に多くの時間を割く予定です。授業は、社会福祉法制の対象、歴史、障害者福祉と障害者総合支援法、身体障害者福祉の法、知的障害者福祉の法、精神障害者の法、児童福祉の法、高齢者福祉の法、介護保険法、公的扶助の法（生活保護法）、社会福祉の行財政、社会福祉の課題と展望の順に取り上げていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法律特論A (裁判と法)	裁判や司法に関するニュース報道のほか、法律に関する関心を前提としたテレビ番組もあります。もめごと(紛争)のすべてが法律で解決されるわけではなく、また、法律による解決がいつでも求められとはかぎりませんが、裁判は、紛争を法的に解決する制度として存在し、機能しています。この授業では、裁判とは何か、裁判は誰がどのようにかかわっているか、裁判にはどのような種類があるかについて、「裁判員制度」、「法テラス」、「ADR」も取り上げながら、考えていきます。裁判という紛争の法的解決手段について関心を持ち、理解するための学習へのきっかけになることをめざします。	
	法律特論B (行政組織法)	行政組織法は、国・公共団体などの組織に関する法で、行政機関の権限や事務、行政機関の関係などを規律しています。行政組織に関する法律や判例などを参照しつつ、行政組織の基本原則、具体的には、2つの行政機関概念の関係を考える「行政体と行政機関」、行政機関の権限の代行などを考える「行政機関相互の関係」、「公務員法」について概説します。なお、行政組織法のほか、国家補償法(国家賠償、損失補償)についても概説します。	
学 科 連 携 科 目	Hiroshima Studies	広島に暮らす大学生として、「広島・ひろしま・ヒロシマ」の魅力や特色を英語で語り世界に発信していくための知識、技能を修得するための学習と訓練を行います。国際平和都市としての意義を考えつつ、広島県内にある二つの世界遺産の一つである「原爆ドーム」をはじめとして平和記念公園内にある碑、供養塔や資料館に関する知識を身につけるとともに、その知識を土台として海外からの訪問者を実際に英語で案内するための演習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Japan Studies	<p>(英文) This course aims to help Japanese students re-discover, investigate and explain aspects of their “hidden” culture for the main purpose of becoming more proficient at responding clearly and intelligibly to FAQs posed by people from other cultures. The course deals with selected topics in the form of “Why and How Questions” ranging from those directly associated with daily living to those linked to more complex socio-cultural issues. Core content knowledge is introduced through interactive lectures, audiovisuals and readings, while students are guided through a process of further inquiry in small groups to build and deliver dialogue-style explanations bilingually.</p> <p>(和訳) 異なる文化的背景を持った人たちが抱く日本文化についてのFAQに対して、日本人学生が自信を持って明確に答えられるよう、自らの文化の「見えにくい側面」を再発見、探究し、説明できるようになることをめざします。「なぜ?どのように?」という疑問を中心に、日本の日常生活からより複雑な社会・文化的な課題にまで多岐にわたるテーマを扱います。双方向講義、映像教材、文献を通して学んだ知識をもとに考え、少人数グループで協同し、最終的には日英語による「対話形式」の発表に仕上げます。</p>	
	国際政治経済	<p>今日切っても切れない関係である政治と経済の組み合わせから国際関係を考察していきます。まず国際政治経済の理論研究を行った後、当該分野の様々な問題・事例について検討を行います。具体的な事例を考察することを通じ、ものすごいスピードで政治と経済の相互作用が深化し続けるグローバル社会を理解することを目的とし、同時にそこから生じる新しい事象（ナショナリズムの高まりなど）の検討を行います。</p>	
	国際開発論	<p>「しあわせとはなにか」をテーマに、歴史的経緯を踏まえつつ、国際関係における国際開発の概要と課題を学びます。また、国際開発を実施する上で密接に関連する国際協力のあり方に焦点を当てます。国際開発論を実際の社会の動きと照らし合わせつつ学ぶことも本授業の重要な目的のひとつです。そのため、新聞をはじめとしたニュースリソースや視聴覚教材を用います。</p>	
	民族と社会	<p>文化人類学、歴史学の考え方にもとづき、民族とは何か、国民国家とは何かについて解説します。そのうえで、世界各国の先住民族問題を取り上げ、オーストラリアのアボリジニ、カナダのカナダインディアン、日本のアイヌなどの先住民族の具体的な事例にもとづき、先住民族の権利、先住民族に対する同化政策、先住民族と環境問題など、先住民族をめぐる政治問題について考察します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文明論研究	<p>文明とは何か？ 史上、多くの文明が存在しましたが、滅亡または連続性が断ち切られたものが多いです。諸文明の中で力強く伸びて、世界に支配的な地位を築き上げたのは西洋文明のみです。</p> <p>しかし、近年、欧米では時々経済の不況や金融危機に陥ったりします。資本主義を経済システムとして世界を席卷した西洋文明がもう終焉になるのではないかとの議論もあります。</p> <p>一方、優れた文明を有した中国は、近代以後に衰退しましたが、近年、経済の成長による「中国の台頭」が見られます。中国文明は再起できるのでしょうか。</p> <p>また、異なる文明が衝突する、または共存し得るといふ議論も注目されています。</p> <p>西洋文明、中国文明、日本文明等を解説しながら文明の問題を考えます。</p>	隔年
	社会調査論	<p>社会調査の方法の基礎を学びます。まず、社会調査の課題の設定について検討します。次いで、変数、測定尺度について理解します。概論的な内容となりますが、テキストの内容の理解を通して、実際に調査を行う場合にも役立つ知識を修得していきます。調査票の設計、標本調査の考え方と標本抽出の方法、調査データの整理から結果の報告へ、と進みます。社会調査において看過できないのは、その倫理をめぐる視座です。個人情報の取り扱い、インフォームド・コンセントなど、随時、社会調査と倫理についても言及します。</p>	
	現代経済入門	<p>現代社会の経済面を理解するために、家計・企業といった個別意思決定主体の行動の相互作用現象をとらえる市場メカニズムの分析（ミクロ経済学）と国民経済を枠組みとして「失業」・「インフレ」といった社会全体の経済現象を分析する国民経済の動向（マクロ経済）に関する標準的な考え方を概観します。また、国民経済が20世紀を通じてより強まってきた国外とのつながりについて、歴史や制度を含めて経済学の立場（国際経済学）から考えます。</p>	
	地域経済論	<p>経済のグローバル化や地方分権などが叫ばれるなか、地域におけるさまざまな主体の活動に注目が集まる一方で、地域を取り巻く環境は日々変化し、少子化・高齢化や産業の空洞化、地方財政の逼迫など、多くの課題も抱えています。</p> <p>地域の人口規模や産業構造に関する統計・資料を用いて地域の特性をつかんだり、地域間の比較を行ったりしながら、地域の抱える問題への対応について考えます。</p> <p>また、都市形成や産業立地のメカニズムなど地域経済に関する理論・モデルも学びながら、地域の発展と人口・産業との関係やその重要性について考えます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	マクロ経済学	マクロ経済現象を見る眼を養うことを目的として、標準的なマクロ経済学の理論と政策を解説します。国民所得統計、新聞の経済記事、基本的な数学的手法の解説や演習問題も導入します。	
	特別講義A (マスコミ文章講座)	書き手の思いが読み手に伝わる文章を書く力を伸ばすことをねらいにした科目です。講義は、座学と実作を組み合わせで進みます。伝わる文章の要件を分析・確認し、具体的なテーマを設定して履修生自身が文章を作成します。そして、作成した文章の検証を行います。これらの取り組みを通じて、読み手を意識した、伝わる文章を作成できるようになることをめざします。この科目は、マスコミ・メディア志望の学生の履修に適しています。	
	特別講義B (リサーチリテラシー)	卒業研究やゼミ論文の作成に必要な、研究に関する基礎的なスキルの修得を目的とします。研究論文とは、エッセイや感想文などとは異なり、問いを立て、証拠を挙げながら論証していくものです。また、論文を書く際には、注の活用や引用など、研究論文に特有のルールや技法を活用する必要もあります。そこで本講義では社会科学領域における研究論文の作成に焦点をあて、問いの設定、情報収集、文章作成のルールを取り上げます。	
演習 科目	基礎演習	現状を把握するためのデータや文献・類似地域の事例に関する事前調査を行い、対象都市域の特性を理解し、着目するテーマを定めることができるようにします。データ分析では、RESASを活用します。これは、まち・ひと・しごと創生本部で、地方自治体による様々な取り組みを情報面・データ面から支援するため供用を開始した、地域経済分析システムです。RESASは産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し、可視化するシステムであるため、地方自治体では、これを活用して、データに基づく政策・施策の検討・立案が行われています。現地実習では、現代の街並みのなかに残る歴史の痕跡、商店街やコミュニティの運営や意思決定プロセス、行政と住民の情報共有、来街者の対象都市域に関する意識等を把握し、地域の現状・実態・構造を理解できるようにします。これらを踏まえて、対象都市域のビジョンやアクションプランの立案、地方自治体の政策の分析、自らの活動計画の立案ができるようにします。	
	ゼミナールa	3・4年次生のための少人数クラスで行われる授業です。履修生自身がテーマを設定し、調査・発表し、相互に議論するという、能動的な学びが実践される科目です。複数のゼミナールが開講されるため、履修生は個々の関心に応じて、地域政策学領域のより専門的な学びを実践することができます。継続性の観点から、原則としてゼミナールaとゼミナールbは同一担当者の演習をセットで履修することが求められます。また、学びをより深めるために、3年次、4年次と継続しての履修が推奨されます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナールb	3・4年次生のための少人数クラスで行われる授業です。履修生自身がテーマを設定し、調査・発表し、相互に議論するという、能動的な学びが実践される科目です。複数のゼミナールが開講されるため、履修生は個々の関心に応じて、地域政策学領域のより専門的な学びを実践することができます。継続性の観点から、原則としてゼミナールaとゼミナールbは同一担当者の演習をセットで履修することが求められます。また、学びをより深めるために、3年次、4年次と継続しての履修が推奨されます。	
	卒業研究	4年次生のための成果評価科目です。地域行政学科における学びの集大成として、履修者は地域政策学に関係する論文等、個別の関心に沿って卒業研究作品を仕上げます。履修者は、ゼミナールbあるいはイノベーションプロジェクトBに所属し、担当教員からの指導を受けることが求められます。	
キ ャ リ ア ・ 実 習 科 目	キャリアデザイン	キャリアデザインとは、自分らしい生き方、働き方を考えていく理論と方法です。これまで以上に不確実で予測困難な時代の中で、「個人」と「組織」の関係性も従属的依存する関係から自律的協働関係へと大きくシフトしています。「働く」ということが自分自身の能力や興味、価値観を表現する機会であるならば、自分らしさを可視化し、自律的キャリアを形成しデザインしていくことは、“人生”というまだ見ぬ未開の地を進んでいく為に、必ず役に立つ未来地図や羅針盤を創ることであります。 それらを各種ワークを通して、体系的に見える化することで、アイデンティティ・キャピタル（自分自身の価値）を参加者同士で高め合い、学びを深めていきます。	
	インターンシップA	この科目は、地域行政学科の学びに関連する仕事（地域の持続化や活性化など）とはどういうものか、そもそも働くとはどういうことか、を考える機会として、就業体験をおこなうことを目的とします。実習に先立って、マナー講座を含めた数回の事前学習がおこなわれ、現場での実習ののちは、就業体験から得た気づきをまとめる事後学習が予定されます。実習期間は1～2週間を予定しています。	
	インターンシップB	この科目は、地域行政学科の学びに関連する仕事（地域の持続化や活性化など）とはどういうものか、そもそも働くとはどういうことか、を考える機会として、就業体験をおこなうことを目的とします。実習に先立って、マナー講座を含めた数回の事前学習がおこなわれ、現場での実習ののちは、就業体験から得た気づきをまとめる事後学習が予定されます。実習期間は4週間程度を予定しています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	長期インターンシ ップA	長期インターンシップAは、4週間程度を実習期間とするもので、通常のインターンシップが職場体験や就業体験を主とするのに対して、従業員と同様の勤務を上記期間にわたり実施し、より具体的かつ実践的に長期インターンシップ受入先における就業を経験するものです。	
	長期インターンシ ップB	長期インターンシップBは、8週間程度を実習期間とするもので、通常のインターンシップが職場体験や就業体験を主とするのに対して、従業員と同様の勤務を上記期間にわたり実施し、より具体的かつ実践的に長期インターンシップ受入先における就業を経験するものです。	
	長期インターンシ ップ事前・事後指導	長期インターンシップ事前・事後指導は、インターンシップが長期にわたることを前提とし、学年による異なる成果に対応できるように準備し、また、終了後の学修へのサポートを意図するものです。	
	地域プロジェクトA	学生たちがチームを組み、世界的な視点から地域社会で必要となる課題解決のプロジェクトや地域社会から提示される具体的な課題解決のプロジェクトに、在学中に学んだ様々な知識や分析力を駆使して取り組むものです。課題解決のための手法・工程を学生自ら立案し、地域の人々とともに実行していきます。とくに具体的な課題に関して、調査対象を選定し、調査方法を計画し、その調査結果の分析内容を地域の人々と共有できるようにします。その各段階に必要な「場」の設定や実行するための体制作りに関しても自ら立案し、地域の方々や地方自治体と協働し、実践できるようにします。	共同
	地域プロジェクトB	学生たちがチームを組み、世界的な視点から地域社会で必要となる課題解決のプロジェクトや地域社会から提示される具体的な課題解決のプロジェクトに、在学中に学んだ様々な知識や分析力を駆使して取り組むものです。課題解決のための手法・工程を学生自ら立案し、地域の人々とともに実行していきます。とくに学生が社会奉仕活動を地域の人々や地方自治体の方々や協働することによって、新たな観点からの気づきや学びを得るようにします。また、プロジェクトの成果は、地域コミュニティの再構築や政策展開に生かしていきます。	共同
	グローバル・プロ ジェクト入門	海外での先進的・革新的まちづくりに関する調査において、現地調査時の学びや気づきを増やせるようにします。そのために、調査を行う都市・地域を仮定し、規模・気候・都市構造(インフラ)・基幹産業等の基礎知識や歴史等の背景を調査し理解します。またその調査結果を学生自身が所縁のある都市と比較することによって、感覚的にも理解し、比較のなかでデータの分析をすることができるようになります。現地調査時にロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得するために、実際に現地に行く意義や調査のテーマ設定・事前準備の方法を理解します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル・プロジェクトA	<p>才能が集まり賢く成長する街として全米でもっとも住みたい都市となっているPortland（アメリカ）を取り上げ、PSU（Portland State University）と連携して、フィールドワークとレクチャーを組み合わせたプログラムを通して、ロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得し、広島でも応用できるようにします。</p> <p>特にPortlandの社会的状況、都市形成の過程、社会課題の検証方法・解決プロセス、PortlandにおけるPSUの果たす役割を理解し、広島における活動地域において応用可能な事例の選択や事例応用のプロセスを立案できるようにします。</p>	
	グローバル・プロジェクトB	<p>才能が集まり賢く成長する街として全米でもっとも住みたい都市となっているPortland（アメリカ）を取り上げ、PSU（Portland State University）と連携して、フィールドワークとレクチャーを組み合わせたプログラムを通して、ロールモデルやイノベーションを起こす思想を修得し、広島でも応用できるようにします。</p> <p>また広島での革新的なまちづくり実践の事例を紹介することやPortlandの社会課題に対して課題解決方法を立案するワークショップ等を行うことによって、広島での知見を現地に提供できるようにし、対話し知見を掛け合わせることで双方にとって新たな知見を修得できるようにします。</p>	
学部 関連 科目	日本史概論 I	<p>日本の古代～近世における歴史的な諸特質について概説します。</p> <p>各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。</p> <p>そのため、歴史におけるある時点の「常識」（たとえば教科書の記述などがそれにあたります）が、歴史研究の進展などによって非（否）「常識」へと変化したケースも多々あるのです。</p> <p>そのような歴史研究の成果をふまえつつ、本講義では古代から近世の日本社会の特色を多面的に考察し、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本史概論Ⅱ	<p>日本近代史を中心にその近代化のあり方について概説します。（授業の展開上、導入的に日本近世史の内容も一部含みます。）</p> <p>日本近代史の諸特質は、今まさにわれわれが存在する現代社会との「連続性と非連続性」をもっているといわれます。また、各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。そのため、歴史におけるある時点の「常識」（たとえば教科書の記述などがそれにあたります）が、歴史研究の進展などによって非（否）「常識」へと変化したケースも多々あるのです。そのような歴史研究の成果をふまえ、「近代化」をめざした日本が歩んだ道を考察し、それが世界の歴史においていかなる意味をもったのかという視点も加えつつ、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。</p>	
	東洋史概論Ⅰ	<p>社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生を対象とするとともに、アジアの各地域の国家と社会に興味がある学生も対象とします。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（155 津坂 貢政／10回）</p> <p>我々は中国に対して極めて皮相的で画一的なイメージを先行させがちです。広大な「中国」は、多くの民族、複雑な環境、多様な文化を内包しており、そこには我々を引きつけてやまない魅力と、日本との関わりをはじめ、様々なことを考えさせてくれるきっかけがあります。</p> <p>紀元前2000年ごろから現代に至るまで、中国がたどってきた履歴を通史的にながめ、今日の中国がどのような歴史的土壌の上に成立した国であるかを考えます。概説にありがちな、文字資料からの知見をもとにした平板な叙述にならないために、この科目では、各地に保存されている文物や考古学調査によって新たに発掘されたモノ資料も積極的に利用しながら、各時代の特色をより具体的に把握することに努めます。</p> <p>（13 宇野 伸浩／5回）</p> <p>アジアを構成する地域の中で、中国以外に世界史上大きな影響を与えた地域は、イスラム世界と中央ユーラシア世界です。イスラム史として、ムハンマドのイスラム教創始、近世のオスマン朝・サファビー朝・ムガル朝の鼎立をとりあげます。一方、中央ユーラシア世界の遊牧民は、歴史上、国家形成、都市地域・文明地域の支配を繰り返してきました。その事例として、匈奴と突厥、遼、モンゴル帝国をとりあげます。東アジアと西アジアを視野に入れたマクロな視点からユーラシアの歴史を把握することに努めます。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	東洋史概論Ⅱ	<p>社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生のためのものです。ただしそれ以外にも、東アジア世界への関心などから、中国という国の歩みに興味があるという学生も対象です。</p> <p>「東洋史概論Ⅰ」を基礎編とすると、その発展編にあたります。ただし「概論Ⅰ」の内容も振り返りながら授業を進めることにします。</p> <p>「概論Ⅰ」では中国史を通史として概観しますが、本授業では中国史を彩るいくつかの特徴的なトピックを取り上げて、少し細かくそれらの歴史をたどってみます。時に応じて、中国の文化と日本の文化などを比較検討するなどして、それぞれの文化の共通性や独自性にも着目してみたいと思います。</p>	
	西洋史概論Ⅰ	<p>先史時代から現代に至る西洋の歴史を概観します。重要な事柄について時代を追って見ていきますが、その時々社会のあり方、人びとの考え方といったことにも触れてみたいです。西洋史を理解する鍵となるキリスト教については、特に詳しく論じます。</p>	
	西洋史概論Ⅱ	<p>前近代を中心に、ヨーロッパの人たちがどのように生きていたか、詳しく見ていきます。時系列に沿って進めるのではなく、各回一つのテーマを取り上げ、様々な角度から検討を試みます。</p>	
	人文地理学Ⅰ	<p>地理学は最も古い学問の一つでもあり、新しい学問でもあります。</p> <p>人文地理学は地球表面上において展開する人間活動の諸現象を地域的に空間的に理解する学問であり、研究対象は産業や人間生活など多様です。</p> <p>日本や諸外国における文化現象を捉え、その背景やメカニズムについて学習することによって、地域的背景を基礎とした文化について人文主義地理学や社会地理学などの近年の地理学の新しい動向から考えることを目的とします。</p> <p>授業内容には、教員免許取得との関連から、高等学校地歴科地理や中学校社会科の教員になるための必要知識を修得するための基礎的内容を含みます。</p>	
	人文地理学Ⅱ	<p>都市構造(インナーシティや郊外地域)の変化や人々の生活行動に着目して、都市社会地理学の概説を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然地理学	<p>人間生活の土台といえる、日本各地で一般的に認められる山地・平野・変動地形などの地形の成り立ちと、そこに住む人々の特徴的な暮らしについて解説します。特に、地形と人々の暮らしの関係は、現代社会においては「自然災害」として「負」の側面が強調されがちですが、本講義では、両者の関係の「正」の面といえる、地形を活かした暮らしを取り上げ、物事の多面的な見方・考え方を教示します。</p> <p>地図作業を積極的に取り入れることで、専門的な用語による理解にとどまらない、地形に関するイメージの知識の理解や、地形図から地形を認識できる能力を修得することをめざします。</p>	
	地誌 I	<p>「世界地誌」はアネクメーネ（永続的居住困難地域）である南極大陸以外の、人間活動が大いに展開しているエクメーネの大陸別地誌について主に扱います。すなわち、(1)アフリカ、(2)アジア、(3)ヨーロッパ、(4)北ユーラシア、(5)北アメリカ、(6)南アメリカ、(7)オセアニアの順に、それぞれ、位置と自然（地形、気候等）、産業（農林水産業、鉱工業）、人口と集落（村落、都市）、（大陸内の）地域区分とその特性、日本との関係の5項目について基本的にみていきます。各大陸の主要観点は次の通りです。</p> <p>(1)アフリカ…熱帯大陸、高原大陸としての特徴。貧困問題。</p> <p>(2)アジア…数多くの大山系、モンスーンアジアと乾燥アジア。巨大人口の存在。</p> <p>(3)ヨーロッパ…高緯度地域にあるが、稠密な人口密度と都市網。</p> <p>(4)北ユーラシア…寒冷半乾燥地域が広大で人口希薄。豊富な地下資源。</p> <p>(5)北アメリカ…高度に進展した農業、工業、都市化。</p> <p>(6)南アメリカ…熱帯大陸。モノカルチャー（単一生産）問題。</p> <p>(7)オセアニア…乾燥大陸。企業的穀作、牧畜と地下資源。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地誌Ⅱ	<p>「日本地誌」は日本全体の特徴（自然環境と人文環境）について深くふれたのち、7つの地方ブロック毎、すなわち九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の順に、それぞれの地域的特色について扱っていきます。この場合、各地方別地誌の基本的項目は、位置と歴史的背景、自然的基礎、人口、村落と都市、第1次産業、第2次産業、交通・観光、（地方ブロック内部の）地域性と地域区分、の各項目です。</p> <p>以下、それぞれの地方別地誌についての主要な視点・留意点について挙げておきます。</p> <p>(1)九州・・・（九州本島の）北高南低、西高東低型の人口・工業・都市の分布。亜熱帯気候の沖縄の特色。</p> <p>(2)中国・四国・・・近畿と九州の回廊的性格。瀬戸内、山陰と南四国。</p> <p>(3)近畿・・・西日本の中核的地域。大阪大都市圏。</p> <p>(4)中部・・・日本アルプス。日本海側、内陸部、太平洋側。関東と近畿の中間にある位置的有利性。</p> <p>(5)関東・・・日本の中心。東京大都市圏。</p> <p>(6)東北・・・日本海側と太平洋側の違い。米の単作地帯。</p> <p>(7)北海道・・・日本の高緯度地域。冷涼な気候と広大な人口密度希薄地域。</p>	
	哲学概論Ⅰ	岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書、2003年）を精読することで、西洋哲学の大きな流れを学びます。	
	哲学概論Ⅱ	哲学思想の総論的理解を踏まえたうえで、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方などの現代的諸課題の哲学的分析を通じて、哲学的なものの見方・考え方を養うとともに、「哲学」という視点から現代社会を見直すことの重要性を理解し、解決に向けての方途を模索します。	
	倫理学概論Ⅰ	西洋倫理学の基本的事項について見ます。西洋の倫理学説は、大きく見て、「義務倫理学」の立場か「価値倫理学」の立場をとります。両者の相違についてまず見、それに当てはめながら代表的な倫理学説について検討します。	
	倫理学概論Ⅱ	私たちは日常生活を営む中で、様々な困難に直面します。そのとき私たちは生きていく上で考えずにはいられない「問い」と出会います。日常生活の身近な問題を取り上げ、その「問い」について倫理学の代表的な考え方をもとに考えていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格課程に関する科目	教職に関する科目		
	教職入門 (中等)	教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する学習を通して、自分が本当に教師という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを考える機会を提供します。自分の描いてきた教師像、子ども像、学校という場を現実のそれらと比較して、これからの教育に関する研究の視点を再構築します。	
	教育心理学 (中等)	中等教育学校現場で有用な実践力の基礎を学びます。「教育心理学(中等)」では、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとし、さらに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力を養うことをめざします。 (1)教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、中等教育学校現場での今日的課題について考えます。 (2)中等教育学校現場で求められる「実践力」とは何かについて心理学的見地から考えます。 (3)「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。	
	教育原理 (中等)	教育問題が話題に上らない日はありません。しかし、それらはともすればセンセーショナルに語られ、一過性のことがらとして忘れさられ、また新たな教育問題がとりあげられているということが繰り返されています。 この授業では、(1)そうした一時的な関心から踏みこむこと、そして、(2)傍観者としてではなく当事者として関わるための意識をどうやって育むかについて、教育学の基礎的な知見と対照させながら講義を進めていきます。	
	教育制度論 (中等)	現代の公教育を支える法的構造に基づいて教育制度を理解した上で今日の制度改革を検証します。また、学校での教育課程編成のあり方を、学習指導要領に示された国の基準や教育委員会の示す地方の基準を踏まえながら明らかにし、その今日的な課題を新学習指導要領の研究を通して把握します。	
中等社会科教育法A	中学・高校時代の経験から、社会科、特に地理・歴史分野については、暗記するだけの教科とのイメージが強いでしょう。しかし、社会科とは、本当にそういう教科でしょうか。 そこでまず、そもそも社会科とは何か、なぜ学校で社会科が教えられるのか、という根本的な部分から社会科について考えてみたいと思います。そして次に、地理・歴史分野について、社会科の授業をつくりあげていくためのいろいろな考え方を学んで、各自なりの「社会科観」を育てるようにします。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科・地理歴史科 教育法A	<p>これまで行われてきた社会科の枠組みにおいて高校地理歴史科も行われるべきだという基本認識に立って、高校地理教育、日本史教育、世界史教育の目的、カリキュラム、授業構成の講義を通して、地理歴史科教師に必要な教授能力を育成します。</p> <p>そのために、教育原理や授業原理に基づいて地理教育、歴史教育の目標、カリキュラムに関する類型化を施すとともに、その類型化にしたがって実際の地理授業や歴史授業を視聴したり指導案を分析したり作成したりします。</p>	
	社会科・公民科教育 法A	<p>公民分野に必要な教授能力を育成するために、教材研究、授業分析及び授業構成に関する個々人の研究・指導力を培います。とりわけ、教授実践に重点化するために、特定単元の教材研究、授業分析、授業構成を各人が追求し、よりよい公民授業を創造することをめざします。</p> <p>この目的のために、公民科を社会的教科と捉え、公民科の目標、カリキュラム、教材研究、教科書研究、授業分析について講義し、公民授業についての見方を提示します。それとともに、公民授業を演習形式で各自作成します。</p>	
	中等社会科教育法演 習A	<p>授業づくりを学びます。実際に学校で授業を行う際に必要となる教材研究、学習指導案作成、発問・板書の方法、などの教育技術を身に付けます。そして、自分で作成した学習指導案をもとに、実際に交代で模擬授業を行い、よりよいものに修正していきます。</p>	
	中等道徳教育論	<p>道徳とはいったい何なのでしょう。そもそも、道徳を教えるなどということは可能なのでしょうか。こうした問いへの答を、倫理学、心理学、社会学、教育学などの知見に沿いながら、道徳教育についてのさまざまな考え方、教育現場において生起する諸問題、あるいは道徳教育の歴史といった諸側面からアプローチし、考えていきます。</p>	
	中等特別活動論	<p>特別活動は、教育課程に規定された教育活動であり、授業時間割に位置づけて指導する必須の科目です。と同時に、学校教育の中で児童生徒の全人格的で健全な成長発達をすすめていく上で、意図的計画的な学校年間計画（学年年間計画・学級年間計画）をもって活動を組織運営していく体験的実践的教育活動です。</p> <p>また、特別活動は、主要教科と呼ばれる学力よりも軽視されがちな傾向がありますが、今日的な児童生徒の課題実態や未来を創造する生きる力の育成を考える時、それらの解決・改善と同時に向上・充実を図る教育的な役割は大きいものと考えます。</p> <p>こうしたことから、特別活動の特質たる目標・内容・方法などについて、理論と実践化の両面から理解が図られるようにしたいと思います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等教育方法論	中・高の教員をめざす学生の必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が修得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
	中等生徒・進路指導論	「生徒指導」は、学習指導と並び立つ全生徒を対象にした教育活動で、学習指導要領に示されている「生徒指導の意義」をふまえて実施される学校教育において重要な教育機能の一つです。生徒の人格形成を促す上で大きな役割を担っている「生徒指導」の理論と実際について、基本的な知識理解が図れるようにします。 また、生徒・進路指導に関する今日的な課題に関心と将来の展望をもって、教育専門職として生徒指導に求められる資質や能力に資する意欲や態度を培うことができるようにしたいと思います。	
	中等教育相談	中・高の教員をめざす者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成をめざして講義を中心にしていきます。 大きな柱としては、 (1)学校における教育相談の意義 (2)教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の修得 (3)教育相談の遭遇する諸問題と連携 以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的な関わりのセンスを修得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習事前事後指導	<p>教育実習Ⅰ・Ⅱへの参加に際して、まずその実習の意義を前もって理解しておく必要があります。そのため、随時の事前指導を行います。なお、その一環として、3年次に協力校における観察実習指導を行います。(詳細については、中等社会科教育法A・中等社会科教育法演習Aの授業時に指示します。)</p> <p>また、実習後には、その体験によって得られたものを再確認することにより、免許状取得に向けて、教員として求められる諸能力の定着をはかることをめざして、事後指導を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全7回) (82 西森 章子/2回) &lt;事前指導&gt; ・協力校における観察実習指導 ・教育実習に際しての心構え</p> <p>(29 笹尾 省二/5回) &lt;事前指導&gt; ・教職員の職務 ・教材研究の方法 ・学習指導案の作成法 &lt;事後指導&gt; ・授業に関する体験の共有 ・教員の仕事に関する体験の共有</p>	オムニバス方式
	教育実習Ⅰ	<p>中学校教員をめざす者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>現在の教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。</p> <p>教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。</p> <p>具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習Ⅱ	<p>中学校、高等学校教員をめざす者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>現在の教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。</p> <p>教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。</p> <p>具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験し、その後、これらの体験で得られた理解をもとに、実際の授業実践を行います。</p>	
	教職実践演習 (中・高)	<p>この科目の履修を通じて、将来教員として務めるために、自己にとって何が課題であるのかという自覚のうえに、必要とされる知識や技能を補うことを可能とする学習能力を獲得させることをめざします。そのため、少人数クラスによる演習形式で、具体的な事例研究に基づくグループ討論やロールプレイング、実地見学、各教科内容の模擬授業の実施など、実践的な学習を行わせます。また、そのような集団的な活動とは別に、必要に応じて、履修カルテに基づく個別指導を行います。</p>	
	差別問題論	<p>《社会問題としての差別》は、いつか・どこかにあるものではありません。それは、私たちをとりまく具体的な日常の関係性・常識などの中に見ることができるのです。差別問題は社会的なことであるにもかかわらず、「傷つく」などといった、個人的な「心(心がけ)」の問題として語られることの方が多く、さらには、非日常的な、私たちから遠いものとして処理されています。ところが、こういったとらえ方自体に差別問題を考えていく際のポイントがあるのです。まずは、「差別とは何か？」から考えはじめることが求められます。</p> <p>本講義では、部落差別、性差別、障害者差別、民族差別等々の構造を社会科学的に明らかにすることで、上に述べたことを検証していきます。</p> <p>なお、講義の各時間終了後に感想・意見・質問をコミュニケーションカードに書いてもらい、それに対して次の時間に応えます。また受講生同士の紙上討論を展開していく、といったコミュニケーションシステムをとります。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニティ学部地域行政学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人権教育論	<p>本講義は、差別問題・人権問題が私たちの日常生活と密接に関連しているという事実に立脚し、これらの問題に対して教育には何が可能で、何をなすべきかを具体的な状況設定を行いながら検討していきます。その時、「仏つくって魂入れず」といった単なるハウ・ツーではなく、自分はいったい何を伝えたいのか、という問いから出発（もちろん、その問いは科目担当者も免れうるものではありません）することによって、グローバルスタンダードにも通用する差別問題学習＝人権教育をめざします。そのためには、部落差別問題をはじめ様々な差別問題に対する歴史的なまなざし、社会科学的なまなざしとともに、表現力も身につけていかねばなりません。その意味においても、講義の各時間出席確認を兼ねた感想・意見・質問をコミュニケーション・カードに記載し、それらに対して次の時間に応えるというコミュニケーション・システムをとります。</p>	

## 学校法人修道学園 設置認可等に関する組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>広島修道大学</b>				<b>広島修道大学</b>				
商学部 商学科	155	—	620	商学部 商学科	155	—	620	
商学部 経営学科	155	—	620	<u>商学部 経営学科</u>	<u>140</u>	—	<u>560</u>	定員変更 (△15)
経済科学部 現代経済学科	115	—	460	経済科学部 現代経済学科	115	—	460	
経済科学部 経済情報学科	115	—	460	経済科学部 経済情報学科	115	—	460	
人文学部 人間関係学科 社会学専攻	60	—	240	人文学部 人間関係学科 社会学専攻	60	—	240	
人文学部 教育学科	100	—	400	人文学部 教育学科	100	—	400	
人文学部 英語英文学科	110	—	440	人文学部 英語英文学科	110	—	440	
法学部 法律学科	220	—	880	<u>法学部 法律学科</u>	<u>195</u>	—	<u>780</u>	定員変更 (△25)
法学部 国際政治学科	80	—	320					
人間環境学部 人間環境学科	145	—	580	<u>人間環境学部 人間環境学科</u>	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更 (△30)
健康科学部 心理学科	80	—	320	健康科学部 心理学科	80	—	320	
健康科学部 健康栄養学科	80	—	320	健康科学部 健康栄養学科	80	—	320	
計	1,415	—	5,660	<u>国際コミュニティ学部 国際政治学科</u>	<u>75</u>	—	<u>300</u>	学部の設置 (届出)
				<u>国際コミュニティ学部 地域行政学科</u>	<u>75</u>	—	<u>300</u>	学部の設置 (届出)
				計	<u>1,415</u>	—	<u>5,660</u>	
<b>広島修道大学大学院</b>				<b>広島修道大学大学院</b>				
商学研究科 商学専攻 (M)	8	—	16	商学研究科 商学専攻 (M)	8	—	16	
商学研究科 商学専攻 (D)	2	—	6	商学研究科 商学専攻 (D)	2	—	6	
商学研究科 経営学専攻 (M)	12	—	24	商学研究科 経営学専攻 (M)	12	—	24	
商学研究科 経営学専攻 (D)	3	—	9	商学研究科 経営学専攻 (D)	3	—	9	
経済科学研究科 現代経済システム専攻 (M)	8	—	16	経済科学研究科 現代経済システム専攻 (M)	8	—	16	
経済科学研究科 現代経済システム専攻 (D)	2	—	6	経済科学研究科 現代経済システム専攻 (D)	2	—	6	
経済科学研究科 経済情報専攻 (M)	8	—	16	経済科学研究科 経済情報専攻 (M)	8	—	16	
経済科学研究科 経済情報専攻 (D)	2	—	6	経済科学研究科 経済情報専攻 (D)	2	—	6	
人文科学研究科 心理学専攻 (M)	5	—	10	<u>人文科学研究科 心理学専攻 (M)</u>	<u>14</u>	—	<u>28</u>	定員変更 (9)
人文科学研究科 心理学専攻 (D)	2	—	6	人文科学研究科 心理学専攻 (D)	2	—	6	
人文科学研究科 社会学専攻 (M)	5	—	10	人文科学研究科 社会学専攻 (M)	5	—	10	
人文科学研究科 教育学専攻 (M)	5	—	10	人文科学研究科 教育学専攻 (M)	5	—	10	
人文科学研究科 英文学専攻 (M)	5	—	10	人文科学研究科 英文学専攻 (M)	5	—	10	
人文科学研究科 英文学専攻 (D)	3	—	9	人文科学研究科 英文学専攻 (D)	3	—	9	
法学研究科 法律学専攻 (M)	5	—	10	法学研究科 法律学専攻 (M)	5	—	10	
法学研究科 国際政治学専攻 (M)	10	—	20	法学研究科 国際政治学専攻 (M)	10	—	20	
計	85	—	184	計	94	—	202	